

令和4年度千曲市立地適正化計画改定に係る
基礎調査等業務委託

報 告 書

令和5年3月

千曲市都市計画課
(株)日本海コンサルタント

目 次

第1章. 業務概要	1
第2章. 上位・関連計画	2
1. 上位計画（都市計画関連）	2
2. 関連計画（防災関連）	8
第3章. 千曲市の現況	12
1. 位置・面積	12
2. 土地利用・地形	13
3. 法規制	14
4. 人口	16
5. 地区別人口（100mメッシュ）	20
6. 将来人口（100mメッシュ）	28
7. 開発状況	30
8. 未利用地等	32
9. 公共交通	36
10. 都市施設	40
11. その他	54
第4章. 千曲市の災害	56
1. 過去の災害履歴	56
2. 地震	57
3. 土砂災害	59
4. 水害（L1）	60
5. 水害（L2）	62
6. 水害（浸水継続時間）	64
7. 指定緊急避難場所	66
8. 指定避難所	68
9. 水害（L1とL2の比較）	70
第5章. 災害リスクと都市情報の重ね合わせ	72
1. 人口×浸水想定区域（L1）	72
2. 高齢化率×浸水想定区域（L1）	74
3. 人口×浸水継続時間（L2）	76
4. 居住誘導区域毎のリスク分析	77

第1章. 業務概要

1. 業務名称

- ・令和4年度千曲市立地適正化計画改定に係る基礎調査等業務委託

2. 業務場所

- ・千曲市全域

3. 業務期間

- ・令和4年7月13日～令和5年3月17日

4. 発注者

- ・千曲市都市計画課

5. 受注者

- ・(株)日本海コンサルタント 社会事業本部 計画研究室

6. 業務の目的

- ・千曲市立地適正化計画における施策の実施状況の評価等を行うとともに、計画の改定及び防災指針の作成に向けた基礎調査、調査データの分析を行うことを目的とする。

7. 業務内容

- ・検証・評価 ----- 一式
- ・計画の改定に向けた最新情報の収集・整理、基礎調査、調査データの分析----- 一式
- ・防災指針の作成に向けた情報の収集・整理・分析 ----- 一式
- ・会議等の運営支援等 ----- 一式

8. 成果品

- 1) 報告書 ----- 5部
- 2) 報告書概要版 ----- 100部
- 3) 報告書電子データ ----- 一式
- 4) その他、関係資料 ----- 一式

第2章. 上位・関連計画

1. 上位計画（都市計画関連）

(1) 第三次千曲市総合計画（R4.4策定）

総合計画は、市の将来像を掲げ、その実現に向けたまちづくりの方向性や施策を総合的に示し、計画的に市の仕事を行うための計画で、市政運営の最上位計画と位置付けられる上位計画です。

第三次千曲市総合計画では、千曲市の将来像を『人をてらす 人をはぐくむ 人がつながる 月の都 ～文化伝承創造都市・千曲～』とするとともに、基本目標を達成するために展開していく具体的なまちづくりの指針として、千曲市の将来像を実現するための7つの基本目標および達成方針を定めています。



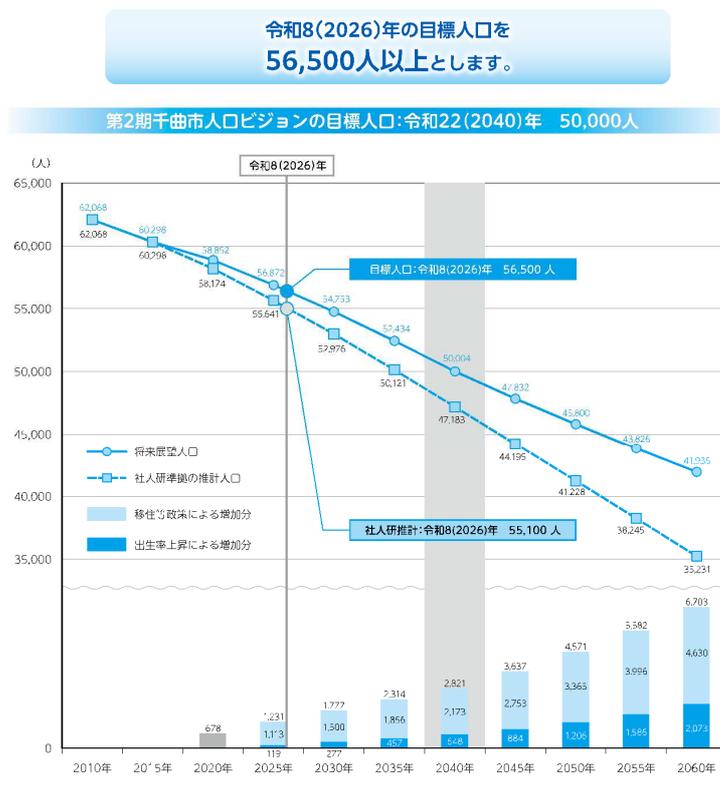
【第三次千曲市総合計画における目標体系】



第三次千曲市総合計画の中では、総合計画と密接に関連する計画として、人口減少を最小限に抑え、懸念される人口減少と地域活力縮小の克服に努め、安心して暮らせるまちづくり、活力を持続できるまちづくりを進めていくための「第2期千曲市人口ビジョン」および「第2期千曲市まち・ひと・しごと創生総合戦略」が位置付けられています。

人口ビジョンでは、令和8年(2026年)の目標人口を56,500人以上、令和22年(2040年)の目標人口を50,000人と設定しています。

【人口ビジョンにおける目標人口】



また、まちづくりの基本目標では、「災害に強く、安全で安心な暮らしができるまち」として、災害復興や安心して暮らせるまちづくり、交通ネットワークの整備や持続可能なまちづくりなどを方針として定めています。

【まちづくりの基本目標1の内容】

まちづくりの基本目標 **1** 災害に強く、安全で安心な暮らしができるまち

1-1 復興計画の着実な推進と災害に強いまちをつくる

令和元年東日本台風災害を教訓に、「信濃川水系緊急治水対策プロジェクト」による河川整備などのハード対策と地域連携によるソフト対策を一体的に進めることで、被害の軽減、減災に向けた取組みを推進し、災害発生時の確実な情報収集と情報伝達に努め、市民一人ひとりが率先して避難行動をとることで「逃げ遅れゼロ」を目指します。

そして、様々な災害から市民の生命、財産及び暮らしを守るため、「自助」、「共助」の市民意識の向上と「公助」により被害を最小限に抑制できる事前の体制整備を進めます。また、早期の復旧・復興が図れる災害に強く安全確保を最優先としたまちづくりを進め、防災意識の高揚と災害に強いまちづくりに努めます。

さらに、新型コロナウイルス感染症などの感染対策を実施し、避難者支援及び被災者の速やかな生活再建を図るため、被災者支援体制の整備を推進します。

1-2 誰もが安全で、安心して暮らせるまちをつくる

市民一人ひとりの交通安全意識の高揚を図るとともに、誰もが安全に行き交うことができる道路整備を進め、安全で暮らしやすいまちを目指します。

また、市民の防犯意識を高め、家庭・地域・学校・ボランティア・関係団体などが連携して防犯活動に取り組むことで、まちの安全性を高め、市民が安心して暮らせる環境づくりに努めます。

1-3 交通と生活に便利な交通ネットワークが整備されたまち

鉄道、バス、タクシーなどの事業者との公民連携を図り、利便性を高めます。また、近隣市町との広域連携を推進し、公共交通機関の利用促進と、持続可能な社会の実現に向けた自転車の活用など、広域的な公共交通網の充実や環境に配慮した交通環境の形成を図ります。

循環バスについては、公共施設や市民ニーズの高い生活拠点などを結ぶルートを設定し、利便性の向上に努めるとともに、AIなどの技術革新による新たなモビリティ・サービスについても研究します。また、新たな鉄道の利便性の更なる向上を図ります。

新型コロナウイルス感染症対策としては、循環バス車内の定期的な消毒、換気などを徹底し安全・安心な運行管理に努めます。

1-4 快適で便利な、持続可能なまちをつくる

交通の要衝である地の利と利便性の高い立地条件を生かしながら、長期的視点に立った土地利用を進め、安全性や快適性に優れた暮らしを支える都市基盤の形成を図りながら、公園、道路、橋梁、上下水道などの既存ストックを適正に維持管理するとともに、グリーンインフラの推進により、緑や水辺空間の創出による安らぎと潤いに満ちた良質な都市空間を形成します。

また、換乗スマートインターチェンジのフル規格化や新国道バイパスなど、広域的な幹線交通網の整備を促進し、人・モノ・文化の流れを市内全域に波及・循環させる幹線道路の整備を進めます。

さらに、産業連携道路ネットワークの整備や新たなスマートインターチェンジの設置など、良好な都市基盤の整備を進め、広域交流拠点など、市街地を誘導する地区への計画的な開発を誘導し、産業基盤の形成による高度な土地利用を図ります。

3

(2) 千曲市都市計画マスタープラン (H31.3 策定)

都市計画マスタープランは、まちづくりの具体的な将来ビジョンを確立して地域別のあるべき市街地像を示すとともに、課題に応じた整備方針、地域の都市生活、経済活動等を支える諸施設の計画等を総合的に定めた都市計画の方針であり、立地適正化計画と密接に関連する上位計画です。

千曲市都市計画マスタープランでは、第二次千曲市総合計画に即し、『科野の国 さらしな はにしな 史都がにぎわう 信州の交流拠点 千曲』を将来都市像とし、都市づくりの基本理念として、また「共生のまちづくり」「交流のまちづくり」「協働のまちづくり」の3つを都市づくりの基本理念としています。



【第二次千曲市総合計画】

【都市づくりの課題と基本方針】

【将来都市像】

科野の国 さらしな はにしな
史都がにぎわう 信州の交流拠点 千曲

【都市づくりの基本理念】

- ◆共生のまちづくり
市民一人ひとりの尊厳や人権が尊重され、個性や価値観を認め合う社会をつくるとともに、次代を担う若者をはじめ、あらゆる世代が共生し、未来への夢と希望を持って自分らしい生活と文化を創造できるまちを目指します。
- ◆交流のまちづくり
高速交通網が集積する要衝の地、輝かしい歴史や文化、自然など、地域資源の特性を活かし、新しい産業や文化を育むため、国内外のさまざまな分野との活発な交流や連携を進めます。また、人やまちの個性を磨き、魅力あるまちを舞台に躍動感に満ちた多彩な活動が展開される、創造性あふれるまちを目指します。
- ◆協働のまちづくり
まちづくりの主役は市民一人ひとりです。自主・自立のまちづくりを実現していくため、市民とまちづくりへの共通の想いを持ちながら、さまざまな分野で特色のある人材を育む人づくりを進め、多彩な力が発揮できる協働のまちづくりを進めます。

都市づくりの課題

- (1) 都市機能の集約による環境負荷の低減
- (2) 都市機能の適切な分担
- (3) 産業機能の活性化
- (4) 拠点間の連携強化
- (5) 森林、農地など地域資源の保全と活用
- (6) 自然と調和した環境、景観の形成
- (7) 安全性・安心性・快適性の確保
- (8) 市民、地元企業・団体等との協働
- (9) 地域特性を踏まえた課題への対応
- (10) 効率的かつ効果的な都市の経営

都市づくりの目標と基本方針

- (1) 人・まち・自然環境が共生する都市づくり
 - ① 都市拠点を中心とする集約型の市街地づくり
 - ② 環境負荷の低減を目指した都市づくり
 - ③ 千曲川と里山が身近に感じられる市街地づくり
- (2) 支えあい安心して生き生きと暮らせる都市づくり
 - ① 安心して暮らせる災害に強いまちづくり
 - ② 子供から高齢者まで快適に暮らせる地域社会の形成
 - ③ 歩いて暮らせる生活空間づくり
- (3) 活力に満ち交流の盛んなにぎわいのある都市づくり
 - ① 魅力ある市街地空間づくり
 - ② 立地特性を活かした広域的な交流
 - ③ さまざまな人との交流
 - ④ 地域経済の活性化
- (4) 地域資源を活かし愛着と誇りが持てる都市づくり
 - ① 魅力ある地域資源の保全・活用・継承
 - ② 農村環境の維持・向上
 - ③ 計画的に整備された都市施設の有効活用
- (5) 多様な主体の協働による市民が輝く都市づくり
 - ① 市民や団体等の参画
 - ② 千曲の応援団づくり
 - ③ 行政による協働の仕組みの検討や支援
 - ④ 広域的な連携による公共施設の利用促進と効率的な運用

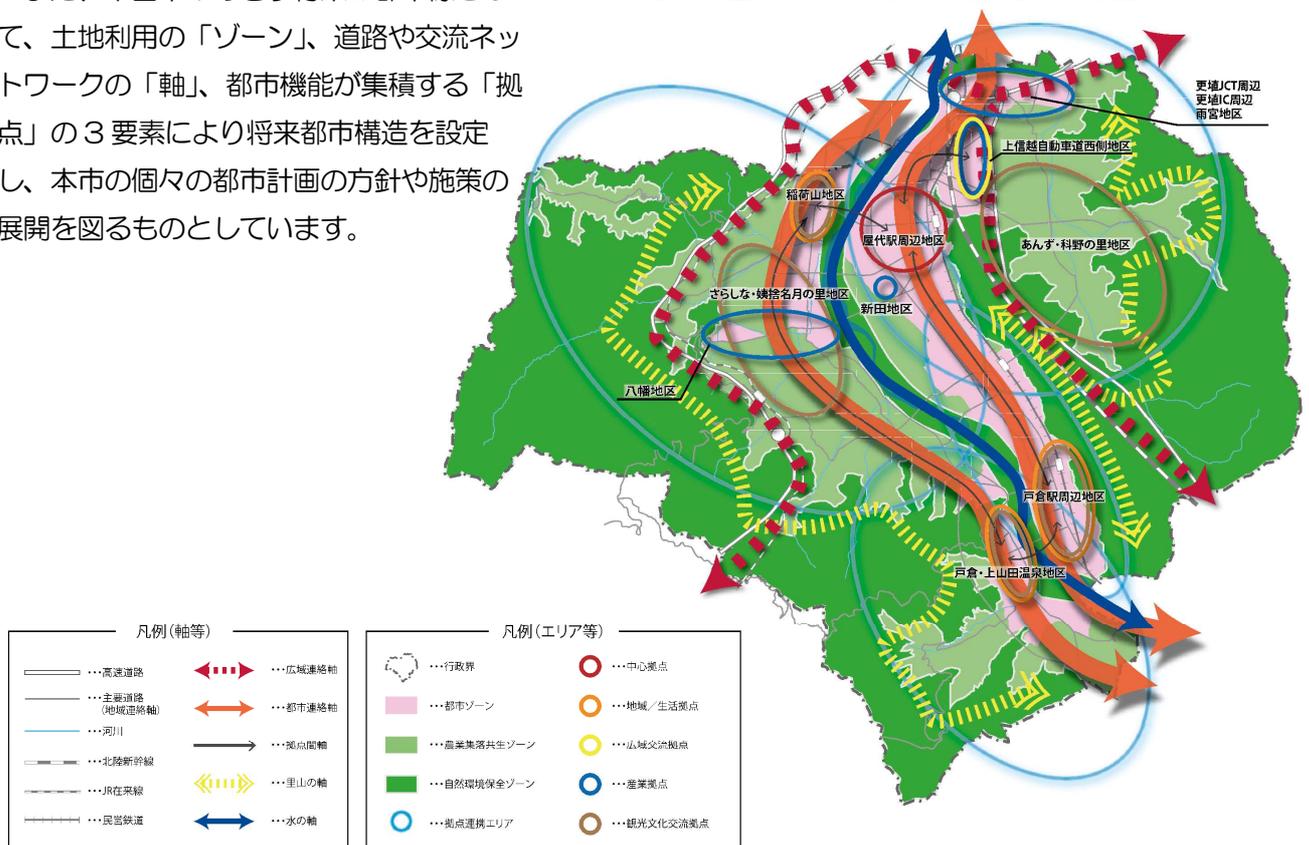
都市づくりの基本方針では、「(1)人・まち・自然環境が共生する都市づくり」の中で「都市拠点を中心とする集約型の市街地づくり」、「(2)支えあい安心して生き生きと暮らせる都市づくり」の中で「安心して暮らせる災害に強いまちづくり」、「歩いて暮らせる生活空間づくり」などを定めています。

【都市づくりの基本方針（抜粋）】

<p>(1)人・まち・自然環境が共生する都市づくり</p> <p>① 都市拠点を中心とする集約型の市街地づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 人口減少・少子高齢社会の到来を見据え、市街地では、必要な都市機能が駅周辺等集積する集約型の都市構造へと転換を図ります。この転換を進めるために、中心となる都市拠点を位置付けます。 ● 集約型の市街地づくりを進めるため、都市拠点として「中心拠点」、「地域／生活拠点」、「広域交流拠点」のほか、「産業拠点」を設定し、公共交通を「拠点間軸」として位置づけ、「コンパクト・プラス・ネットワーク[※]」の形成を図ります。 ● 既存の市街地においては、公園・緑地等の都市基盤の計画的な整備により、緑豊かでゆとりある居住空間とにぎわいのある中心地とが一体となった市街地づくりを進めます。 ● 郊外に広がる市街地においては、人口減少に伴い低密度化が進行する恐れがあるため、都市機能の維持を図りつつ、ゆとりある良好な住環境を有する市街地のあり方の検討を進めます。 ● 歩いて暮らせる地域社会の実現と環境負荷の低減を目指し、「千曲市地域公共交通網形成計画」等と連携し、鉄道やバスなどの公共交通のネットワーク化を推進します。 ● 各拠点や地域に必要な都市機能を定め、「公共施設等総合管理計画」と連携し、人口減少・少子高齢社会に対応した適切な都市施設のマネジメントを図ります。 ● 今後進行することが想定される都市のスポンジ化[※]に対応するため、上位・関連計画や立地適正化計画施策を推進し、空き地や空き家等の低未利用地[※]の有効活用を進めます。 	<p>(2)支えあい安心して生き生きと暮らせる都市づくり</p> <p>① 安心して暮らせる災害に強いまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地震や豪雨等による自然災害に対する防災力を高めるため、河川、砂防施設整備や代替補完機能を持つ交通体系の構築を図るとともに、災害発生時における危機管理体制の構築を図り、ライフライン[※]の迅速かつ円滑な復旧事業を行い、被害や影響を最小限にとどめることのできる災害に強いまちづくりを進めます。 ● 災害時の避難、救急車両の通行や延焼遮断帯[※]として役立つ道路、公園・緑地等、災害に強い都市施設整備を進めるとともに、建物の不燃化・耐震化の促進、宅地開発規制、防犯に配慮した市民の目の行き届いた生活環境など安全・安心な生活空間の実現を図り、防災、防犯性の高いまちづくりを進めます。 <p>③ 歩いて暮らせる生活空間づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自治会や常会などコミュニティを基礎とする生活空間づくりを目指します。生活空間においては、日常生活に必要な機能の集積や良好な居住環境の形成とともに、歩いて暮らせる日常生活圏を形成します。 ● 日常生活圏においては、最寄りの商店、小中学校や医院等の日常生活に不可欠な機能が歩いて利用できるよう、土地利用の誘導や諸機能の確保を図るとともに、最寄り駅までの循環バス等の公共交通アクセスの強化を進めます。 ● 歩いて暮らせる地域社会の実現と環境負荷の低減を目指し、「千曲市地域公共交通網形成計画」等と連携し、鉄道やバスなどの公共交通のネットワーク化を推進します。（再掲）
---	---

また、千曲市がめざす将来の都市像として、土地利用の「ゾーン」、道路や交流ネットワークの「軸」、都市機能が集積する「拠点」の3要素により将来都市構造を設定し、本市の個々の都市計画の方針や施策の展開を図るものとしています。

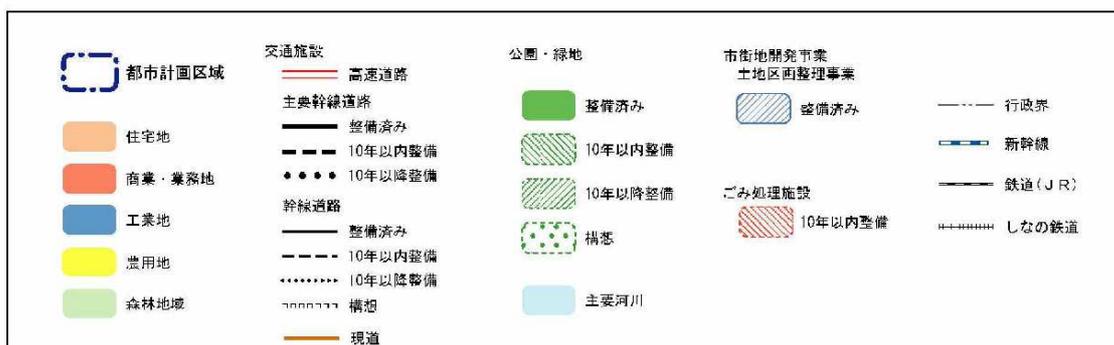
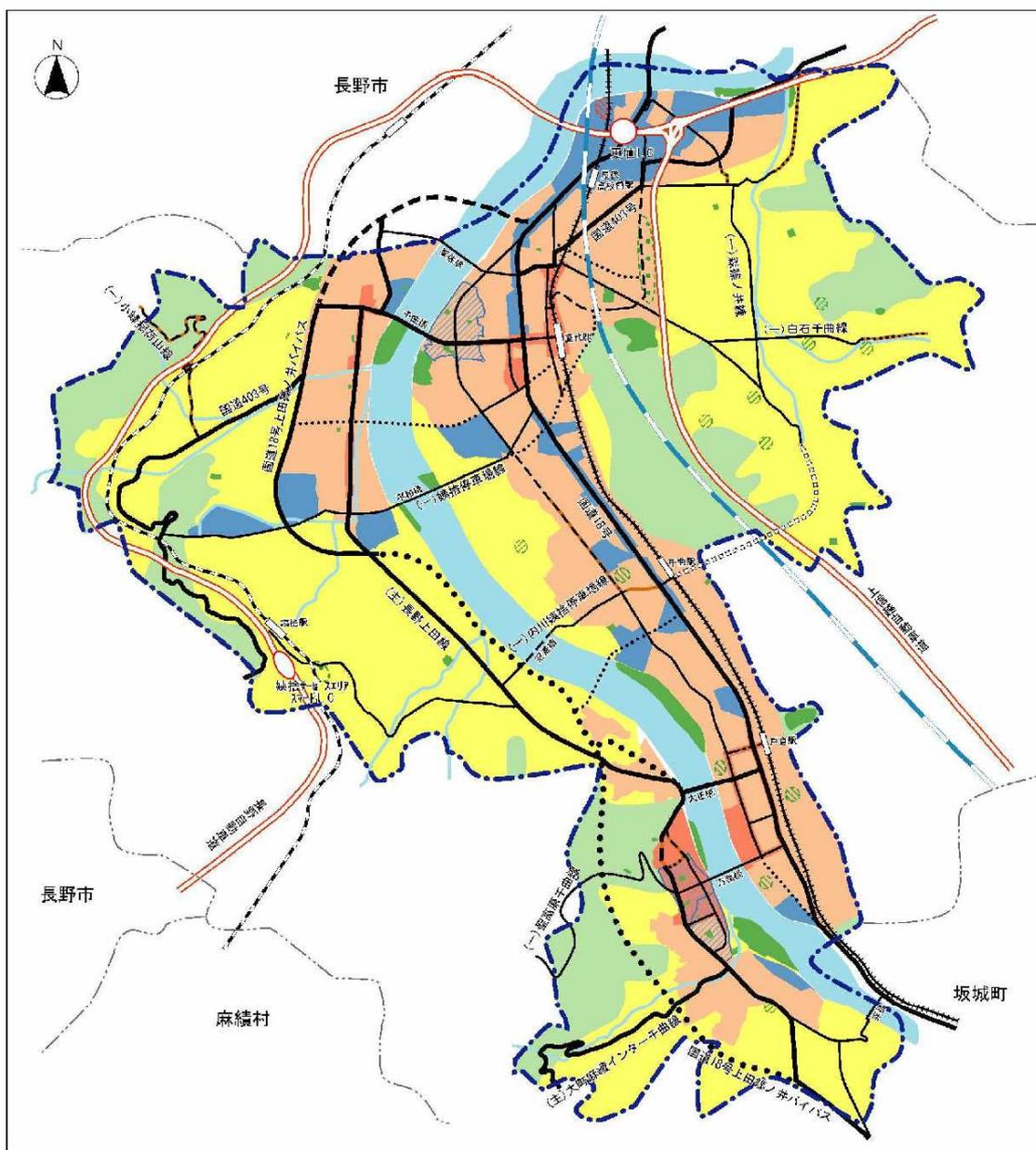
【都市計画マスタープランの将来都市構造図】



(3) 千曲都市計画区域マスタープラン (H25.3策定)

都市計画区域マスタープラン（都市計画区域の整備、開発及び保全の方針）は、長野県内の全ての都市計画区域について、①都市計画の目標、②区域区分の決定の有無及び区分する場合はその方針、③主要な都市計画の決定方針 を定める計画であり、概ね20年後の都市の姿を展望しつつ、概ね10年後を目標年次としています。

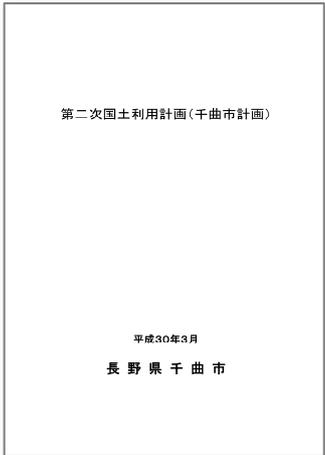
【都市計画区域マスタープラン附図】



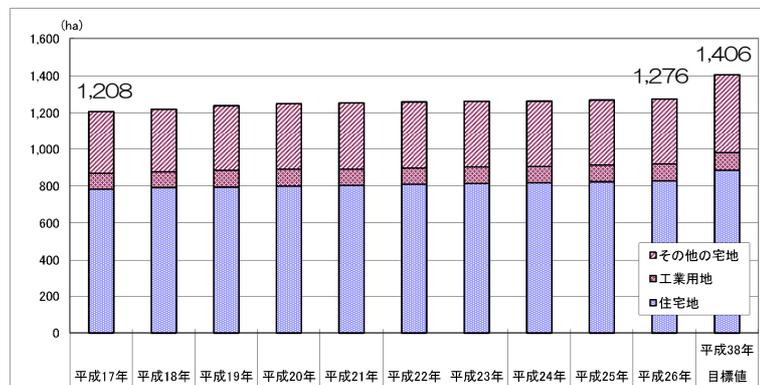
(4) 第二次国土利用計画（千曲市計画）（H30.3策定）

国土利用計画は、国土利用計画法第2条に示された国土利用の基本理念に即して、健康で文化的な生活環境の確保と均衡ある持続的発展を目的として、千曲市の区域における国土（市土）の利用に関する必要な事項を定めた計画であり、本市の土地利用に関する行政上の指針となるものです。

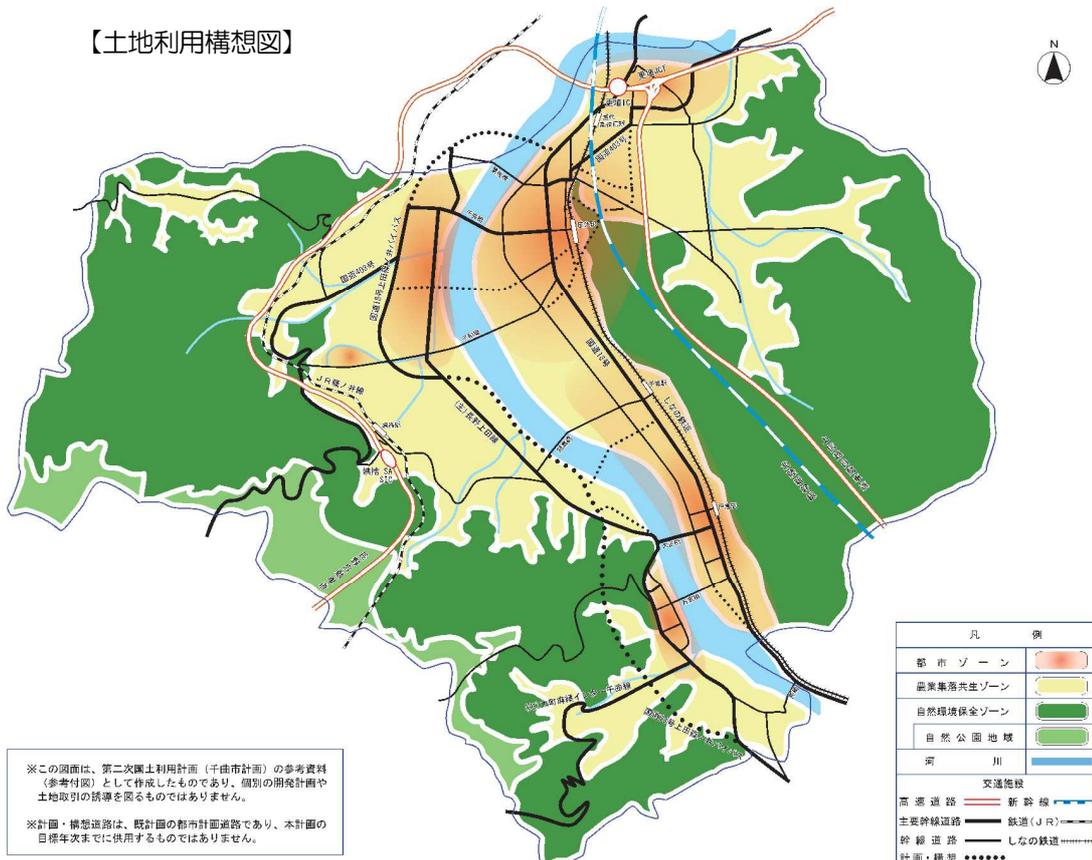
計画においては、市土利用の基本方針として、『今後の市土利用は、懸念される人口減少と地域活力縮小の克服に向けて、「コンパクト+ネットワーク」の視点を踏まえ都市機能を集約しつつ、地域を結ぶネットワークや産業立地による活力ある都市の形成、良好な環境・景観の創出と保全、震災や風水害などへの防災・減災対策による市民生活の安全・安心・安定の確保など、市土の量的調整と質的向上を図り、有限な資源の利用・保全に努め、より良い状態で市土を次の世代へ引き継ぐ「持続可能な土地の管理」を行います。』とされています。



【宅地面積の推移と目標】



【土地利用構想図】



2. 関連計画（防災関連）

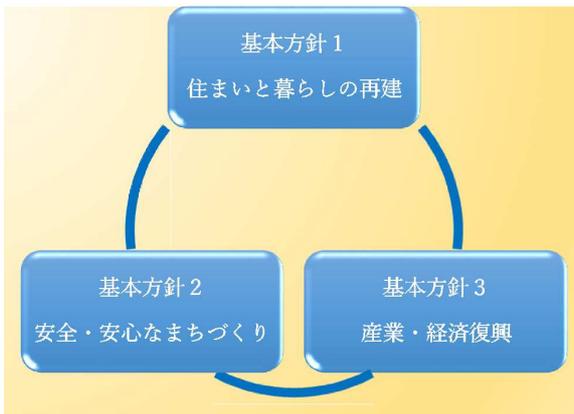
(1) 千曲市復興計画（R3.3策定）

令和元年台風による被災からの迅速な復旧と被災の経験をふまえた防災力の向上、そして市民と行政が一体となった災害に強いまちを目指し、すべての市民が再び安心して生活できることを目標に策定された計画であり、第二次千曲市総合計画の基本目標4に掲げる「災害に強く、安全で心穏やかに暮らせるまちづくり」の実現のために目指すべき、まちづくりの指針です。

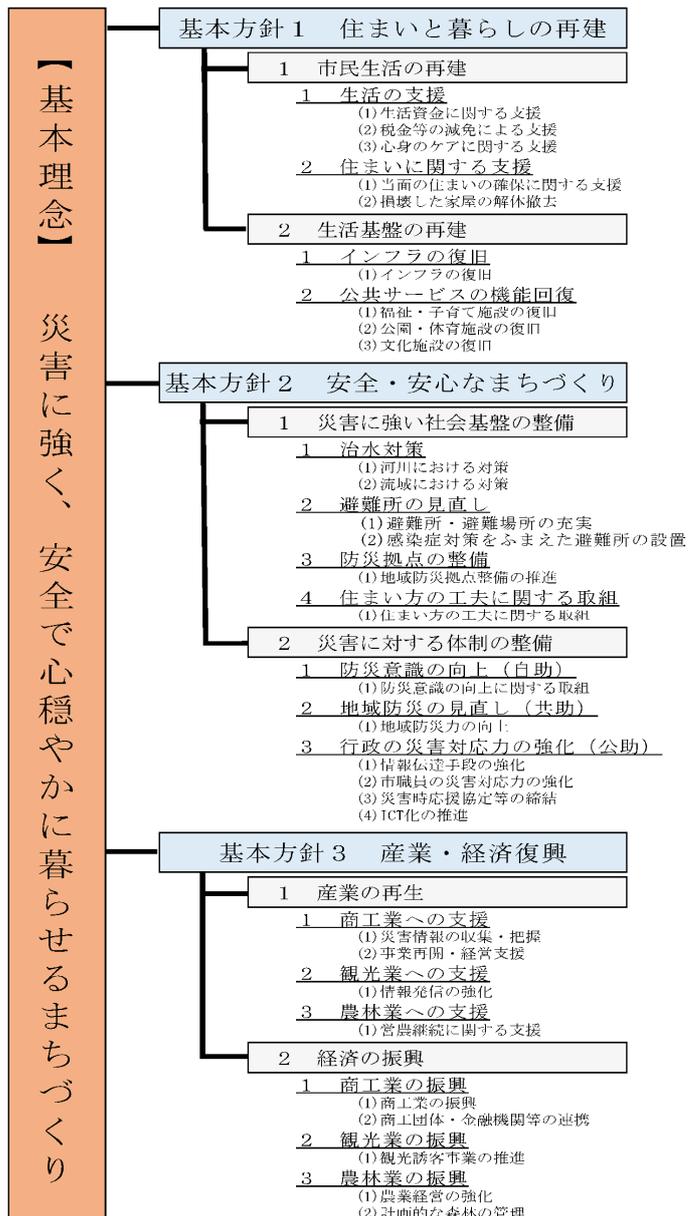
計画では、基本理念を『災害に強く、安全で心穏やかに暮らせるまちづくり』とし、この基本理念を支える「住まいと暮らしの再建」、「安全・安心なまちづくり」、「産業・経済復興」の3つを基本方針として位置づけ、それらの下に具体的な防災対策を位置付けています。



【3つの基本方針】



【基本方針の体系】



(2) 千曲市国土強靱化地域計画 (R3.3 策定)

東日本大震災を契機とし平成 25 年 12 月に施行された国土強靱化基本法に基づき、大規模自然災害に備えるため、「事前防災・減災」及び「迅速な復旧・復興」に資する施策を実施していくための計画です。

様々な災害による最悪の事態の想定・分析（リスクシナリオの設定）を行うことで、市民や社会基盤等への被害を抑える対策を計画に組み込むとともに、事前の備えとして事業を実施していくことで、災害時においても市民の日常が守られる強靱なまちづくりを進めていくことを目的としています。



【計画で想定しているリスクシナリオ】

基本目標	番号	起きてはならない最悪の事態
1.人命の保護が最大限図られること	1-1	住宅の倒壊や、住宅密集地の火災による死傷者の発生
	1-2	多数の者が利用する施設の倒壊・火災による死傷者の発生
	1-3	豪雨による河川の氾濫に伴う住宅などの建築物の浸水による多数の死傷者の発生
	1-4	土石流、地すべり等の土砂災害による死傷者の発生
	1-5	避難勧告・指示の判断の遅れや、情報伝達手段の不備に伴う避難の遅れによる死傷者の発生
2.負傷者等に対し、迅速に救助、救急活動が行われること	2-1	長期にわたる孤立集落等の発生（大雪を含む）や、被災地での食料、飲料水等の長期にわたる不足
	2-2	消防機能、医療機能低下による救助・救急体制の不足
	2-3	被災地における疫病・感染症等の大規模発生
3.必要不可欠な行政機能、情報通信機能は確保すること	3-1	市役所をはじめとする地方行政機関の大幅な機能低下
	3-2	停電、通信施設の倒壊による情報通信・交通の麻痺・長期停止
	3-3	テレビ・ラジオ放送の中断等により災害情報が必要な者に伝達できない事態
4.必要最低限のライフラインを確保し、早期復旧ができること	4-1	上水道等の長期間にわたる供給停止
	4-2	汚水処理施設等の長期間にわたる機能停止
	4-3	地域交通ネットワークが分断する事態
5.流通・経済活動を停滞させないこと	5-1	自社の事業用資産に損害等の被害が生じ、再建・再構築に時間を要することによる経済活動の停止・減少
	5-2	サプライチェーンの途絶等に伴う企業の生産力低下による経済活動の麻痺
	5-3	食料・飲料水等の安定供給の停滞
6.二次的な被害を発生させないこと	6-1	ため池、ダム等の損壊・機能不全による二次災害の発生
	6-2	有害物質の大規模拡散・流出
	6-3	農地・森林等の荒廃
	6-4	避難所等における環境の悪化
7.被災した方々の日常の生活が迅速に戻る	7-1	大量に発生する災害廃棄物の処理の停滞により復旧・復興が大幅に遅れる事態
	7-2	倒壊した住宅の再建が大幅に遅れる事態

具体的な対応方針の設定

(3) 千曲市地域防災計画 (R4.2 改定)

災害対策基本法第 42 条の規定に基づき、千曲市防災会議が策定した計画です。

千曲市域に係る災害に関し、千曲市及び千曲市の防災に関わりのある国・県・周辺市町村等の関係機関が、その全機能を有効に発揮して、市民や事業所等の協力のもと、災害予防、災害応急対策及び災害復旧・復興等の災害対策を実施することにより、市民の生命、身体及び財産を災害から保護することを目的としています。

扱う災害の種類に応じた「風水害対策編」「震災対策編」「原子力災害対策編」「その他災害対策編」などがあり、それぞれに対して災害に対する備えを扱う「災害予防計画」、発災の際の対応を扱う「災害応急対策計画」、復旧・復興の対応を扱う「災害復旧計画」を定めています。

千曲市地域防災計画

千曲市防災会議

(4) 千曲市水防計画 (H25.12 策定、R4.2 改定)

本市は長野県より水防法第 4 条に基づいた指定水防管理団体の指定を受けており、法第 33 条第 1 項の規定に基づき、河川等に対する水防上必要な事項を定め、市の水害発生に際しての被害の軽減を図ることを目的としています。

計画で定める内容は、洪水が発生する可能性がある際の行動指針であり、水防組織、予報および警報、水防活動、水防施設などの行動についての詳細が定められています。

なお、水防計画は地域防災計画と密接に関連しており、活動内容の詳細は地域防災計画の内容に準拠することとしています。

千曲市水防計画

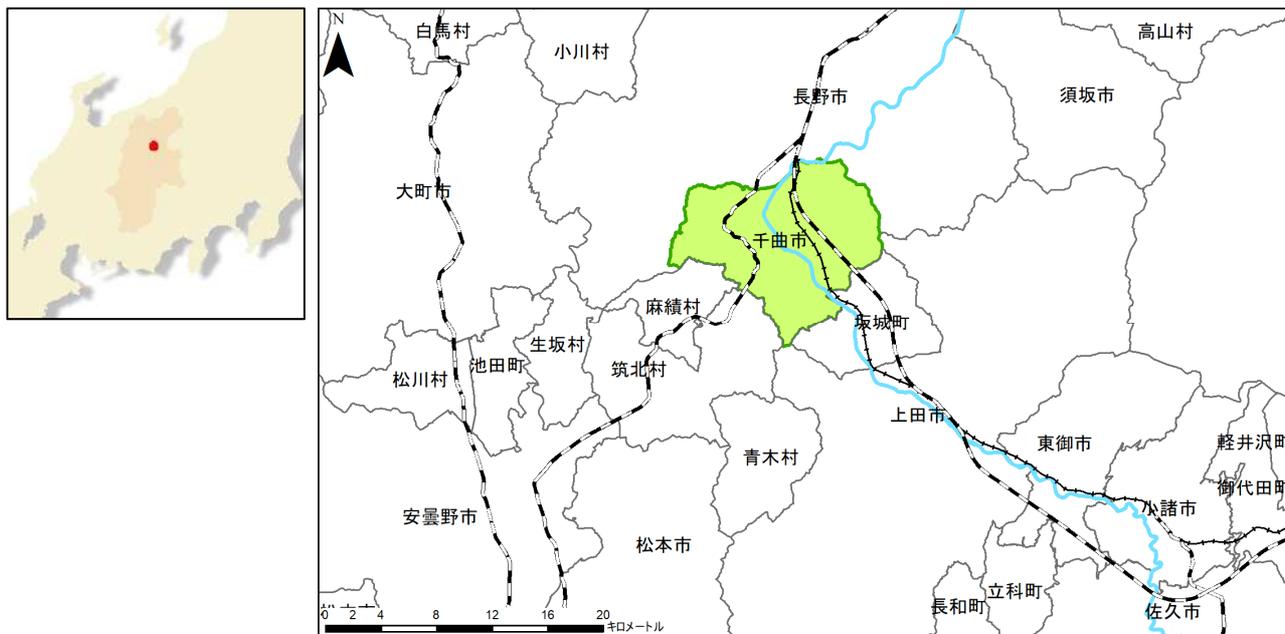
千曲市防災会議

第3章. 千曲市の現況

1. 位置・面積

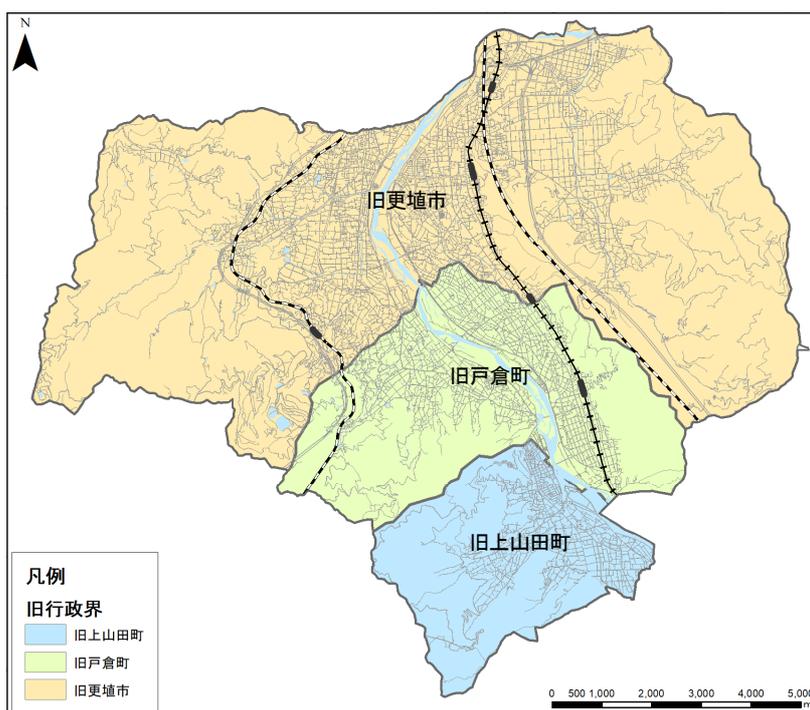
(1) 位置、地勢

千曲市は、長野県北信地域の南東部に位置し、北は長野市に接しています。市のほぼ中央を、南東から北東に大きく曲がりながら千曲川が流れ、千曲川をはさんで両岸には平坦部が広がっています。



(2) 合併の経緯

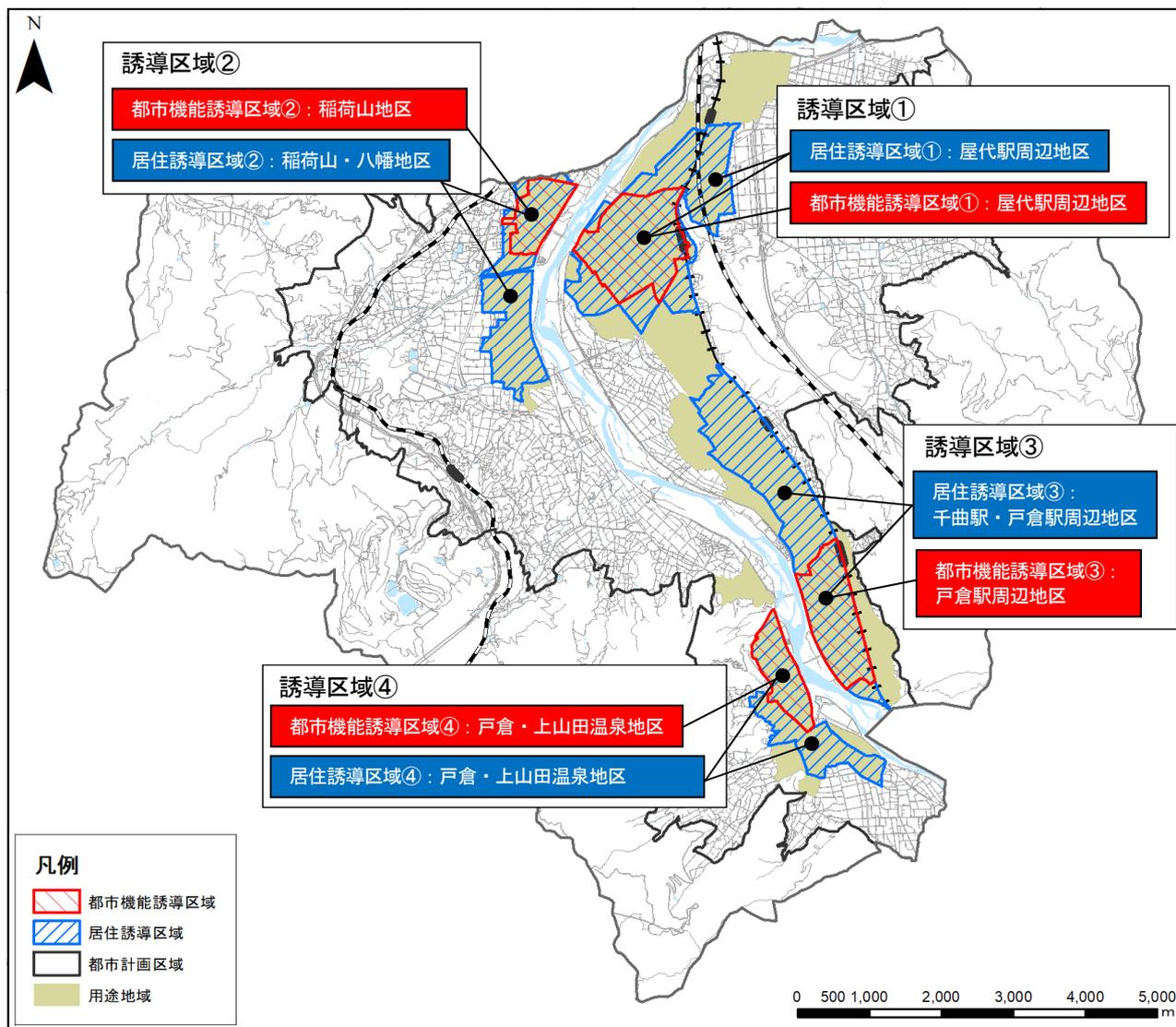
千曲市は、かつてはS30年（1955年）・S34年（1959年）の「昭和の大合併」で旧更埴市、旧戸倉町、旧上山田町が誕生し、H15年（2003年）に1市2町が合併して千曲市が誕生し、現在に至っています。



3. 法規制

(1) 誘導区域

現行の千曲市立地適正化計画（H29.3 策定）では、市内4箇所に居住誘導区域および都市機能誘導区域を指定しています。また都市機能誘導区域は、居住誘導区域の概ね4割程度を占めています。



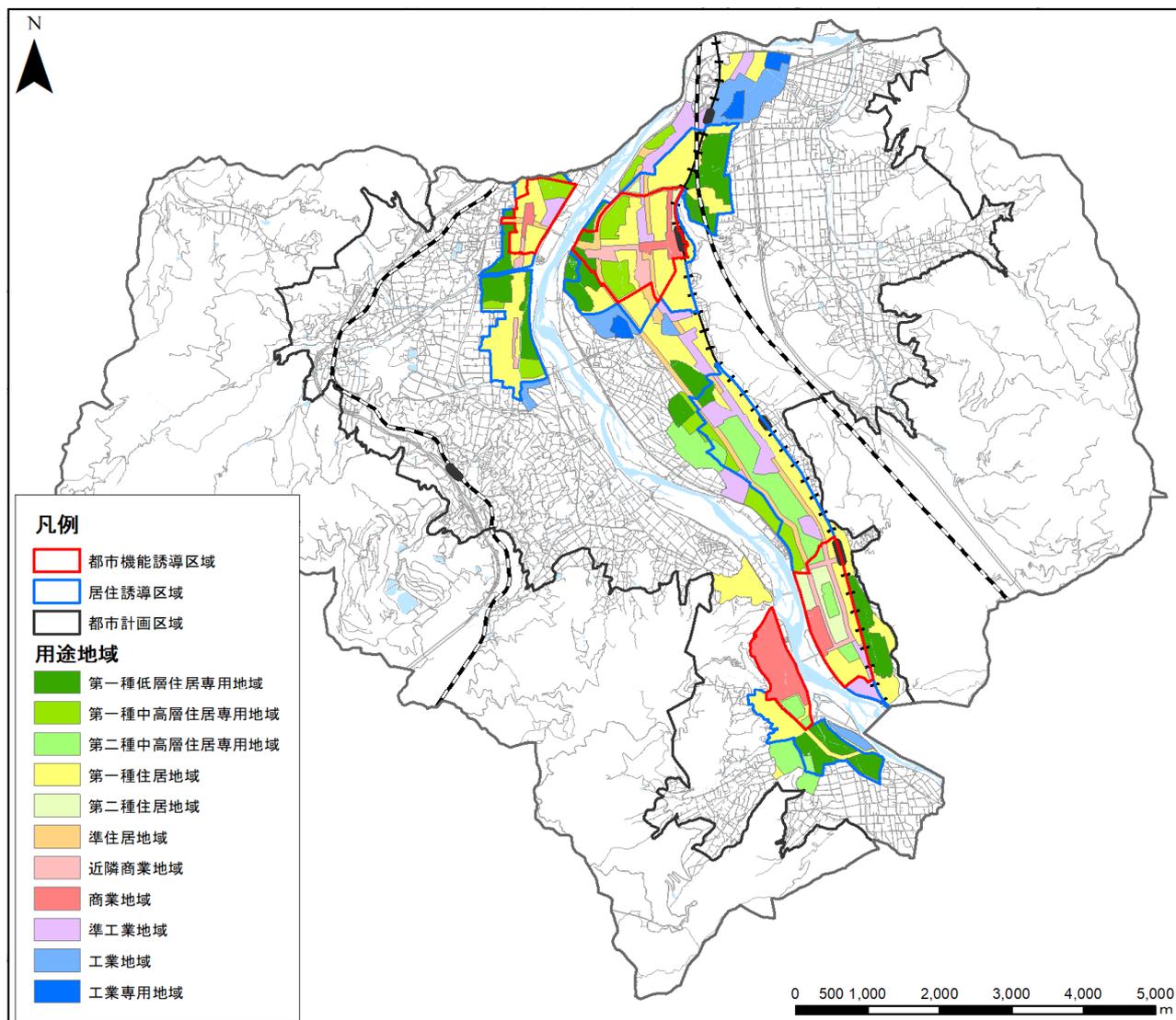
地区名	面積(ha)	地区名	面積(ha)
居住誘導区域 (合計)	1,018	都市機能誘導区域 (合計)	403
①屋代駅周辺地区	362	①屋代駅周辺地区	163
②稲荷山・八幡地区	189	②稲荷山地区	58
③千曲駅・戸倉駅周辺地区	325	③戸倉駅周辺地区	117
④戸倉・上山田温泉地区	142	④戸倉・上山田温泉地区	65

※面積は GIS 計測値

※以降、「誘導区域」のみの表記の場合は当該地区の都市機能誘導区域と居住誘導区域の両方を指す
 (例)「誘導区域①」→都市機能誘導区域①(屋代駅周辺地区)と居住誘導区域①(屋代駅周辺地区)の両方を指す(ただし地区名は表記しない)
 ※都市機能誘導区域のみ、もしくは居住誘導区域のみを示す場合は「都市機能誘導区域②(稲荷山地区)」のように地区名も表記する

(2) 用途地域

都市計画区域内の 24.6%で用途地域が指定され、用途地域に対する誘導区域の割合は、居住誘導区域は 70.1%、都市機能誘導区域は 27.8%となっています。



	面積 (ha)	都市計画区域に対する割合	用途地域に対する割合
行政区	11,979		
都市計画区域	5,900	100.0%	
用途地域	1,452	24.6%	100.0%
居住誘導区域	1,018	17.3%	70.1%
①屋代駅周辺地区	362	6.1%	24.9%
②稻荷山・八幡地区	189	3.2%	13.0%
③千曲駅・戸倉駅周辺地区	325	5.5%	22.4%
④戸倉・上山田温泉地区	142	2.4%	9.8%
都市機能誘導区域	403	6.8%	27.8%
①屋代駅周辺地区	163	2.8%	11.2%
②稻荷山地区	58	1.0%	4.0%
③戸倉駅周辺地区	117	2.0%	8.1%
④戸倉・上山田温泉地区	65	1.1%	4.5%

4. 人口

(1) 人口の推移

① 総人口・世帯数

人口はH12年（2000年）をピークに減少傾向にある一方で、世帯数は増加が続いています。

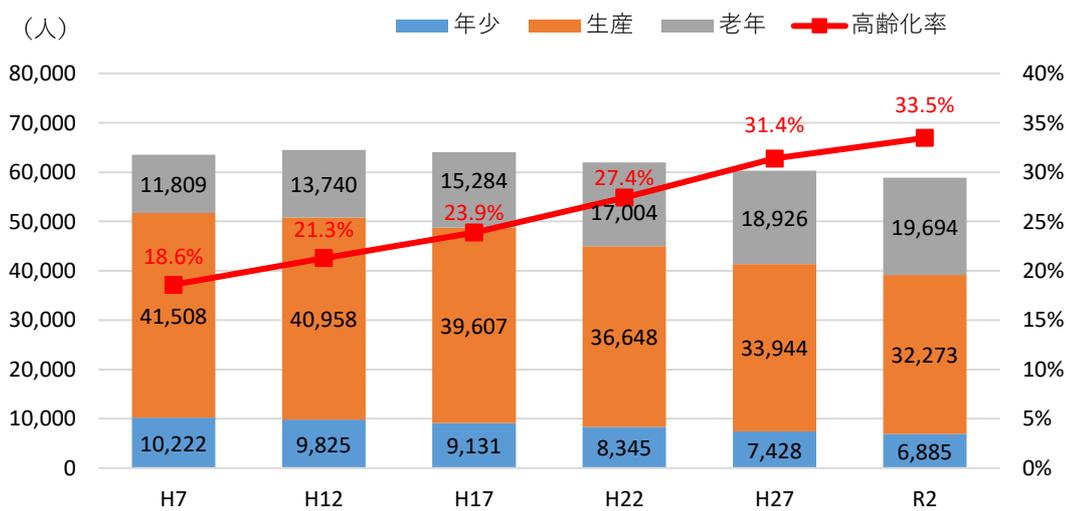


※出典：国勢調査

② 年代別人口

老年人口は一貫して増加が続いている一方、年少人口・生産人口は減少が続いています。高齢化率は年々増加傾向にあり、R2年（2020年）で33.5%に達しています。

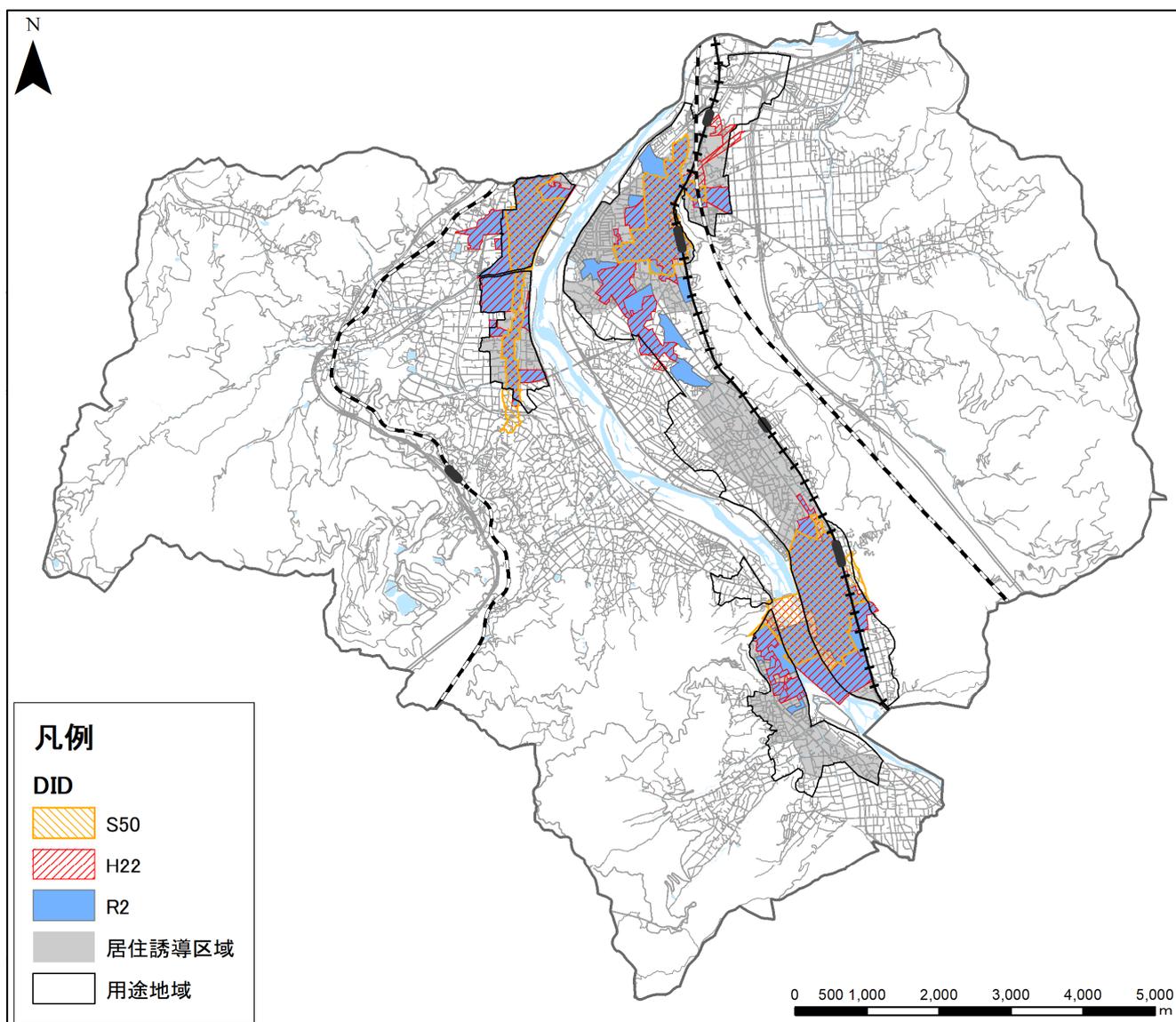
なお、長野県平均の高齢化率はR2年（2020年）で32.0%であり、千曲市の高齢化率は県平均よりも若干高い状況です。



※出典：国勢調査

(2) 人口集中地区

DID (人口集中地区) は近年横ばい傾向にある一方、人口密度は減少傾向にあった中でR2年(2020年)には若干増加しています。都市の拡大に一定の歯止めがかかりつつある状況がうかがえます。

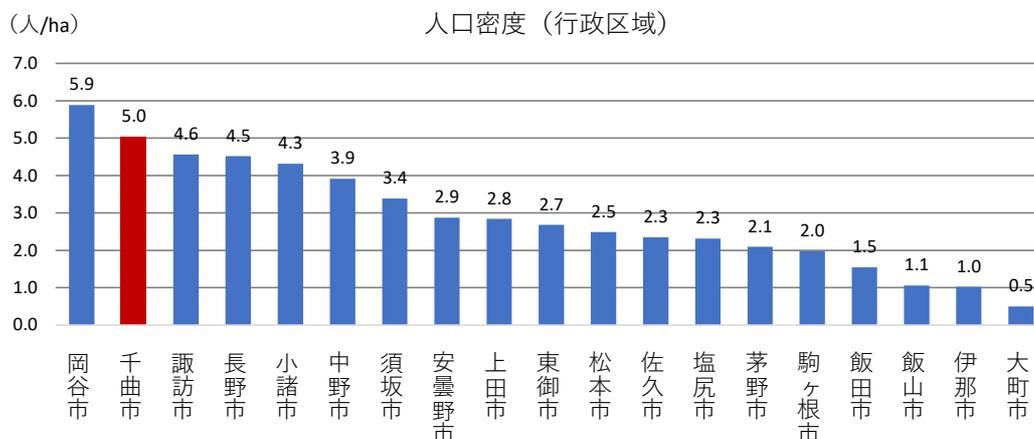


※出典：国勢調査

(3) 長野県内における人口密度（市部での比較）

① 行政区域の人口密度

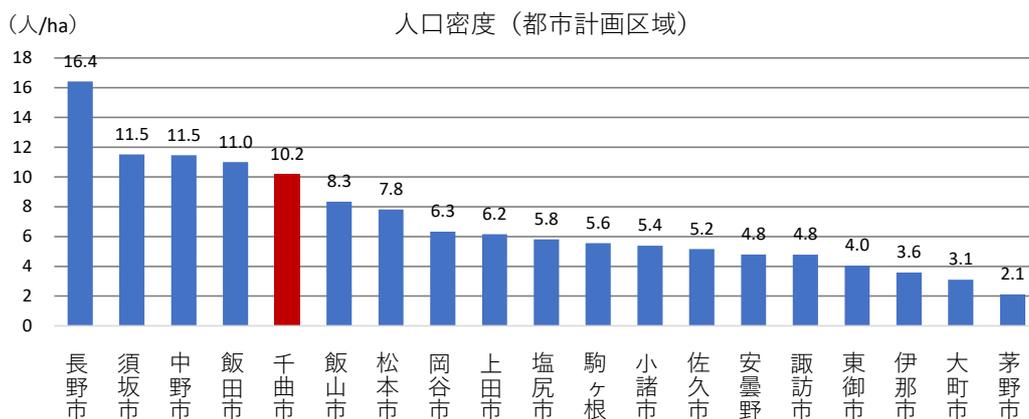
千曲市は5.0人/haと、県内で2番目に高い人口密度となっています。



※出典：都市計画調査（国土交通省）、人口はH27国勢調査

② 都市計画区域の人口密度

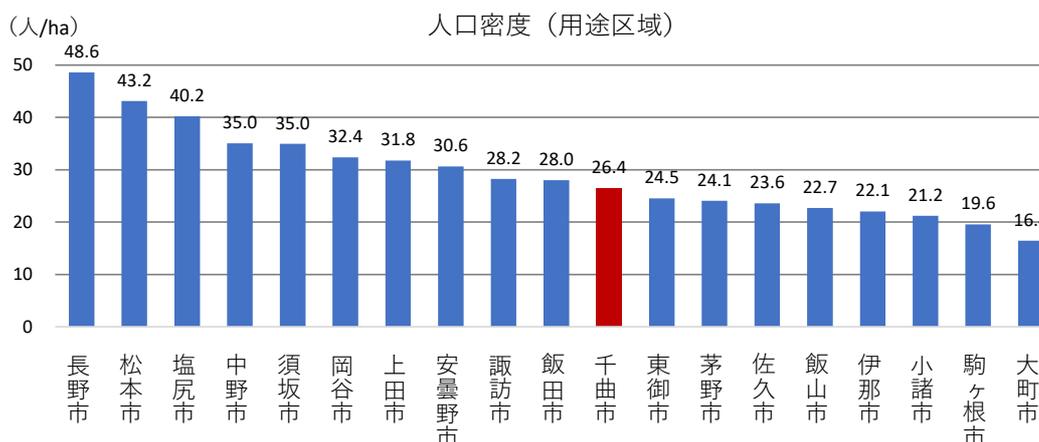
千曲市は10.2人/haと、県内で5番目に高い人口密度となっています。



※出典：都市計画調査（国土交通省）、人口はH27国勢調査

③ 用途地域の人口密度

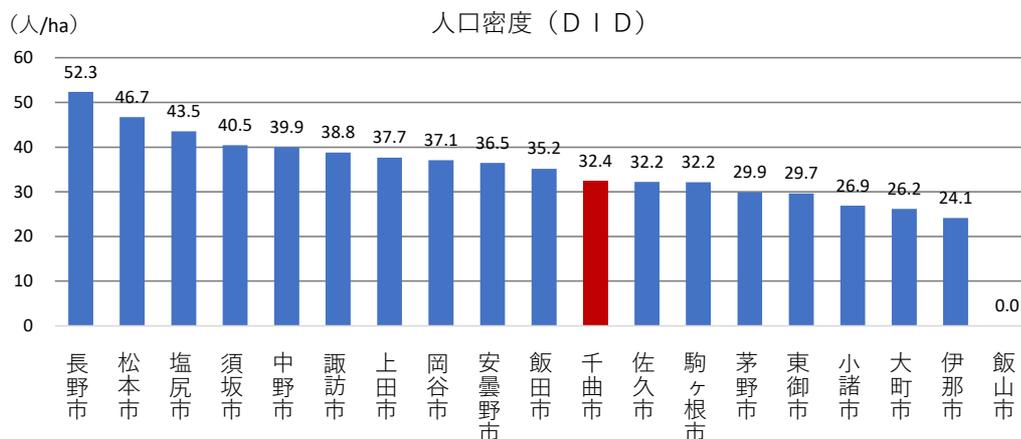
千曲市は26.4人/haと、県内で11番目となっています。



※出典：都市計画調査（国土交通省）、人口はH27国勢調査

④D I Dの人口密度

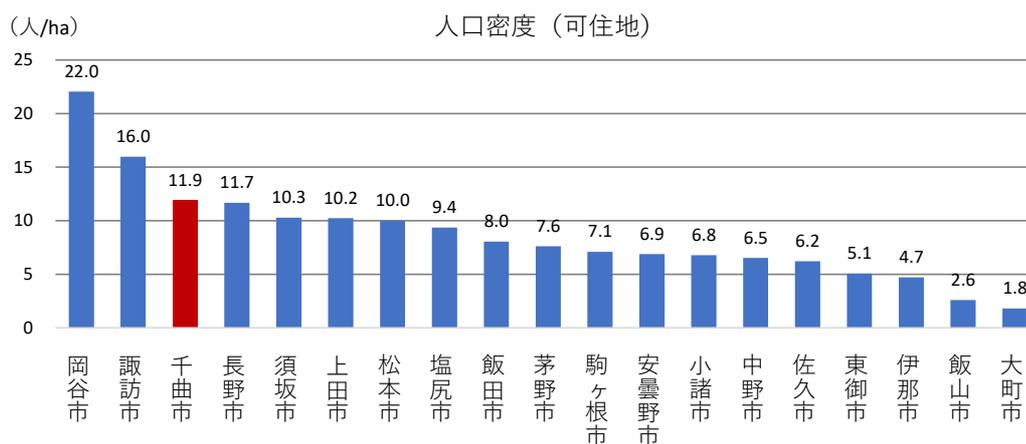
千曲市は32.4人/haと、県内で11番目となっています。



※出典：都市計画調査（国土交通省）、人口はH27国勢調査

⑤可住地の人口密度

千曲市は11.9人/haと、県内で3番目となっています。



※出典：長野県都市計画基礎調査、人口はH27国勢調査

※可住地：「水面」、「その他自然地」、「商業用地」の内で敷地面積1ha以上の大規模施設用地、「公共・公益用地」、「道路用地」、「交通施設用地」、「その他公的施設用地」を除いたエリア

【ポイント】

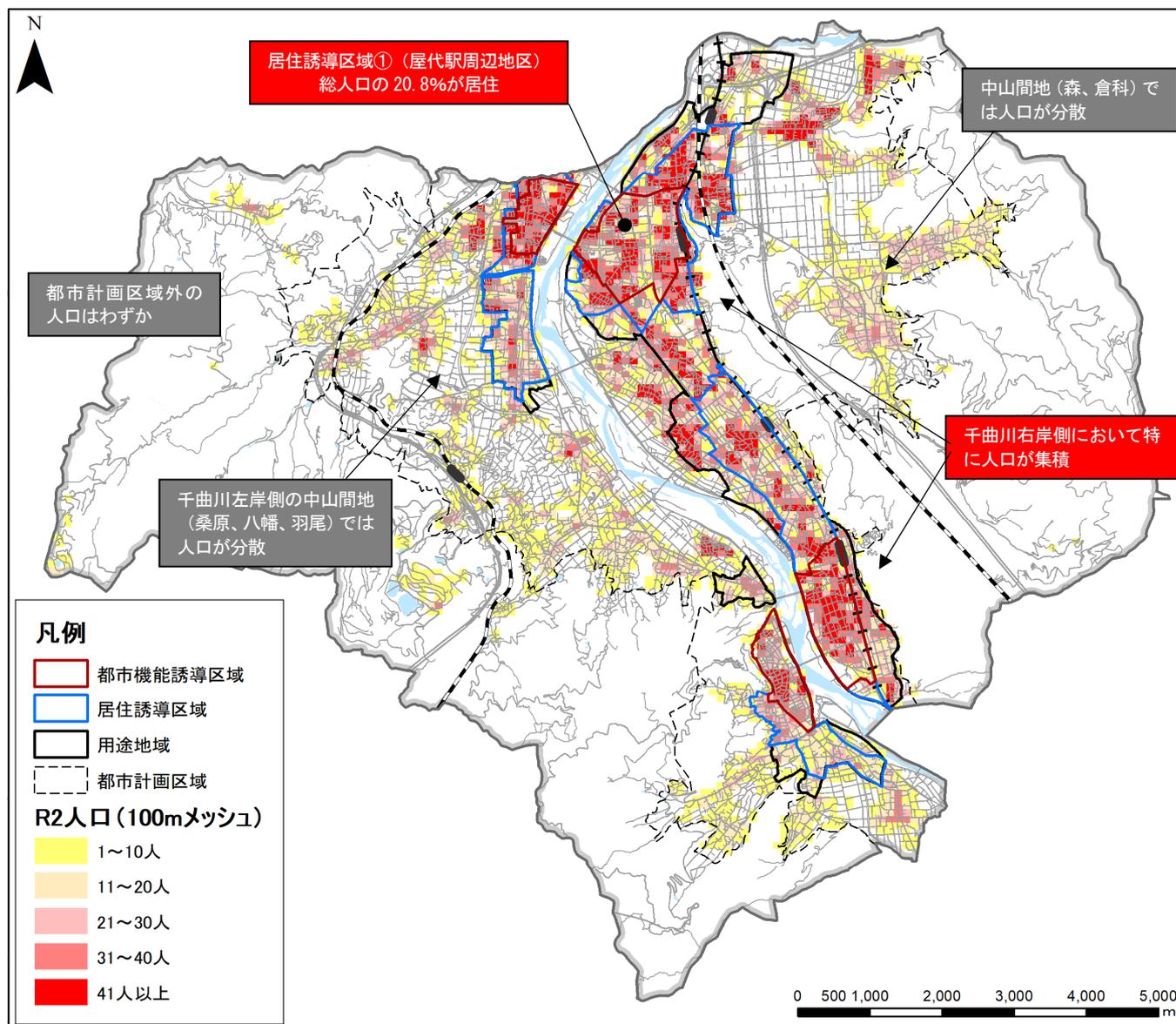
- 行政区、都市計画区域内での人口密度は県内でも高い人口密度となっており、市域全体で見れば県内の市の中でも上位の人口密度を有する
- 特に可住地の人口密度も県内3位と高く、県内でもコンパクトな都市のひとつであることがうかがえる

5. 地区別人口 (100mメッシュ)

(1) 人口 (R2)

千曲川右岸に人口が多く集中し、左岸では稲荷山地区や上山田温泉地区などで人口が集中しています。千曲川を中心とした右岸・左岸の平野部に多く人口が集まっているのに対し、中山間地では人口が分散し、低密度となっています。

【人口の分布状況 (R2、100mメッシュ)】



※出典：国勢調査 (R2)

※注：100mメッシュは国土地理院の「土地利用細分メッシュ」の図郭を用い、国勢調査の小地域別人口をベースに、都市計画基礎調査の土地利用現況（住居）の分布状況を加味し算出している。

※注2：GIS計測に関する数値は小数点以下の端数の関係で、表示上合計計算が一致しない箇所がある。

【誘導区域別の状況】

人口は都市計画区域内で総人口の99.6%を占めており、都市計画区域外の人口は限定的です。

用途地域内では市全体の66.7%が、居住誘導区域では市全体の半数以上の54.5%となっています。特に居住誘導区域①（屋代駅周辺地区）は市全体の20.8%が居住する人口の集積地となっています。

	人口	行政区域に 対する人口割合	
行政区域内	58,852	100.0%	
都市計画区域	58,646	99.6%	← ほぼ全て
用途地域	39,253	66.7%	
居住誘導区域	32,061	54.5%	← 半数以上を占める
①屋代駅周辺地区	12,266	20.8%	← 人口が多く集積
②稲荷山・八幡地区	6,086	10.3%	
③千曲駅・戸倉駅周辺地区	9,995	17.0%	
④戸倉・上山田温泉地区	3,714	6.3%	
都市機能誘導区域	15,312	26.0%	
①屋代駅周辺地区	5,958	10.1%	
②稲荷山地区	2,857	4.9%	
③戸倉駅周辺地区	4,271	7.3%	
④戸倉・上山田温泉地区	2,226	3.8%	
用途地域外（都市計画区域外含む）	19,393	33.1%	

※行政区域・都市計画区域・用途地域は国勢調査データ、誘導区域内人口は100mメッシュで算出

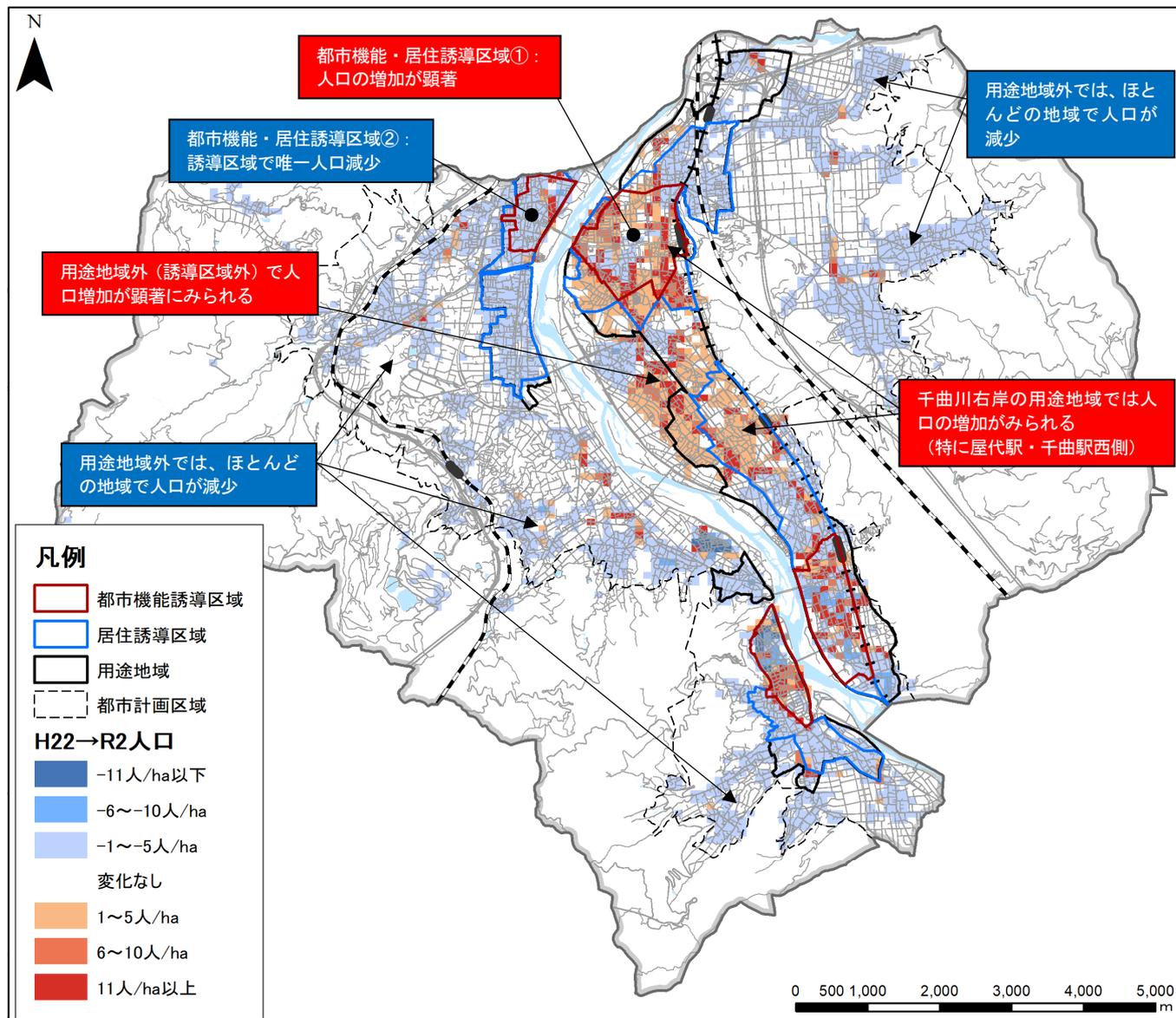
【ポイント】

- 都市計画区域内での人口がほとんどを占め（99.6%）、用途地域内では66.7%を占める
- 居住誘導区域で市内の半数以上（54.5%）を占める
- 千曲川右岸側において、特に人口が集積している
- 中山間地（桑原、八幡、羽尾、森、倉科地区など）では人口が分散
- 稲荷山や若宮、雨宮地区の一部では用途地域外で人口が集積しているエリアあり

(2) 地区別人口の推移 (H22→R2)

10年間 (H22年からR2年) での人口の推移は、千曲川右岸の用途地域 (特に屋代駅・千曲駅西側) では人口の増加がみられ、千曲駅西側では誘導区域外の人口増加が顕著にみられます。
千曲川左岸の中山間地など、用途地域外では、ほとんどの地域で減少しています。

【人口の推移 (H22→R2、100mメッシュ)】



※出典：国勢調査 (H22、R2)

【誘導区域別の状況】

市全体では 5.2%の人口減少となっている中、用途地域で 1.0%、居住誘導区域で 13.0%、都市機能誘導区域で 23.7%の増加がみられています。一方で用途地域外では 15.4%の減少となっています。

特に千曲川右岸に位置する誘導区域（①、③地区）での人口増加が顕著にみられています。一方で、誘導区域②では人口は減少している状況です。

	H22 人口	R2 人口	増減率	
行政区域内	62,068	58,852	-5.2%	
都市計画区域	61,809	58,646	-5.1%	
用途地域	38,873	39,253	1.0%	← 若干増加
居住誘導区域	28,368	32,061	13.0%	
①屋代駅周辺地区	10,252	12,266	19.6%	← 増加が顕著
②稲荷山・八幡地区	6,359	6,086	-4.3%	← 減少
③千曲駅・戸倉駅周辺地区	8,243	9,995	21.3%	← 増加が顕著
④戸倉・上山田温泉地区	3,514	3,714	5.7%	
都市機能誘導区域	12,375	15,312	23.7%	
①屋代駅周辺地区	4,237	5,958	40.6%	← 増加が顕著
②稲荷山地区	2,873	2,857	-0.6%	← 減少
③戸倉駅周辺地区	3,362	4,271	27.0%	← 増加が顕著
④戸倉・上山田温泉地区	1,903	2,226	17.0%	
用途地域外（都市計画区域外含む）	22,936	19,393	-15.4%	← 減少が顕著

※行政区域・都市計画区域・用途地域は国勢調査データ、誘導区域内人口は 100mメッシュで算出

【ポイント】

【プラスの状況】

- 千曲川右岸の用途地域（特に屋代駅・千曲駅西側）では人口の増加がみられ、一部誘導区域外でも人口が増加している
- 用途地域内では若干の人口増がみられる
- 誘導区域は①③④で増加がみられ、特に誘導区域①（屋代駅周辺地区）での増加が顕著

【マイナスの状況】

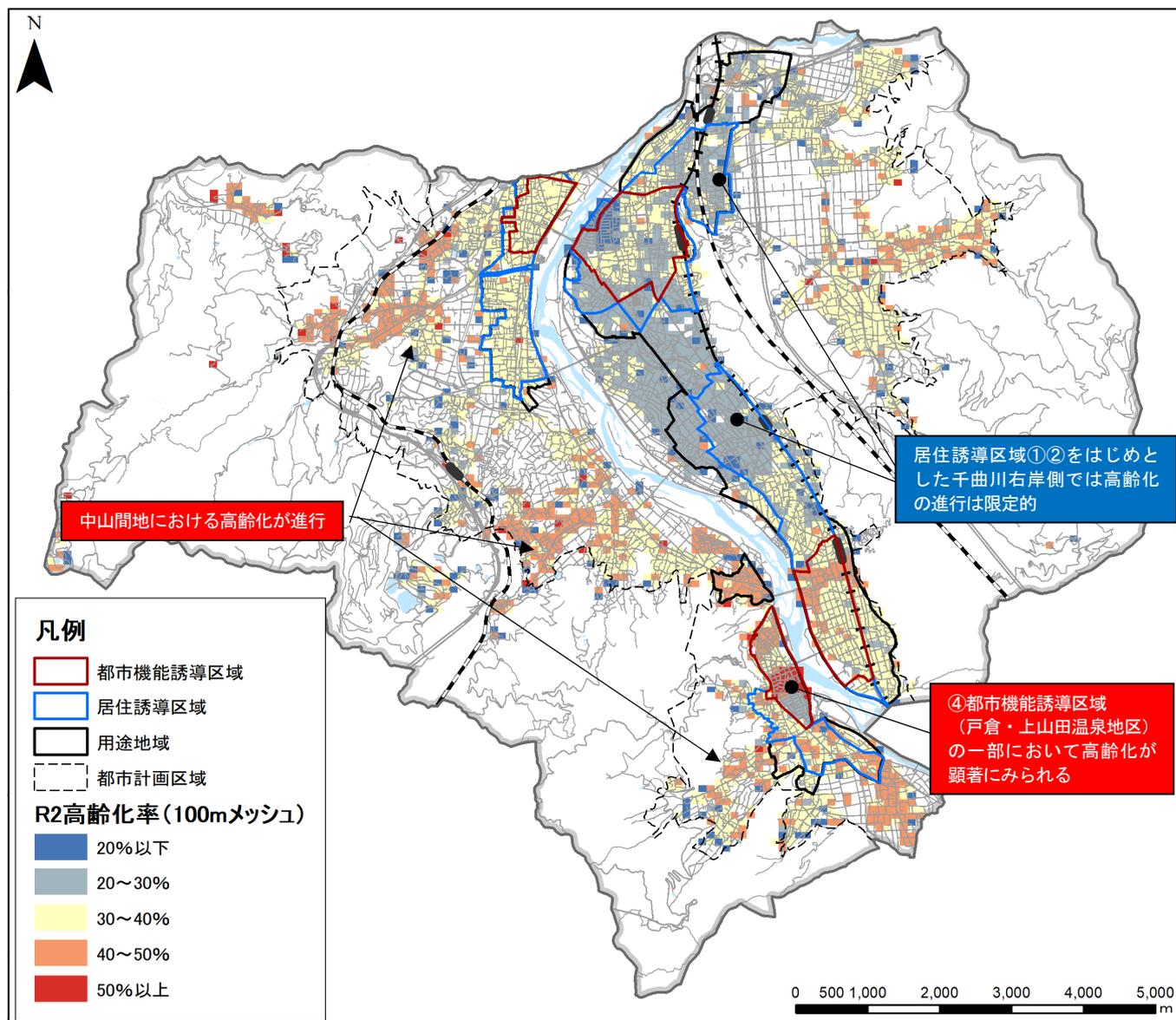
- 行政区域・都市計画区域では人口が減少しており、用途地域外での人口減少が顕著（-15.4%）
- 誘導区域で比較した場合、誘導区域②のみ人口が減少している

(3) 高齢化率 (R2)

R2年(2020年)の高齢化率は、千曲川右岸の用途地域(特に千曲駅西側)では他地域よりも高齢化率が低い地域が多くなっています。一方で、用途地域外の中山間地においては、高齢化率が40%を超える地域も多くみられます。

誘導区域別では、誘導区域①の高齢化率が低くなっている一方、都市機能誘導区域④(戸倉・上山田温泉地区)の一部において、高齢化率が顕著に高くなっている箇所があります。

【高齢化率の状況(R2、100mメッシュ)】



※出典：国勢調査 (R2)

【誘導区域別の状況】

誘導区域①では、居住誘導区域、都市機能誘導区域共に若干高齢化率が低くなっている一方、誘導区域④では高齢化率が高い状況です。

	総人口	高齢者数	高齢化率	
行政区域内	58,852	19,694	33.5%	
都市計画区域	58,646	19,529	33.3%	
用途地域	39,253	12,405	31.6%	
居住誘導区域	32,061	10,327	32.2%	
①屋代駅周辺地区	12,266	3,449	28.1%	← 高齢化率が低い
②稲荷山・八幡地区	6,086	2,074	34.1%	
③千曲駅・戸倉駅周辺地区	9,995	3,133	31.3%	
④戸倉・上山田温泉地区	3,714	1,671	45.0%	← 高齢化率が高い
都市機能誘導区域	15,312	5,210	34.0%	
①屋代駅周辺地区	5,958	1,633	27.4%	← 高齢化率が低い
②稲荷山地区	2,857	941	32.9%	
③戸倉駅周辺地区	4,271	1,556	36.4%	
④戸倉・上山田温泉地区	2,226	1,080	48.5%	← 高齢化率が高い
用途地域外（都市計画区域外含む）	19,393	7,124	36.7%	

※行政区域・都市計画区域・用途地域は国勢調査データ、誘導区域内人口は100mメッシュで算出

【ポイント】

【プラスの状況】

- 千曲川右岸の用途地域（特に千曲駅西側）では他地域よりも高齢化率が低い
- 特に誘導区域①では高齢化率が低い

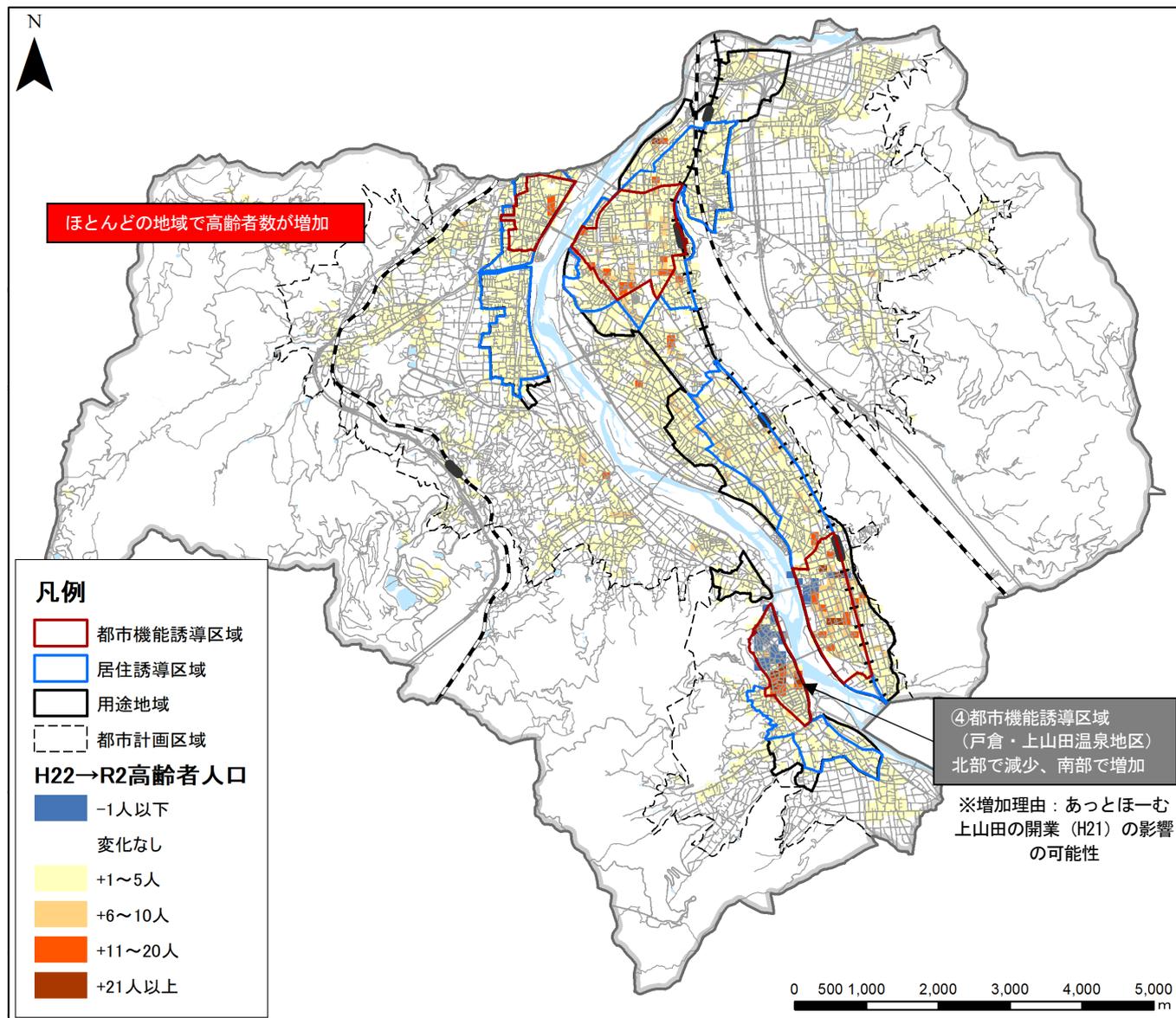
【マイナスの状況】

- 用途地域外の中山間地においては、高齢化率が40%を超える地域も多くみられる
- 誘導区域④（特に都市機能誘導区域④：戸倉・上山田温泉地区）は高齢化率が顕著に高い箇所がある

(4) 地区別高齢者人口の推移 (H22→R2)

10年間(H22からR2)での高齢者数の推移は、ほとんどの地域で高齢者数の増加がみられています。都市機能誘導区域④(戸倉・上山田温泉地区)では、高齢者数が北部では減少、南部では増加しています。

【高齢者人口の推移 (H22→R2、100mメッシュ)】



※出典：国勢調査 (H22、R2)

【誘導区域別の状況】

市全体では 15.8%の高齢者増となっている中、人口増がみられている居住誘導区域では 34.7%増加、都市機能誘導区域では 44.8%の増加がみられています。

人口増加がみられている千曲川右岸に位置する誘導区域（①、③）では、高齢者数の増加もみられています。一方で、唯一人口が減少している誘導区域②では高齢者数の増加も限定的です。

	H22 高齢者人口	R2 高齢者人口	増減率	
行政区域内	17,004	19,694	15.8%	
都市計画区域	16,909	19,529	15.5%	
用途地域	10,699	12,405	15.9%	
居住誘導区域	7,669	10,327	34.7%	
①屋代駅周辺地区	2,556	3,449	34.9%	
②稲荷山・八幡地区	1,708	2,074	21.4%	← 増加が限定的
③千曲駅・戸倉駅周辺地区	2,192	3,133	42.9%	
④戸倉・上山田温泉地区	1,213	1,671	37.8%	
都市機能誘導区域	3,599	5,210	44.8%	
①屋代駅周辺地区	1,079	1,633	51.3%	← 高齢者の増加
②稲荷山地区	785	941	19.9%	← 増加が限定的
③戸倉駅周辺地区	1,011	1,556	53.9%	← 高齢者の増加
④戸倉・上山田温泉地区	724	1,080	49.2%	
用途地域外（都市計画区域外含む）	6,210	7,124	14.7%	← 増加が限定的

※行政区域・都市計画区域・用途地域は国勢調査データ、誘導区域内人口は 100mメッシュで算出

【ポイント】

【マイナスの状況】

- ほとんどの地域で高齢者数は増加
- 人口が増加している地域（誘導区域①、③）では、高齢者数の増加も顕著

【それ以外】

- 都市機能誘導区域④（戸倉・上山田温泉地区）では、高齢者数が北部では減少、南部では増加と変動が激しい
- 誘導区域②では高齢者の増加が限定的
- 用途地域外ではさらに高齢者の増加が限定的（+14.7%）

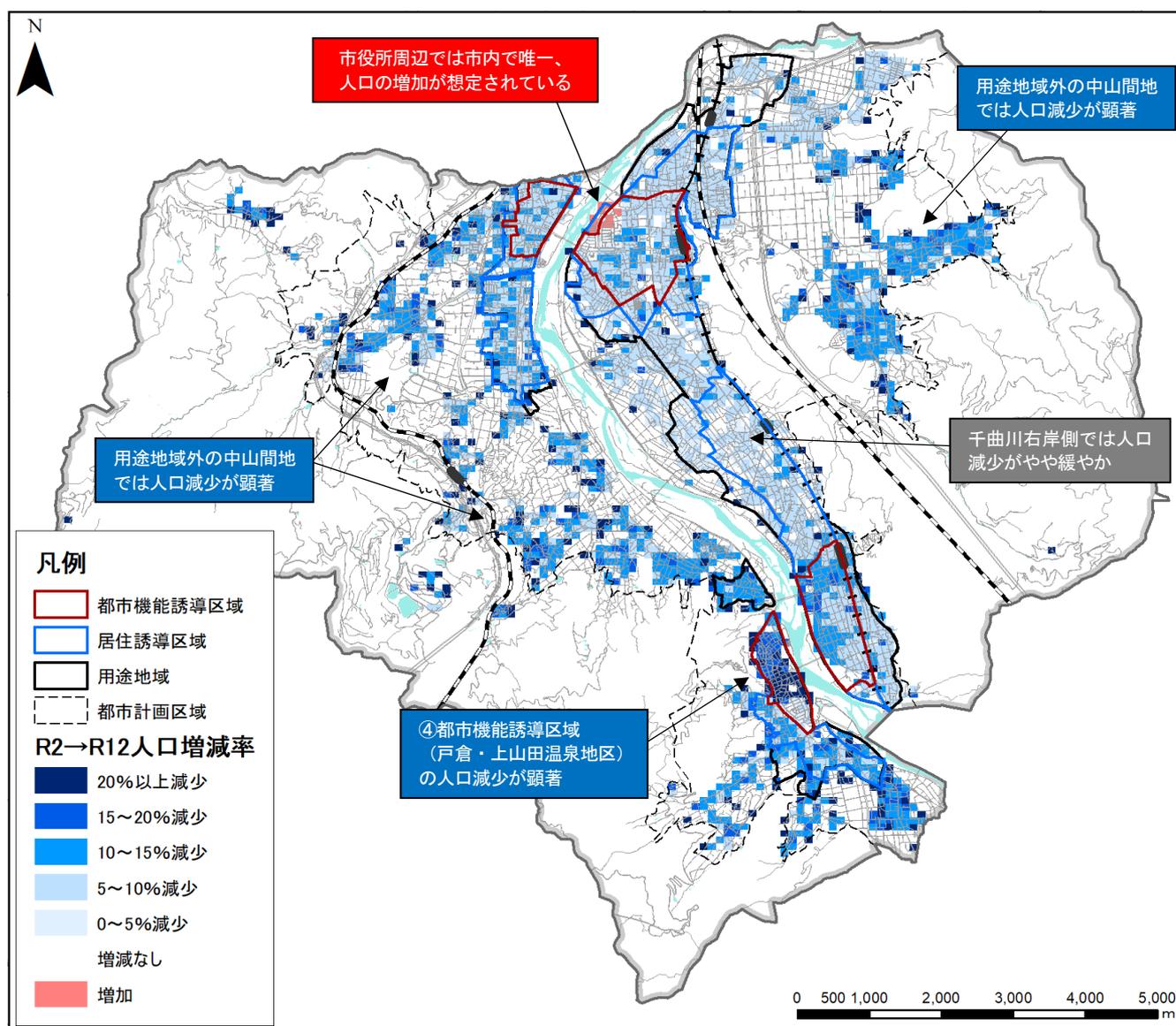
6. 将来人口（100mメッシュ）

（1）人口の将来予測（R2→R12）

市のほぼ全域で人口減少が想定されている中、千曲川右岸の人口減少はやや緩やかとなっています。一方で千曲川左岸の人口減少は右岸と比べやや急であり、特に都市機能誘導区域④（戸倉・上山田温泉地区）での顕著な減少が想定されており、また、用途地域外の中山間地においても人口の急激な減少が想定されています。

市役所周辺においては、市内で唯一、人口の増加が想定されています。

【人口の増減率（R2→R12、100mメッシュ）】



※出典：国勢調査（R2）、人口問題研究所推計値を加工し算出（R12）

【誘導区域別の状況】

市全体では 10.0%の人口減少が想定されている中、用途地域外で 12.5%の減少が想定されています。また、誘導区域④での顕著な人口減少が想定されています。

	R2 人口	R12 人口 (推計値)	増減数	増減率	
行政区域内	58,852	52,961	-5,891	-10.0%	
都市計画区域	58,646	52,461	-6,185	-10.5%	
用途地域	39,253	35,498	-3,755	-9.6%	
居住誘導区域	32,061	28,724	-3,337	-10.4%	
①屋代駅周辺地区	12,266	11,115	-1,151	-9.4%	
②稲荷山・八幡地区	6,086	5,470	-616	-10.1%	
③千曲駅・戸倉駅周辺地区	9,995	9,076	-919	-9.2%	
④戸倉・上山田温泉地区	3,714	3,063	-651	-17.5%	← 減少が顕著
都市機能誘導区域	15,312	13,433	-1,879	-12.3%	
①屋代駅周辺地区	5,958	5,352	-606	-10.2%	
②稲荷山地区	2,857	2,558	-299	-10.5%	
③戸倉駅周辺地区	4,271	3,796	-475	-11.1%	
④戸倉・上山田温泉地区	2,226	1,727	-499	-22.4%	← 減少が顕著
用途地域外（都市計画区域外含む）	19,393	16,963	-2,430	-12.5%	

※行政区域・都市計画区域・用途地域は国勢調査データ、誘導区域内人口は 100mメッシュで算出

【ポイント】

【プラスの状況】

- 市役所周辺のエリアは市内で唯一、人口の増加が想定されている

【マイナスの状況】

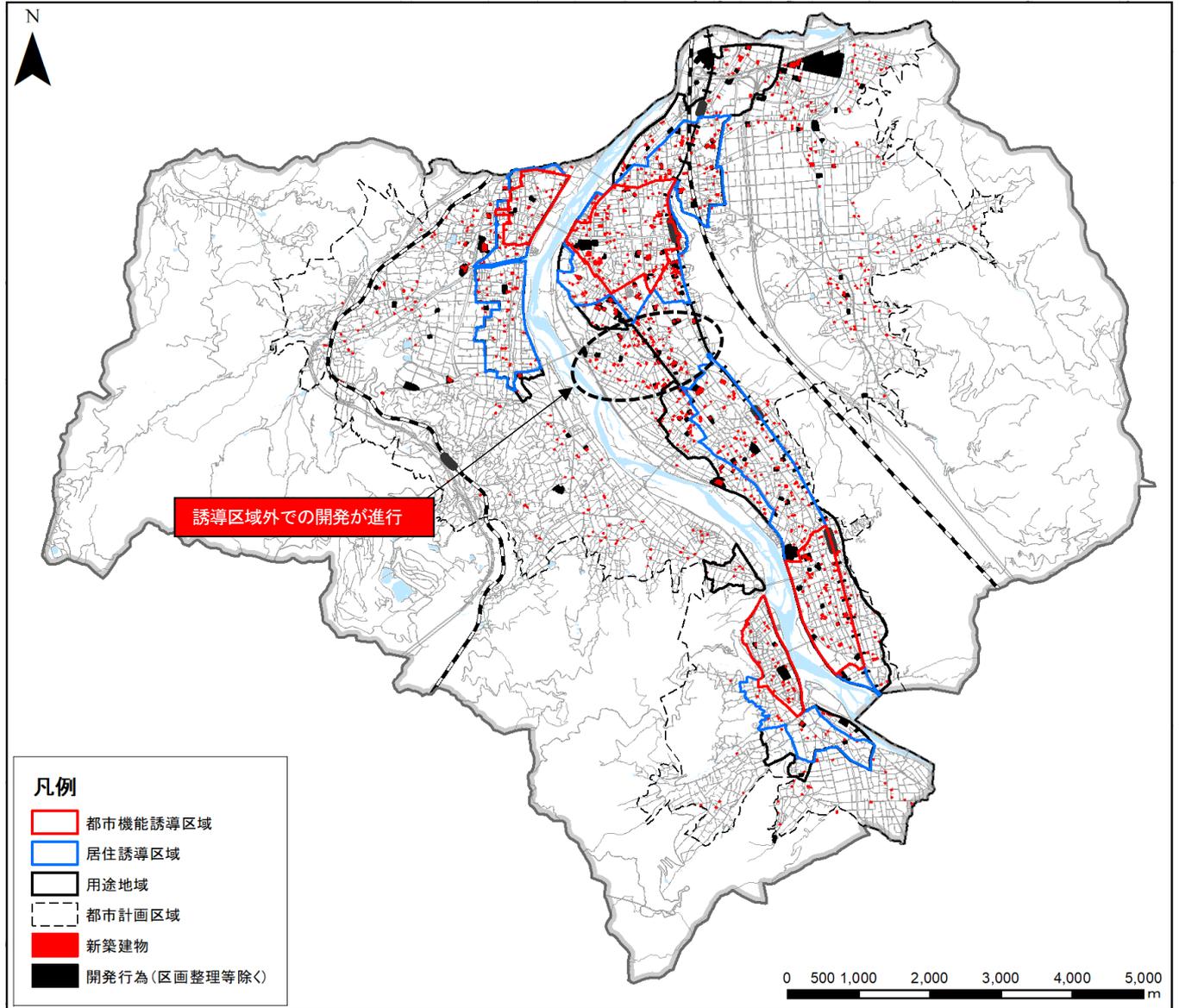
- 市のほぼ全域で人口減少が想定されているが、千曲川右岸では減少がやや緩やか
- 用途地域外（中山間地）では人口減少が進み、特に都市機能誘導区域④（戸倉・上山田温泉地区）での顕著な減少が想定されている

7. 開発状況

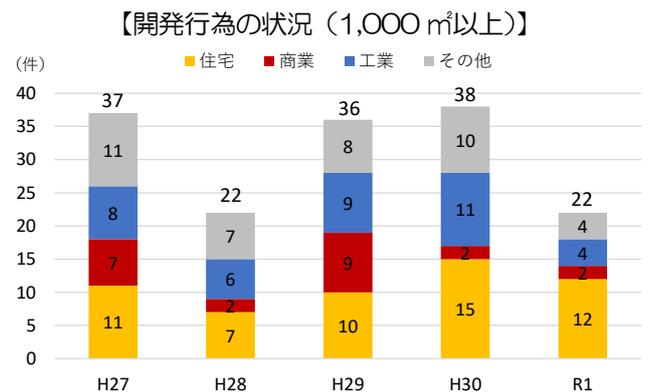
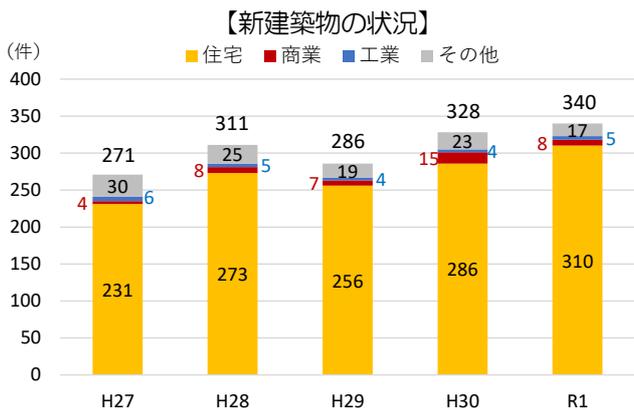
新建築物の届出状況は、H27年(2015年)から若干増加傾向にあり、大部分が住宅となっています。また、1,000㎡以上の開発行為は、年間40件弱程度となっており、特に増加傾向にありません。

用途地域内での開発が多くみられますが、一部、誘導区域外や用地域外における開発が進んでいる箇所があります。

【新築、開発行為の状況 (H27~R1)】



※出典：都市計画基礎調査 (R2)



※出典：千曲市都市計画基礎調査 (R2)

【誘導区域別の状況】

誘導区域①では他地区よりも開発が積極的に進められています。

誘導区域②、④においては、他の誘導区域よりも開発行為や新築の件数が少なくなっています。

後述の未利用地の状況を鑑みるに、誘導区域②では開発の適地が少なく開発が行われていない（市街地のリニューアルが進んでいない）こと、誘導区域④では未利用地が多く開発の余地があるにも関わらず開発件数が少ないことから、同地区での開発圧力が低下していることがうかがえます。

	開発行為（件）	新建築物（件）	合計（件）	
行政区域内				
都市計画区域	156	1,536	1,692	
用途地域	107	1,103	1,210	
居住誘導区域	73	814	887	
①屋代駅周辺地区	30	421	451	
②稲荷山・八幡地区	6	111	117	← 開発が少ない
③千曲駅・戸倉駅周辺地区	32	224	256	
④戸倉・上山田温泉地区	5	58	63	← 開発が少ない
都市機能誘導区域	31	339	370	
①屋代駅周辺地区	13	182	195	
②稲荷山地区	3	31	34	← 開発が少ない
③戸倉駅周辺地区	12	87	99	
④戸倉・上山田温泉地区	3	39	42	← 開発が少ない
用途地域外	49	433	482	

※都市計画基礎調査データをGIS計測し算出

【ポイント】

【全体】

- 新建築物の件数は若干増加傾向にある
- 誘導区域②や④は、開発行為・新建築物のどちらも他の誘導区域と比べ件数は少ない
- 誘導区域②は開発適地が少ない、誘導区域④は開発圧力の低下が推察される
- 誘導区域外（用途地域外）で開発が進むエリアがある

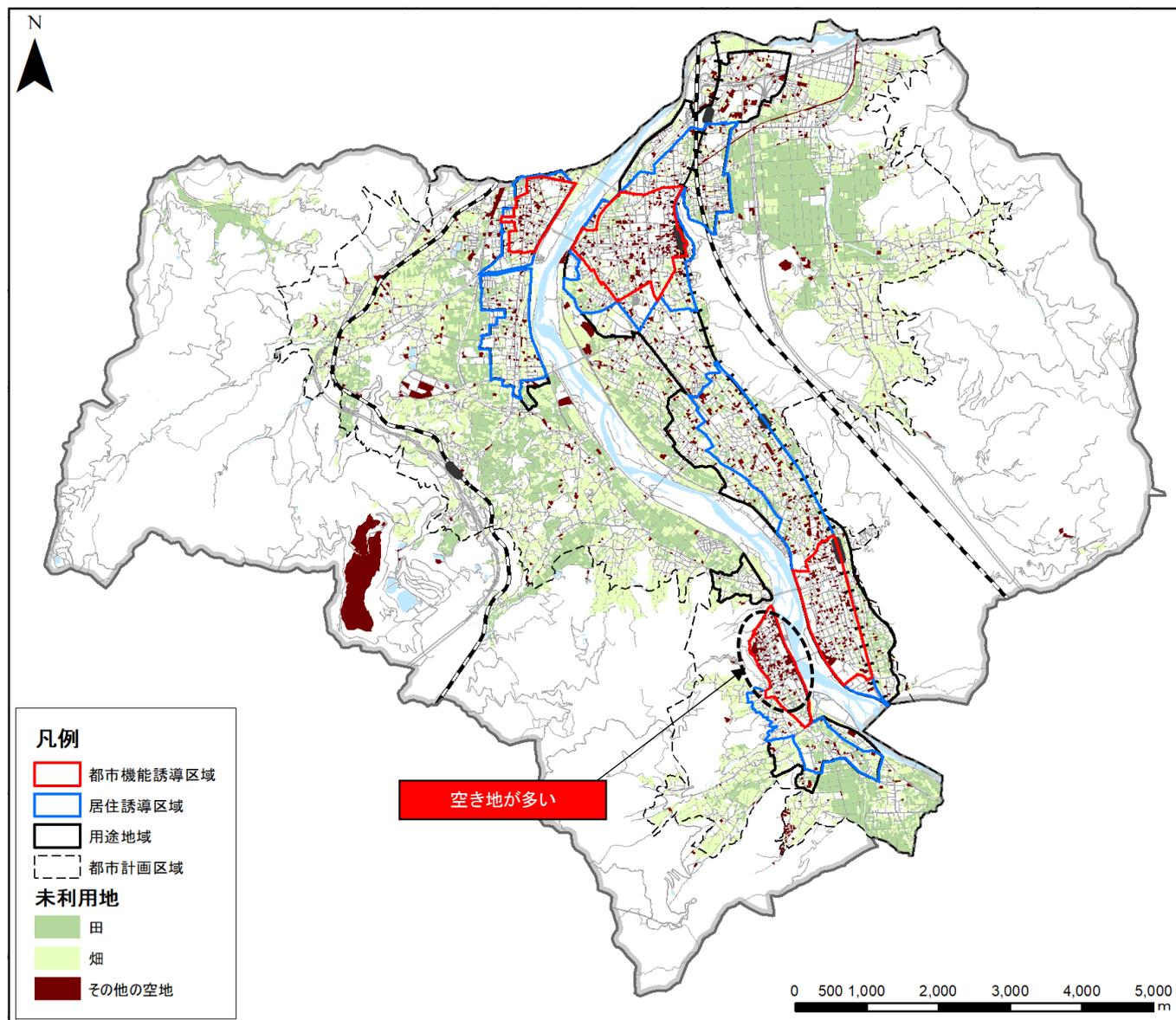
8. 未利用地等

(1) 未利用地

都市計画基礎調査では、都市計画区域の大部分において農地が広がり、用途地域内においても点在しています。

その他の空地は、主に用途地域内において点在しており、特に都市機能誘導区域④（戸倉・上山田温泉地区）において多く存在しています。

【未利用地（農地、空地）の分布状況】



※出典：都市計画基礎調査（R2）
 ※その他空地：ゴルフ場、太陽光発電、平面駐車場、その他

【誘導区域別の状況】

用途地域内の未利用地割合が26.2%であるのに対し、居住誘導区域内では24.9%と大きな違いは無い状況です。都市機能誘導区域では17.5%と、若干割合が少なくなります。

農地を除いた場合、誘導区域②の割合が最も小さく、一方で都市機能誘導区域②（戸倉・上山田温泉地区）では10.9%と、空地が他の誘導区域よりも多い状況です。

	総面積(ha)	未利用地面積(ha)		未利用地割合(%)	
			空地のみ		空地のみ
都市計画区域	5,900	2,097	167	35.5%	2.8%
用途地域	1,452	380	68	26.2%	4.7%
居住誘導区域	1,018	253	53	24.9%	5.2%
①屋代駅周辺地区	362	87	16	24.0%	4.5%
②稲荷山・八幡地区	189	46	6	24.3%	3.3%
③千曲駅・戸倉駅周辺地区	325	81	21	25.1%	6.5%
④戸倉・上山田温泉地区	142	39	9	27.3%	6.3%
都市機能誘導区域	403	71	29	17.5%	7.2%
①屋代駅周辺地区	163	33	10	20.0%	6.1%
②稲荷山地区	58	9	3	15.4%	4.4%
③戸倉駅周辺地区	117	18	9	15.4%	8.1%
④戸倉・上山田温泉地区	65	11	7	17.0%	10.9%

※未利用地：都市計画基礎調査の田、畑、その他の空地の合計

【ポイント】

【全体】

- 都市計画区域の大部分において農地が広がり、用途地域内においても点在
- 用途地域内と居住誘導区域内で、未利用地の割合の違いはそれほど大きくない

【プラスの状況】

- 誘導区域②では、未利用地の割合が少ない

【マイナスの状況】

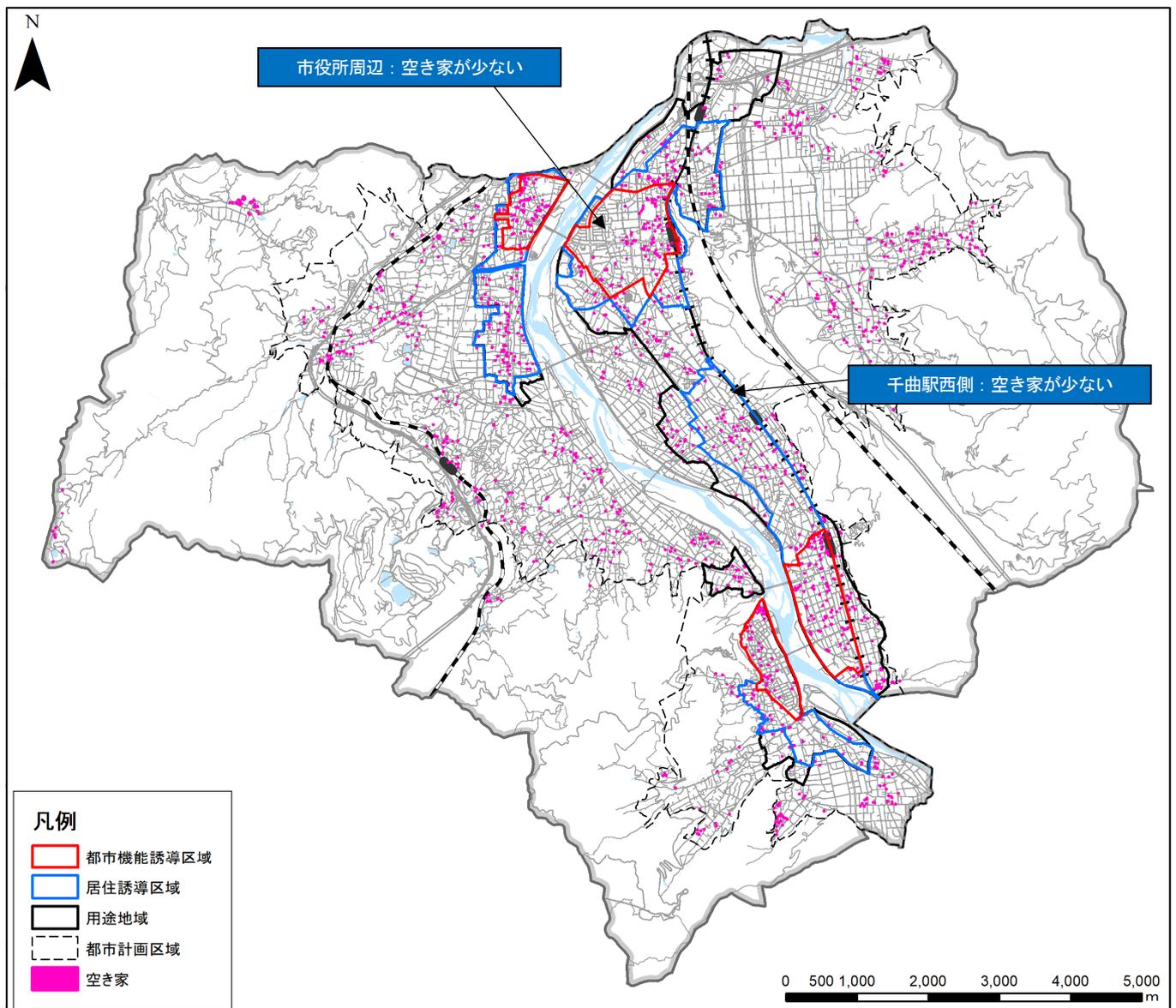
- 都市機能誘導区域④（戸倉・上山田温泉地区）では、空地がやや多い

(2) 空き家

農地を除いた市域全体に空き家が広く分布しており、用途地域外においても多くの空き家が存在しています。

都市機能誘導区域①（屋代駅周辺地区）の西側（市役所周辺）や、居住誘導区域③（千曲駅・戸倉駅周辺地区）の北側では、空き家が比較的少なくなっています。

【空き家の分布状況】



※出典：千曲市調べ（R3）

【誘導区域別の状況】

用途地域内で56.2%の空き家が存在し、用途地域外では43.8%となっています。

参考として、区域内の人口と空き家数の割合を比較した場合、用途地域外の空き家割合が多くなっており（空き家割合が10.7%多い）、用途地域外のエリアにおける人口の空洞化がうかがえます。誘導区域内で見た場合、居住誘導区域②（稲荷山・八幡地区）が空き家の割合が多く、居住誘導区域①（屋代駅周辺地区）、居住誘導区域③（千曲駅・戸倉駅周辺地区）の空き家割合が少なくなっています。

	空き家数	全数に対する割合	(参考) 区域内人口割合	(参考) 空き家割合-人口割合
行政区域内	1481	100.0%	100.0%	0.0%
都市計画区域	1475	99.6%	99.6%	0.0%
用途地域	832	56.2%	66.7%	-10.5%
居住誘導区域	669	45.2%	54.5%	-9.3%
①屋代駅周辺地区	202	13.6%	20.8%	-7.2%
②稲荷山・八幡地区	183	12.4%	10.3%	2.1%
③千曲駅・戸倉駅周辺地区	184	12.4%	17.0%	-4.6%
④戸倉・上山田温泉地区	100	6.8%	6.3%	0.5%
都市機能誘導区域	332	22.4%	26.0%	-3.6%
①屋代駅周辺地区	93	6.3%	10.1%	-3.8%
②稲荷山地区	75	5.1%	4.9%	0.2%
③戸倉駅周辺地区	110	7.4%	7.3%	0.1%
④戸倉・上山田温泉地区	54	3.6%	3.8%	-0.2%
用途地域外	649	43.8%	33.1%	10.7%

人口割合に対する空き家割合が少ない

誘導区域内で人口に対する空き家の割合の差が最も多い

人口割合に対する空き家割合が少ない

人口割合に対する空き家割合が多い

【ポイント】

【全体】

- 農地を除いた市域全体に空き家が広く分布しており、用途地域外においても多くの空き家が存在

【プラスの状況】

- 市役所周辺や千曲駅西側では空き家が少ない

【マイナスの状況】

- 稲荷山地区や、用途地域外において空き家が多く存在している

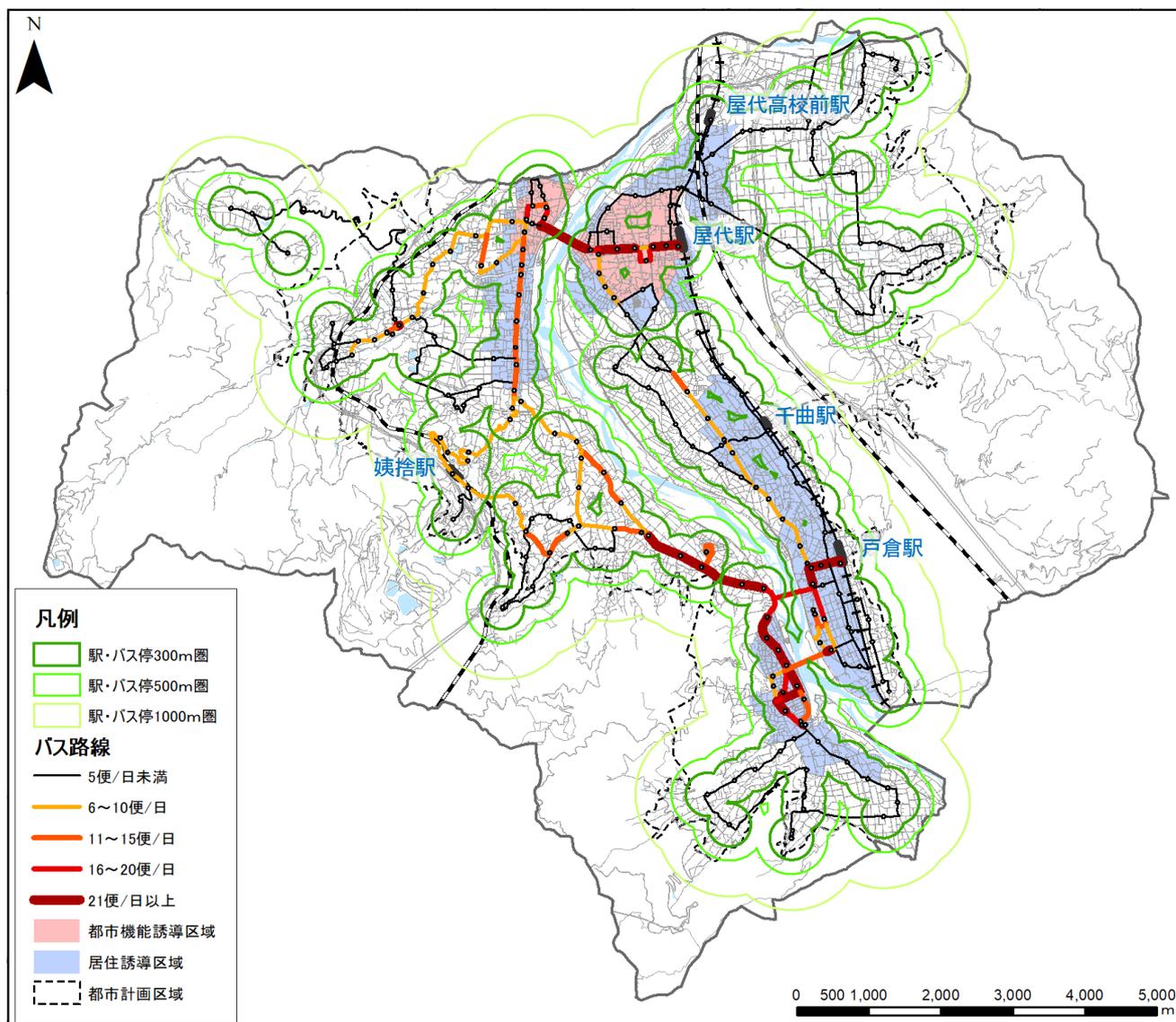
9. 公共交通

(1) 公共交通網

鉄道は、市内にはちくま鉄道で4駅、JR 篠ノ井線で1駅の計5駅があります。一方で新幹線駅は市内には存在していません。4つの誘導区域を循環する大循環線が東回り・西回りの2ルートで運行されています。

バス交通は、運行本数は屋代駅や戸倉駅を結ぶルートが多く、21便/日以上運行されているルートもみられます。一方で、千曲駅や市内東部と連絡するバスルートは限定的です。

【公共交通（鉄道、バス）の運行エリア】



※出典：都市計画基礎調査（R2）

【誘導区域別の状況】

1 km圏域では、人口カバー率は用途地域内で100%となっており、圏域を500mに絞った場合でも、都市機能誘導区域内・居住誘導区域内で100%と全域をカバーしています。

また、用途地域外においても、1 km圏域で96%、500m圏域で93%、300m圏域でも87%と大半をカバーしています。

	区域内人口	300m圏域人口	500m圏域人口	1 km圏域人口	300m圏域人口カバー率	500m圏域人口カバー率	1 km圏域人口カバー率
行政区域内	58,852	53,640	57,033	58,663	91%	97%	99%
都市計画区域	58,646	53,330	56,728	58,194	91%	97%	99%
用途地域	39,253	36,533	38,630	39,253	93%	98%	100%
居住誘導区域	32,061	30,488	32,058	32,061	95%	100%	100%
①屋代駅周辺地区	12,266	11,039	12,263	12,266	90%	100%	100%
②稲荷山・八幡地区	6,086	5,802	6,086	6,086	95%	100%	100%
③千曲駅・戸倉駅周辺地区	9,995	9,982	9,995	9,995	100%	100%	100%
④戸倉・上山田温泉地区	3,714	3,665	3,714	3,714	99%	100%	100%
都市機能誘導区域	15,312	15,134	15,312	15,312	99%	100%	100%
①屋代駅周辺地区	5,958	5,827	5,958	5,958	98%	100%	100%
②稲荷山地区	2,857	2,810	2,857	2,857	98%	100%	100%
③戸倉駅周辺地区	4,271	4,271	4,271	4,271	100%	100%	100%
④戸倉・上山田温泉地区	2,226	2,226	2,226	2,226	100%	100%	100%
用途地域外	19,393	16,797	18,098	18,707	87%	93%	96%

都市機能誘導区域・居住誘導区域・用途地域は
ほぼカバー

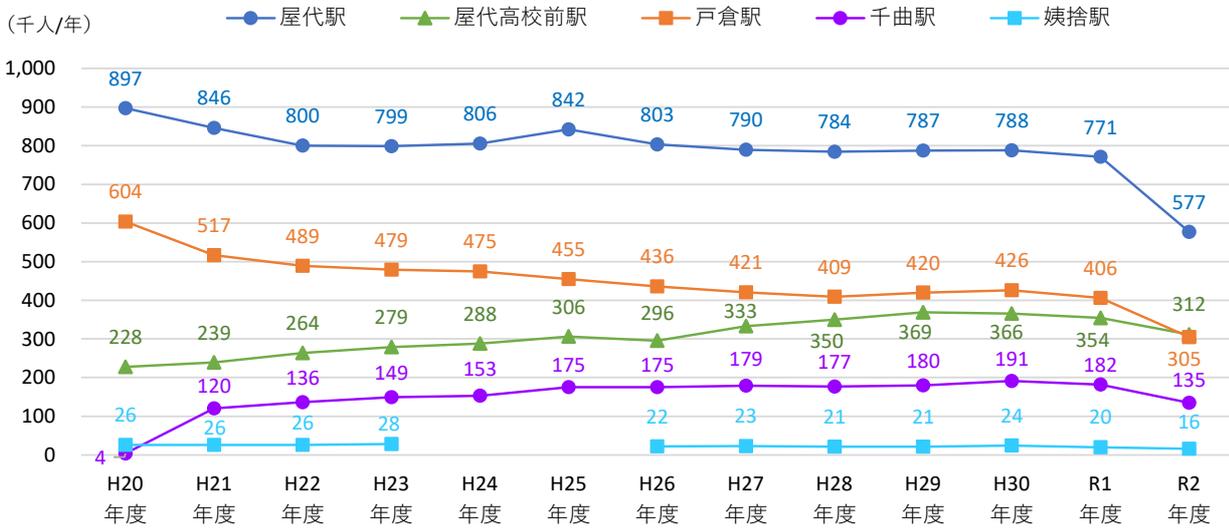
※圏域は国土交通省 立地適正化計画ガイドラインより引用

300m圏域：バス停の誘致距離、500m圏域：高齢者徒歩圏、1km圏域：厚生労働省の「地域包括ケアシステム」の日常生活圏域

(2) 鉄道の利用者数

新型コロナウイルスの影響と想定されるR2年度の落ち込みを除けば、どの駅でもH26年度頃からは利用は横ばいで推移しています。

その中でも千曲駅や屋代高校前駅では若干の増加傾向がみられます。

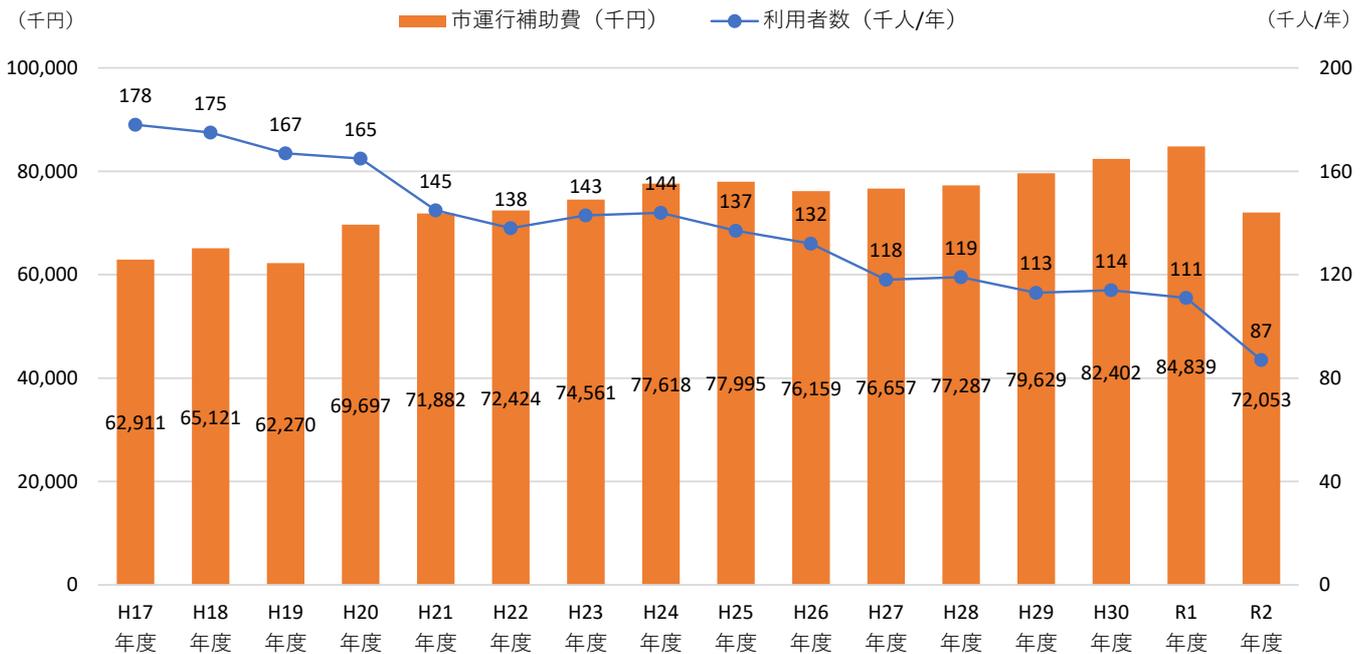


※千曲駅はH21年3月開業、姨捨駅は平成24・25年度は無人駅のため非公表

※出典：千曲市統計書

(3) バスの利用者数 (循環バス)

バス(循環バス)利用者は減少を続けており、特に新型コロナウイルスの影響と想定されるR2年度は落ち込みが顕著にみられます。一方、利用者数に反比例し、市の運行補助費は概ね増加傾向にあります。

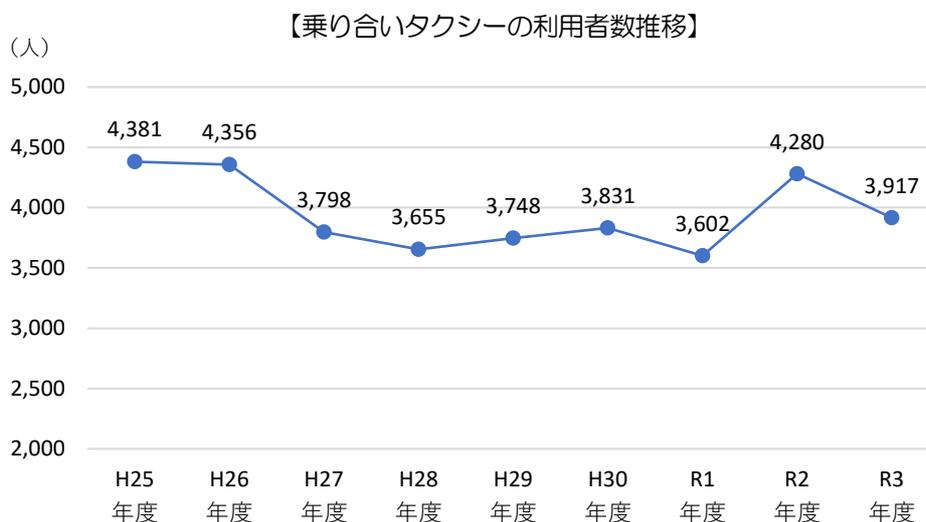


※出典：千曲市統計書

(4) 乗り合いタクシーの利用者数

乗り合いタクシーの利用者はR1年度まではやや減少傾向にありましたが、近年持ち直しており、特に新型コロナウイルスの影響が大きい時期と想定されるR2年度では増加に転じています。

H25年度からR3年度までの推移では、ある程度の維持が図られている状況です。



※出典：千曲市地域公共交通網形成計画、千曲市調べ

【ポイント】

【全体】

- バス停等の人口カバー率は高く、バス停の誘致圏である300mでほとんどをカバーしている
- 新型コロナウイルスの影響もあり、公共交通利用者数はR2年度（2022年度）に大きく減少
- ただし鉄道駅は、R2年度を除けばほぼ横ばい傾向となっており下げ止まりがみられる
- 乗り合いタクシーはR2で増加に転じており、ある程度の維持が図られている

【プラスの状況】

- 屋代高校前駅（鉄道）は近年増加傾向がみられ、千曲駅もやや増加

【マイナスの状況】

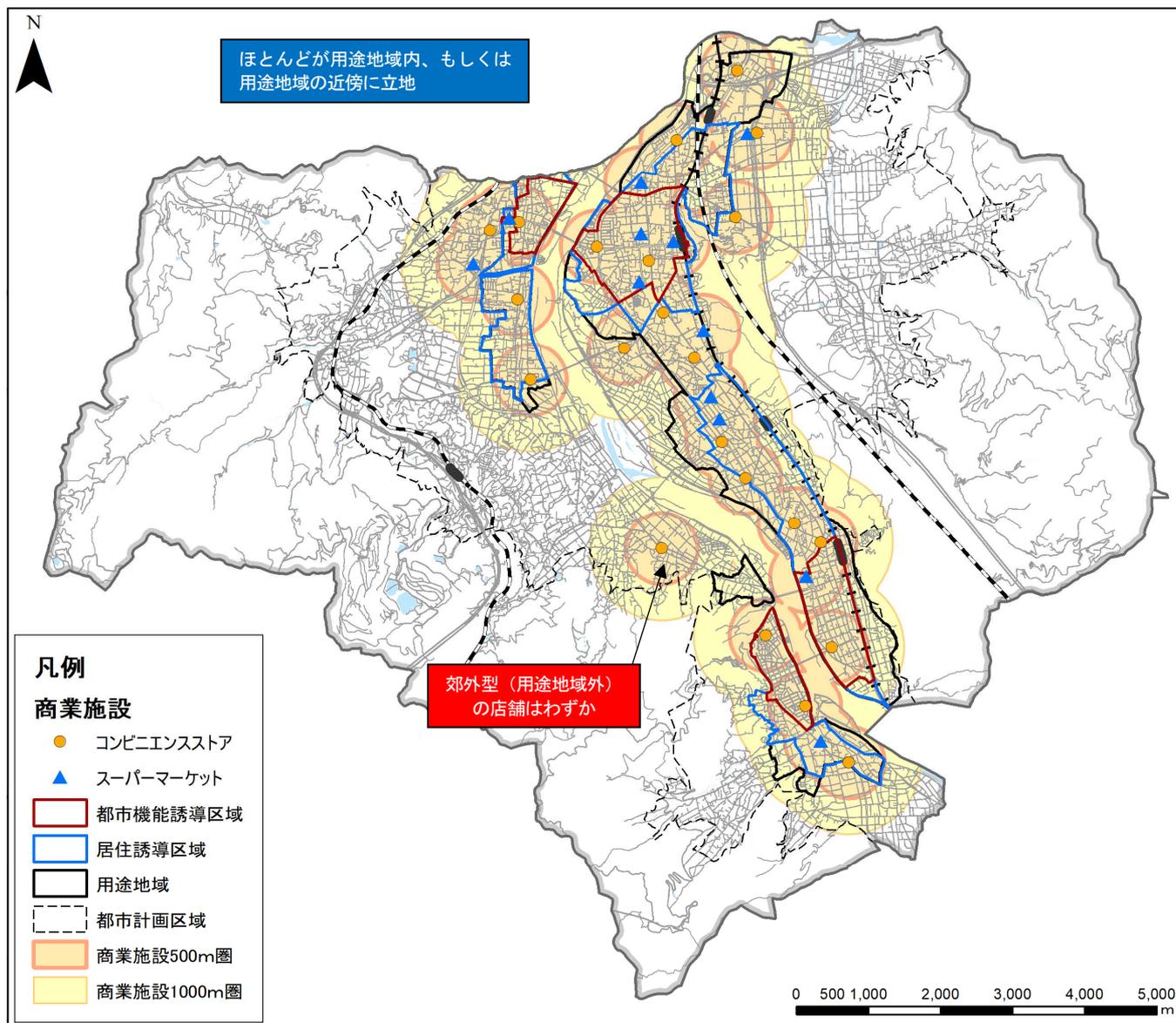
- バス交通（循環線）は減少傾向にあり、運行補助費は増加が続いている

10. 都市施設

(1) 商業施設

商業施設(コンビニエンスストア、スーパーマーケット等の物販店)は市内の36箇所に立地しており、ほとんどの商業施設が用途地域内(27箇所)、もしくは用途地域の近傍に立地しています。用途地域外の郊外に立地している店舗はごく一部に限られます。

【商業施設の分布状況】



※出典：タウンページ（2022年・令和4年5月25日現在）等

【誘導区域別の状況】

1 km圏域では、人口カバー率は用途地域内で 100%となっており、圏域を 500mに絞った場合でも、都市機能誘導区域内では 91%、居住誘導区域内では 89%、用途地域内では 85%とほぼカバーされています。

一方、用途地域外では、1 km圏域で 49%、500m圏域で 21%とカバー率が下がります。

	区域内人口	500m圏域人口	1 km圏域人口	500m圏域人口カバー率	1 km圏域人口カバー率
行政区域内	58,852	37,569	48,890	64%	83%
都市計画区域	58,646	37,569	48,885	64%	83%
用途地域	39,253	33,447	39,253	85%	100%
居住誘導区域	32,061	28,375	32,061	89%	100%
①屋代駅周辺地区	12,266	11,014	12,266	90%	100%
②稲荷山・八幡地区	6,086	4,986	6,086	82%	100%
③千曲駅・戸倉駅周辺地区	9,995	8,983	9,995	90%	100%
④戸倉・上山田温泉地区	3,714	3,392	3,714	91%	100%
都市機能誘導区域	15,312	13,929	15,312	91%	100%
①屋代駅周辺地区	5,958	5,876	5,958	99%	100%
②稲荷山地区	2,857	2,185	2,857	76%	100%
③戸倉駅周辺地区	4,271	3,728	4,271	87%	100%
④戸倉・上山田温泉地区	2,226	2,140	2,226	96%	100%
用途地域外	19,393	4,122	9,445	21%	49%

都市機能誘導区域
居住誘導区域
用途地域
ほぼカバー

カバー率
低い

※圏域は国土交通省 立地適正化計画ガイドラインより引用

500m圏域：高齢者徒歩圏、1km 圏域：厚生労働省の「地域包括ケアシステム」の日常生活圏域

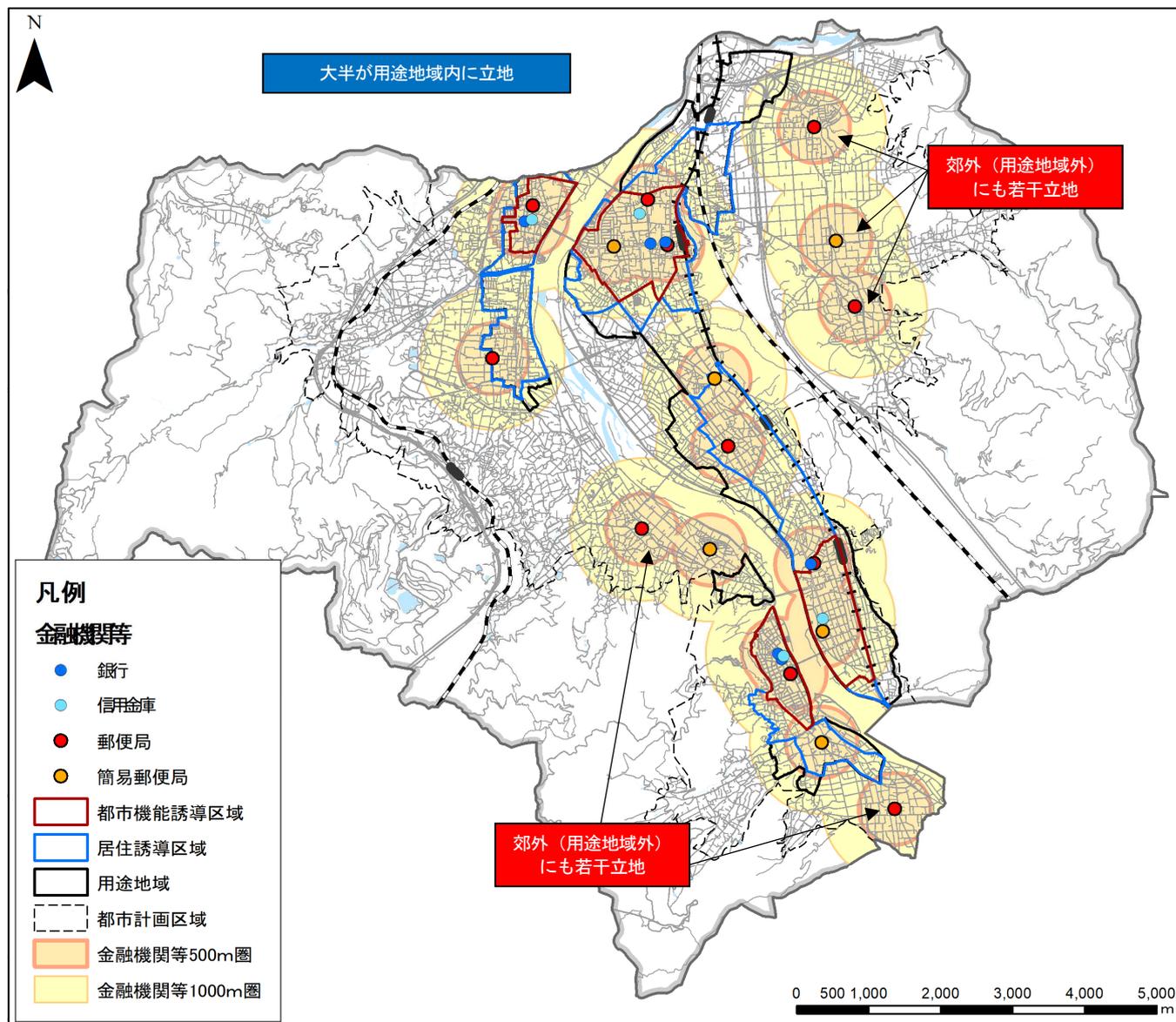
【ポイント】

- 用途地域内で 85%の人口カバー率（500m圏域）となっており、用途地域内の利便性は一定程度確保されている状況
- 用途地域外では、21%程度の人口カバー率（500m圏域）と、カバー率は低下する

(2) 金融機関等

金融機関（銀行、郵便局）は市内の27箇所に立地しており、用途地域内に大半の金融機関が立地していますが（21箇所）、市東部や千曲川左岸の一部では、郵便局の郊外（用途地域外）での立地もみられます。

【金融機関等の分布状況】



※出典：タウンページ（2022年・令和4年5月25日現在）等

【誘導区域別の状況】

1 km圏域では、人口カバー率は都市機能誘導区域内で100%、居住誘導区域内で96%、用途地域内で94%となっており、概ねカバーされている状況です。

圏域を500mに絞った場合、都市機能誘導区域内では93%と大半がカバーされますが、居住誘導区域内では67%、用途地域内では59%とややカバー率が低下します。

一方、用途地域外では、1 km圏域で61%、500m圏域で31%とカバー率が下がります。

	区域内人口	500m圏域人口	1 km圏域人口	500m圏域人口カバー率	1 km圏域人口カバー率
行政区域内	58,852	29,147	48,646	50%	83%
都市計画区域	58,646	29,145	48,641	50%	83%
用途地域	39,253	23,164	36,868	59%	94%
居住誘導区域	32,061	21,539	30,760	67%	96%
①屋代駅周辺地区	12,266	6,563	11,066	54%	90%
②稲荷山・八幡地区	6,086	4,354	6,086	72%	100%
③千曲駅・戸倉駅周辺地区	9,995	7,500	9,894	75%	99%
④戸倉・上山田温泉地区	3,714	3,122	3,714	84%	100%
都市機能誘導区域	15,312	14,285	15,312	93%	100%
①屋代駅周辺地区	5,958	5,311	5,958	89%	100%
②稲荷山地区	2,857	2,810	2,857	98%	100%
③戸倉駅周辺地区	4,271	3,960	4,271	93%	100%
④戸倉・上山田温泉地区	2,226	2,204	2,226	99%	100%
用途地域外	19,393	5,983	11,778	31%	61%

都市機能誘導区域
ほぼカバーカバー率
低い

※圏域は国土交通省 立地適正化計画ガイドラインより引用

500m圏域：高齢者徒歩圏、1km 圏域：厚生労働省の「地域包括ケアシステム」の日常生活圏域

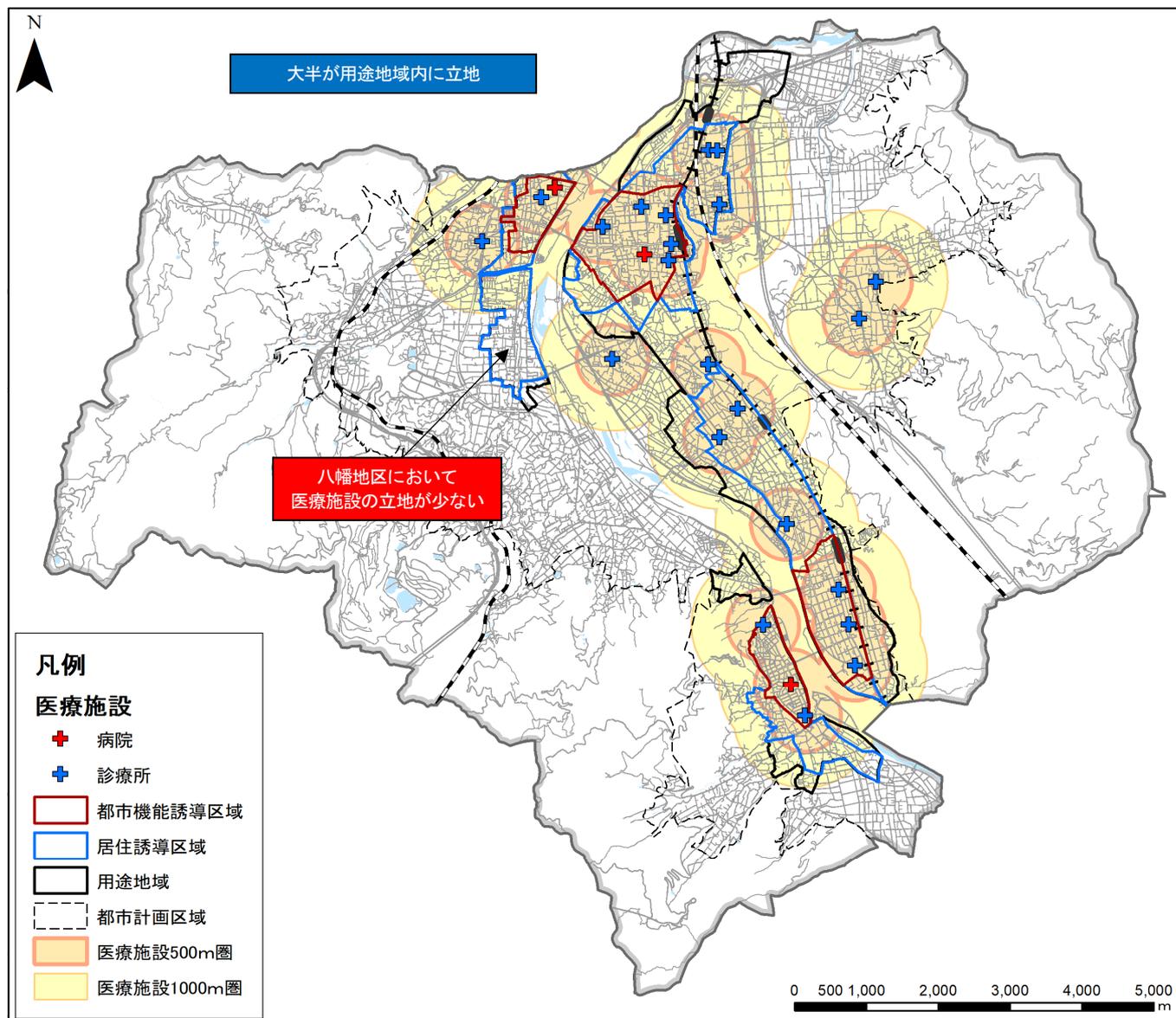
【ポイント】

- 商業施設と比べ、郊外（用途地域外）での施設の立地が若干みられる
- 都市機能誘導区域内ではほぼ人口をカバーしているが、居住誘導区域内では67%、用途地域内で59%の人口カバー率（500m圏域）となっており、若干カバー率が低い状況
- 用途地域外では、31%程度の人口カバー率（500m圏域）と、カバー率は低下する

(3) 医療施設

医療施設（病院、診療所）は市内の25箇所に立地しており、用途地域内（21箇所）もしくは用途地域の縁辺部に大半の医療施設が立地していますが、市東部の一部では、用途地域外での立地もみられます。また、誘導区域でみた場合、八幡地区での医療施設の立地が少ない状況です。

【医療施設の分布状況】



※出典：国土交通省 国土数値情報を元に修正（令和4年10月時点）

【誘導区域別の状況】

1 km圏域では、人口カバー率は都市機能誘導区域内で100%、居住誘導区域内で95%、用途地域内でも95%となっており、概ねカバーされている状況です。

圏域を500mに絞った場合、都市機能誘導区域内では90%と大半がカバーされますが、居住誘導区域内では76%、用途地域内では71%とややカバー率が低下します。また、居住誘導区域②（稲荷山・八幡地区）でのカバー率がやや低くなっています。

一方、用途地域外では、1 km圏域で40%、500m圏域で23%と大幅にカバー率が下がります。

	区域内人口	500m圏域人口	1 km圏域人口	500m圏域人口カバー率	1 km圏域人口カバー率
行政区域内	58,852	32,206	45,041	55%	77%
都市計画区域	58,646	32,205	45,028	55%	77%
用途地域	39,253	27,754	37,243	71%	95%
居住誘導区域	32,061	24,500	30,415	76%	95%
①屋代駅周辺地区	12,266	9,663	12,266	79%	100%
②稲荷山・八幡地区	6,086	3,336	4,575	55%	75%
③千曲駅・戸倉駅周辺地区	9,995	8,529	9,995	85%	100%
④戸倉・上山田温泉地区	3,714	2,972	3,579	80%	96%
都市機能誘導区域	15,312	13,764	15,312	90%	100%
①屋代駅周辺地区	5,958	5,203	5,958	87%	100%
②稲荷山地区	2,857	2,603	2,857	91%	100%
③戸倉駅周辺地区	4,271	3,732	4,271	87%	100%
④戸倉・上山田温泉地区	2,226	2,226	2,226	100%	100%
用途地域外	19,393	4,452	7,798	23%	40%

カバー率
低い

都市機能誘導区域
ほぼカバー

カバー率
低い

※圏域は国土交通省 立地適正化計画ガイドラインより引用

500m圏域：高齢者徒歩圏、1km 圏域：厚生労働省の「地域包括ケアシステム」の日常生活圏域

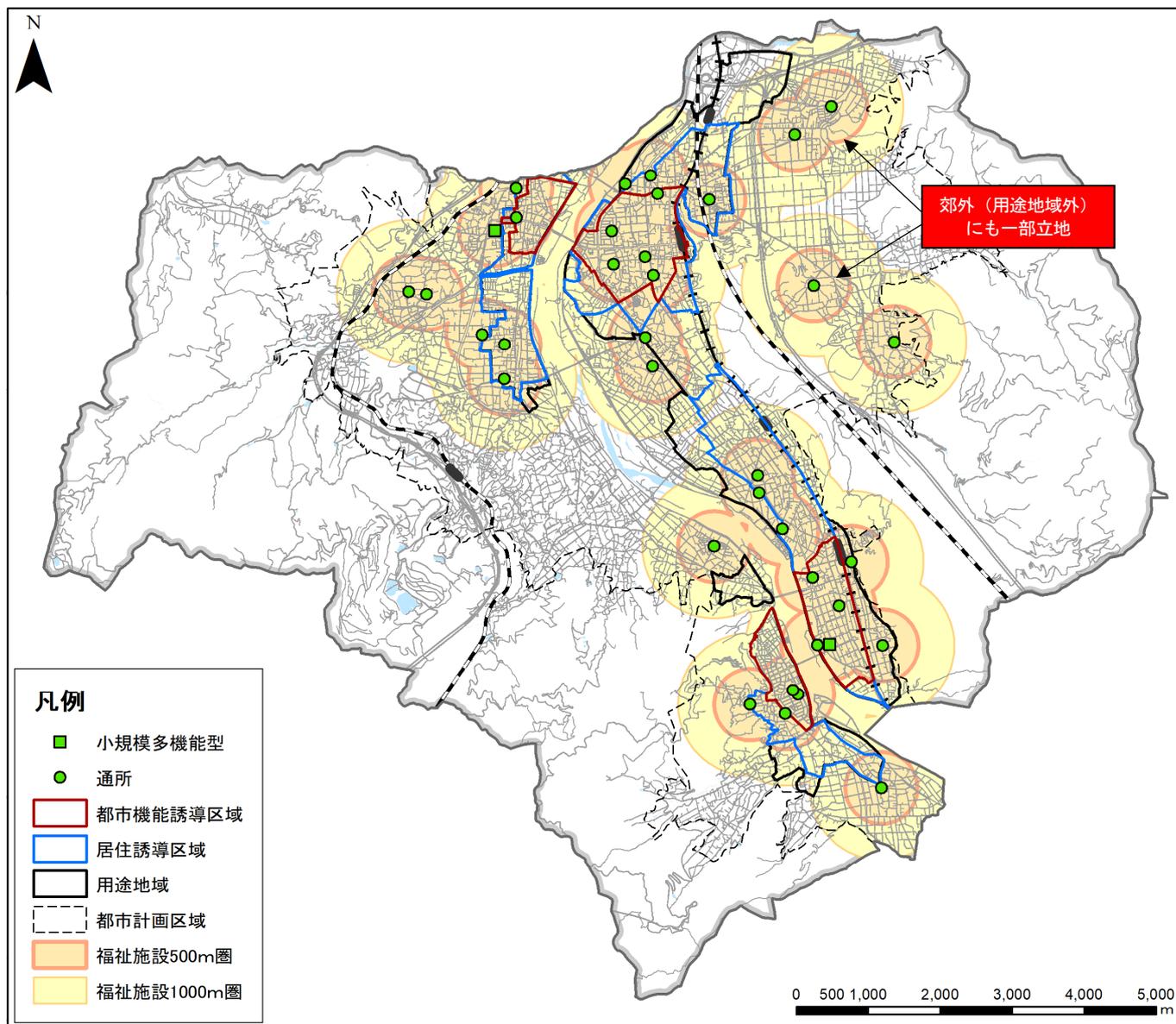
【ポイント】

- 都市機能誘導区域内ではほぼ人口をカバーしているが、居住誘導区域内では76%、用途地域内で71%の人口カバー率（500m圏域）となっており、若干カバー率が低い状況
- 居住誘導区域②（稲荷山・八幡地区）のカバー率がやや低い
- 用途地域外では23%程度の人口カバー率（500m圏域）と、カバー率は大幅に低下する

(4) 福祉施設

福祉施設（小規模多機能型、通所型）は市内の37箇所に立地しており、福祉施設の多くが用途地域内（26箇所）もしくは近隣部に立地していますが、用途地域外での立地も一定数みられます。

【福祉施設の分布状況】



※出典：市HP、国土交通省 国土数値情報を元に修正（令和4年10月時点）

【誘導区域別の状況】

1 km圏域では、人口カバー率は都市機能誘導区域内で100%、居住誘導区域内で99%、用途地域内でも98%となっており、ほぼカバーされている状況です。

圏域を500mに絞った場合、都市機能誘導区域内では93%と大半がカバーされますが、居住誘導区域内では80%、用途地域内では74%とややカバー率が低下します。また、居住誘導区域④（戸倉・上山田温泉地区）でのカバー率が69%と、若干低くなっています。

一方、用途地域外では、1 km圏域で70%と、他の施設と比べ、カバー率はやや高い状況です。

	区域内人口	500m圏域人口	1 km圏域人口	500m圏域人口カバー率	1 km圏域人口カバー率
行政区域内	58,852	37,659	51,994	64%	88%
都市計画区域	58,646	37,659	51,975	64%	89%
用途地域	39,253	29,178	38,503	74%	98%
居住誘導区域	32,061	25,624	31,730	80%	99%
①屋代駅周辺地区	12,266	10,735	12,235	88%	100%
②稲荷山・八幡地区	6,086	4,845	6,086	80%	100%
③千曲駅・戸倉駅周辺地区	9,995	7,466	9,695	75%	97%
④戸倉・上山田温泉地区	3,714	2,578	3,714	69%	100%
都市機能誘導区域	15,312	14,185	15,312	93%	100%
①屋代駅周辺地区	5,958	5,877	5,958	99%	100%
②稲荷山地区	2,857	2,465	2,857	86%	100%
③戸倉駅周辺地区	4,271	4,213	4,271	99%	100%
④戸倉・上山田温泉地区	2,226	1,630	2,226	73%	100%
用途地域外	19,393	8,481	13,491	44%	70%

他施設よりは高い

都市機能誘導区域
ほぼカバー

他施設よりは高い

ほぼカバー
(用途地域外も比較的高い)

※圏域は国土交通省 立地適正化計画ガイドラインより引用

500m圏域：高齢者徒歩圏、1km圏域：厚生労働省の「地域包括ケアシステム」の日常生活圏域

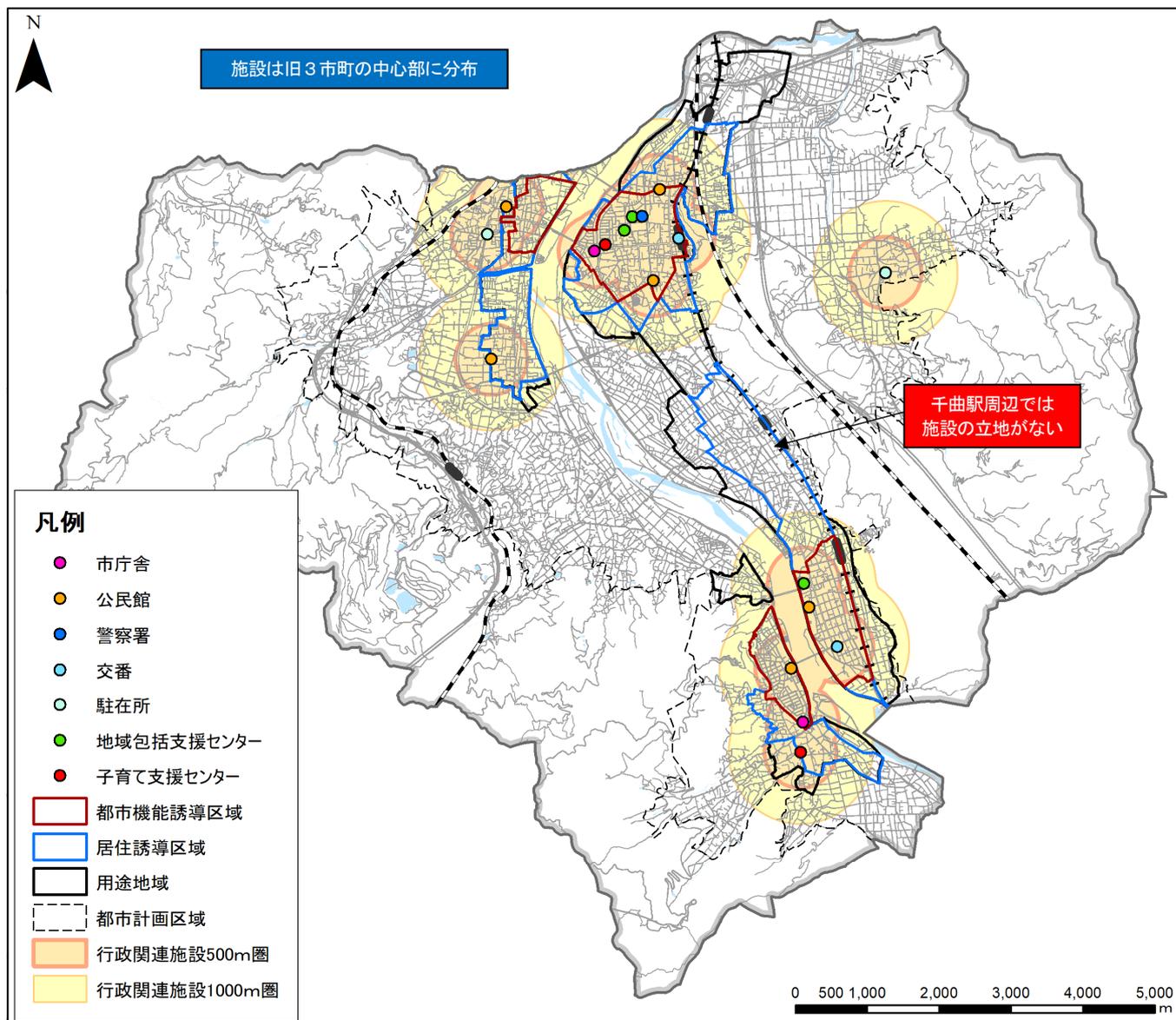
【ポイント】

- 都市機能誘導区域内ではほぼ人口をカバーしているが、居住誘導区域内では80%、用途地域内で74%の人口カバー率（500m圏域）となっており、若干カバー率が低い状況
- 居住誘導区域④（戸倉・上山田温泉地区）のカバー率がやや低い
- 用途地域外では人口カバー率が70%（1km圏域）と、他の施設と比べそこまでは低くない状況

(5) 行政関連施設

行政関連施設（市役所、公民館、警察署等）は市内の18箇所に立地しており、ほとんどが用途地域内（15箇所）もしくは近隣部に立地しており、旧3市町の中心部に分布していることがうかがえます。千曲駅周辺では、施設の立地がなく、空白エリアとなっています。

【行政関連施設の分布状況】



※出典：市HP、国土交通省 国土数値情報を元に修正（令和4年10月時点）

【誘導区域別の状況】

1 km圏域では、人口カバー率は都市機能誘導区域内で100%ですが、居住誘導区域内では85%、用途地域内では79%となっています。

圏域を500mに絞った場合、都市機能誘導区域内では87%と大半がカバーされますが、居住誘導区域内では60%、用途地域内では51%とカバー率が低下します。特に、居住誘導区域③（千曲駅・戸倉駅周辺地区）でのカバー率が39%と低くなっています。

また用途地域外では、500m圏域で11%とカバー率は非常に低い状況です。

	区域内人口	500m圏域人口	1 km圏域人口	500m圏域人口カバー率	1 km圏域人口カバー率
行政区域内	58,852	22,066	36,919	37%	63%
都市計画区域	58,646	22,064	36,918	38%	63%
用途地域	39,253	19,874	31,066	51%	79%
居住誘導区域	32,061	19,317	27,153	60%	85%
①屋代駅周辺地区	12,266	9,032	11,907	74%	97%
②稲荷山・八幡地区	6,086	3,434	6,086	56%	100%
③千曲駅・戸倉駅周辺地区	9,995	3,910	5,505	39%	55%
④戸倉・上山田温泉地区	3,714	2,941	3,655	79%	98%
都市機能誘導区域	15,312	13,305	15,312	87%	100%
①屋代駅周辺地区	5,958	5,869	5,958	99%	100%
②稲荷山地区	2,857	1,815	2,857	64%	100%
③戸倉駅周辺地区	4,271	3,648	4,271	85%	100%
④戸倉・上山田温泉地区	2,226	1,973	2,226	89%	100%
用途地域外	19,393	2,192	5,853	11%	30%

カバー率
低い

都市機能誘導区域
ほぼカバー

カバー率
特に低い

※圏域は国土交通省 立地適正化計画ガイドラインより引用

500m圏域：高齢者徒歩圏、1km 圏域：厚生労働省の「地域包括ケアシステム」の日常生活圏域

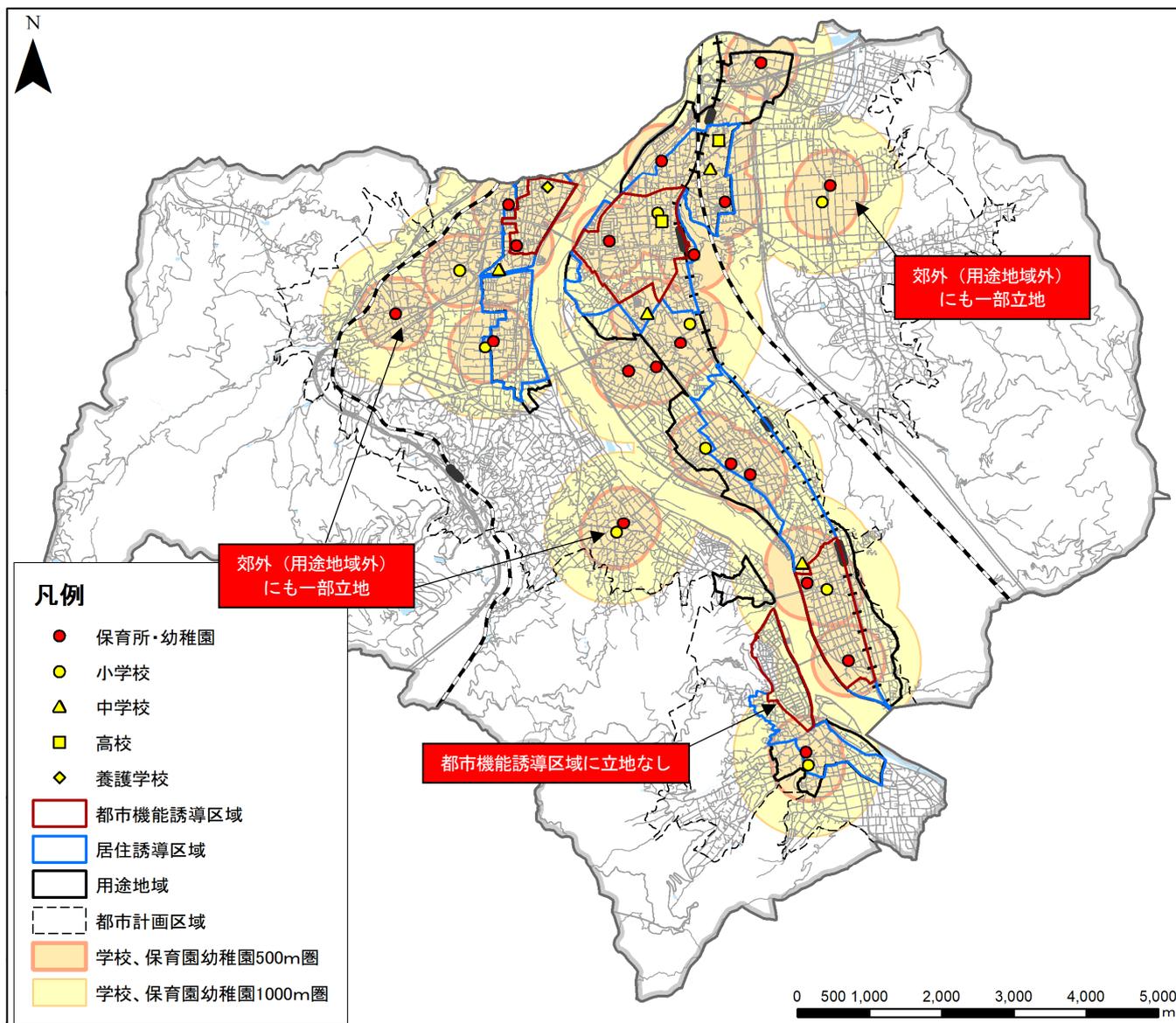
【ポイント】

- 都市機能誘導区域内では概ね人口をカバーしているが、居住誘導区域内では60%、用途地域内で51%の人口カバー率（500m圏域）となっており、カバー率が低い状況
- 居住誘導区域③（千曲駅・戸倉駅周辺地区）のカバー率が低い
- 用途地域外では11%程度の人口カバー率（500m圏域）と、カバー率は大幅に低下する

(6) 教育施設等

教育施設（小中学校、高校、保育所・幼稚園）は市内の36箇所に立地しており、多くが用途地域内に立地していますが（27箇所）、一部郊外（用途地域外）の立地もみられます。

【教育施設の分布状況】



※出典：市HP、国土交通省 国土数値情報を元に修正（令和4年10月時点）

【誘導区域別の状況】

1km圏域では、人口カバー率は都市機能誘導区域内で98%ですが、居住誘導区域内・用途地域内では99%とほぼカバーされています。

圏域を500mに絞った場合でも、都市機能誘導区域内では84%、居住誘導区域内では80%、用途地域内では78%とカバー率が比較的高い状態です。一方、誘導区域④でのカバー率が他地区と比べ著しく低くなっています。

また用途地域外では、500m圏域で29%とカバー率は低い状況です。

	区域内人口	500m圏域人口	1km圏域人口	500m圏域人口カバー率	1km圏域人口カバー率
行政区域内	58,852	36,439	50,317	62%	85%
都市計画区域	58,646	36,438	50,296	62%	86%
用途地域	39,253	30,764	39,047	78%	99%
居住誘導区域	32,061	25,495	31,764	80%	99%
①屋代駅周辺地区	12,266	11,324	12,266	92%	100%
②稲荷山・八幡地区	6,086	5,594	6,086	92%	100%
③千曲駅・戸倉駅周辺地区	9,995	7,565	9,995	76%	100%
④戸倉・上山田温泉地区	3,714	1,012	3,417	27%	92%
都市機能誘導区域	15,312	12,872	15,031	84%	98%
①屋代駅周辺地区	5,958	5,663	5,958	95%	100%
②稲荷山地区	2,857	2,857	2,857	100%	100%
③戸倉駅周辺地区	4,271	4,185	4,271	98%	100%
④戸倉・上山田温泉地区	2,226	167	1,945	8%	87%
用途地域外	19,393	5,675	11,270	29%	58%

カバー率特に低い

カバー率特に低い

ほぼカバー
(用途地域外はやや低い)

※圏域は国土交通省 立地適正化計画ガイドラインより引用

500m圏域：高齢者徒歩圏、1km圏域：厚生労働省の「地域包括ケアシステム」の日常生活圏域

【ポイント】

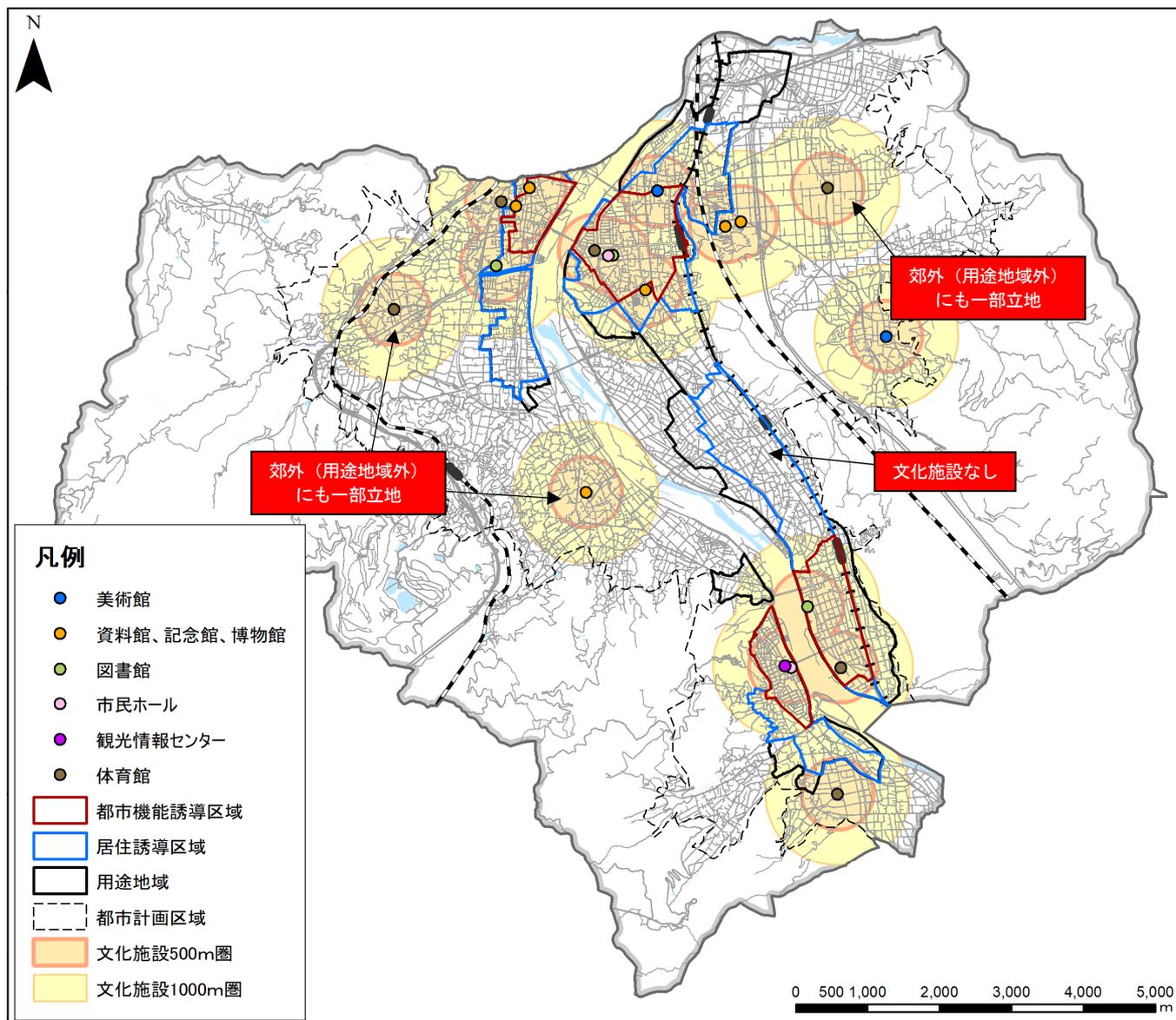
- 都市機能誘導区域内・居住誘導区域内・用途地域内では概ね人口をカバーしているが、誘導区域④は著しくカバー率が低い
- 用途地域外では29%程度の人口カバー率（500m圏域）と、カバー率が低い

(7) 文化施設

文化施設(図書館、体育館、観光情報センター等)は市内の20箇所に立地しており、用途地域内(11箇所)とその周辺を中心に立地していますが、郊外における立地も一部みられます。

また、千曲駅周辺には文化施設が立地していない状況です。

【文化施設の分布状況】



※出典：市HP、国土交通省 国土数値情報を元に修正（令和4年10月時点）

【誘導区域別の状況】

1 km圏域では、人口カバー率は都市機能誘導区域内で100%ですが、居住誘導区域内では80%、用途地域内では75%と若干低くなります。

圏域を500mに絞った場合でも、都市機能誘導区域内では84%と高い一方、居住誘導区域内では57%、用途地域内では48%と低くなります。特に居住誘導区域③（千曲駅・戸倉駅周辺地区）では500m圏域で30%と、カバー率が低くなっています。

一方、用途地域外では、1 km圏域で54%、500m圏域で21%と大幅にカバー率が下がります。

	区域内人口	500m圏域人口	1 km圏域人口	500m圏域人口カバー率	1 km圏域人口カバー率
行政区域内	58,852	22,841	39,765	39%	68%
都市計画区域	58,646	22,840	39,748	39%	68%
用途地域	39,253	18,740	29,312	48%	75%
居住誘導区域	32,061	18,292	25,501	57%	80%
①屋代駅周辺地区	12,266	8,985	11,891	73%	97%
②稲荷山・八幡地区	6,086	4,196	5,114	69%	84%
③千曲駅・戸倉駅周辺地区	9,995	2,959	4,827	30%	48%
④戸倉・上山田温泉地区	3,714	2,152	3,669	58%	99%
都市機能誘導区域	15,312	12,787	15,312	84%	100%
①屋代駅周辺地区	5,958	5,278	5,958	89%	100%
②稲荷山地区	2,857	2,776	2,857	97%	100%
③戸倉駅周辺地区	4,271	2,925	4,271	68%	100%
④戸倉・上山田温泉地区	2,226	1,808	2,226	81%	100%
用途地域外	19,393	4,101	10,453	21%	54%

カバー率特に低い

都市機能誘導区域
ほぼカバー

カバー率特に低い

※圏域は国土交通省 立地適正化計画ガイドラインより引用

500m圏域：高齢者徒歩圏、1km 圏域：厚生労働省の「地域包括ケアシステム」の日常生活圏域

【ポイント】

- 都市機能誘導区域内では人口をカバーしているが、居住誘導区域内・用途地域内では若干カバー率が下がる
- 特に居住誘導区域③（千曲駅・戸倉駅周辺地区）のカバー率が低い
- 用途地域外では21%程度の人口カバー率（500m圏域）と、カバー率が低い

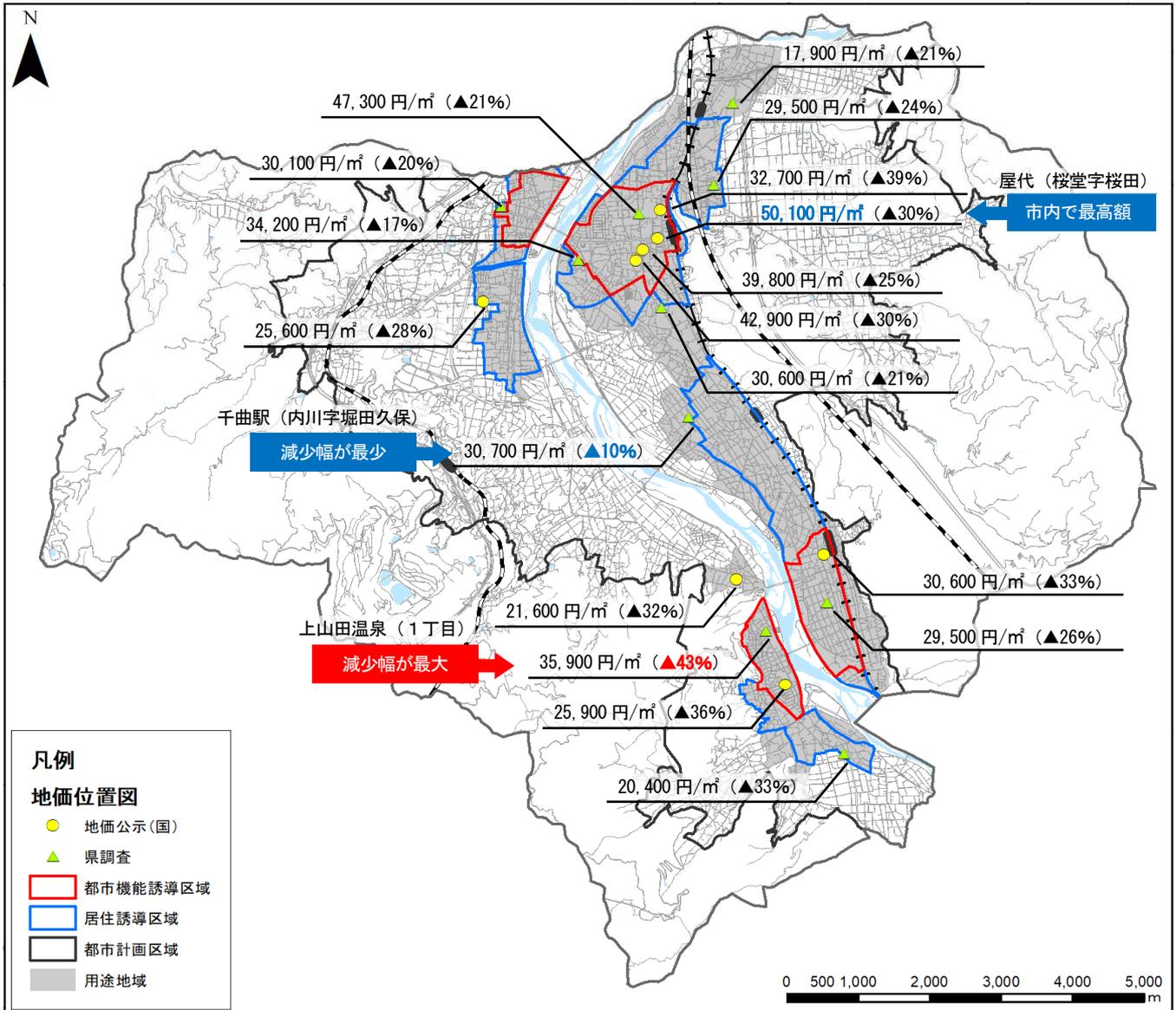
11. その他

(1) 地価

H22年からR2年の10年間に於いて、地価の減少幅が最も少ないのは千曲駅周辺であり10%程度の減少に留まっています。一方で減少幅が最大なのは上山田温泉であり、43%の減少となっています。

地価が最も高額なのは屋代駅前の50,100円/㎡となっていますが、この周辺の地区はいずれも30%~40%近くの減少となっています。

【地価の状況】



※出典：国土交通省地価公示、長野県地価調査

【ポイント】

- 地価はこの10年でどの調査地点でも減少が続いている
- ただし千曲駅が整備された周辺箇所では減少幅が比較的限定的である
- 一方で上山田温泉では地価の下落が顕著にみられている

(2) 固定資産税等

区域ごとの面積、人口、都市計画税、固定資産税の内訳をみると、約12%の面積（用途地域）から都市計画税、固定資産税の約70%を得ています。

また、単位面積当たりの都市計画税、固定資産税をみると、用途地域は用途白地地域の約7倍となっています。

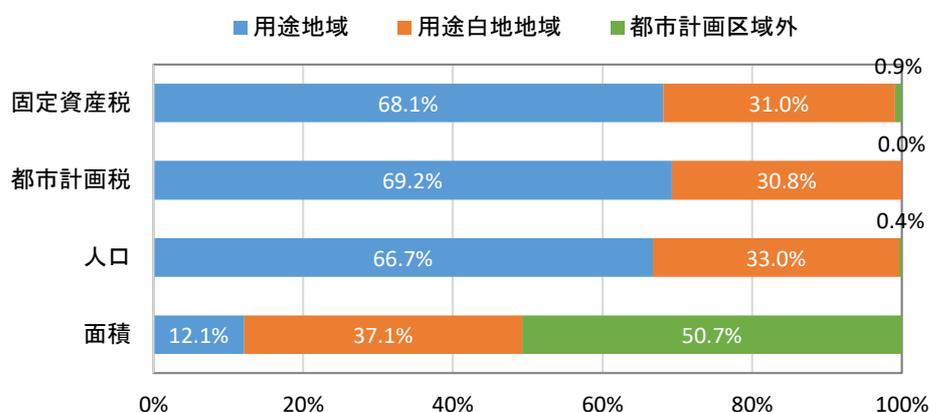
なお、前計画時点（H26.1）での都市計画税額は110,428千円、固定資産税額は1,141,589千円であり、前回時点から減少がみられています。今後においても、人口減少、市街地の低密度化の進行により、税収の減少が予想されます。

【区域ごとの人口・面積・都市計画税・固定資産税】

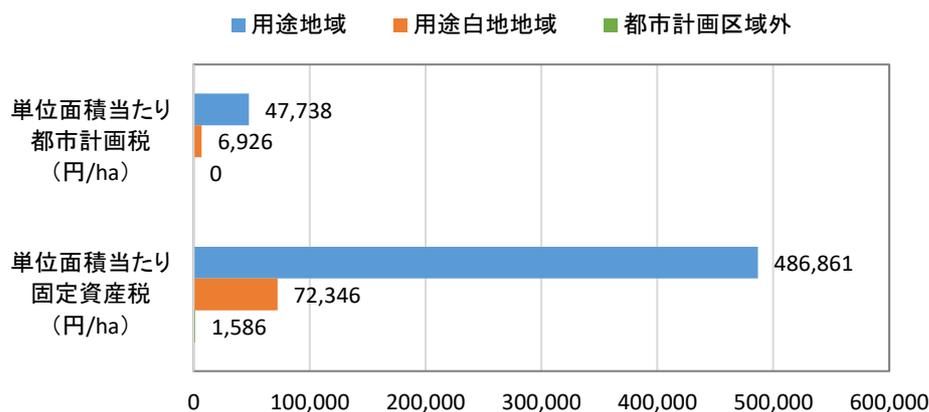
	面積 (ha)	人口 (人)	都市計画税 (千円)	固定資産税 (千円)	単位面積当たり 都市計画税 (円/ha)	単位面積当たり 固定資産税 (円/ha)
用途地域	1,452	39,253	69,315	706,921	47,738	486,861
用途白地地域	4,448	19,393	30,806	321,795	6,926	72,346
都市計画区域外	6,079	206	0	9,643	0	1,586
合計	11,979	58,852	100,121	1,038,359	54,664	560,793

※人口はR2時点、税額は千曲市データを加工（R4年1月1日時点）

【都市計画税・固定資産税の比率】



【単位面積当たりの都市計画税・固定資産税】



第4章. 千曲市の災害

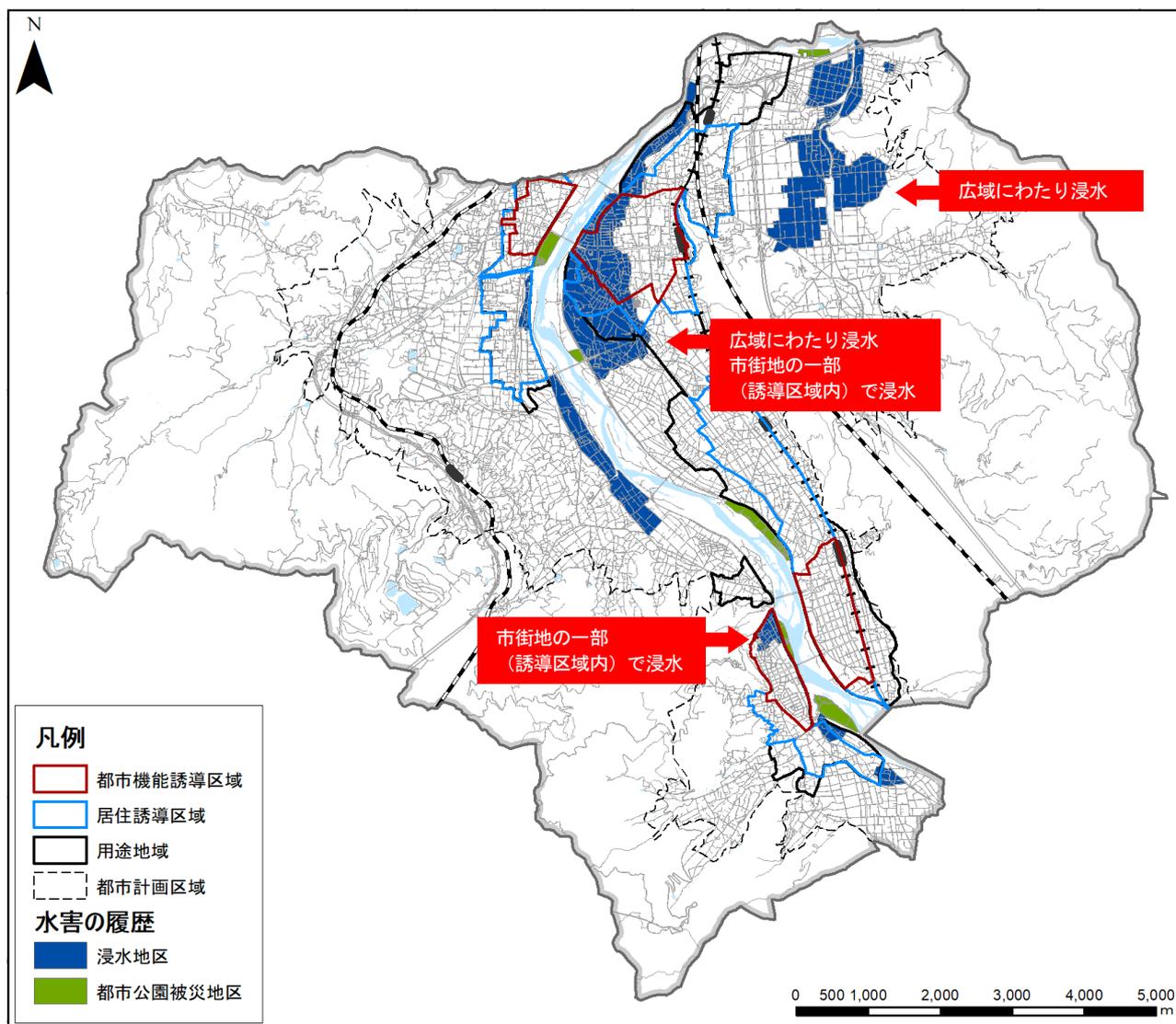
1. 過去の災害履歴

(1) 水害の発生エリア

令和元年東日本台風（令和元年10月12日～13日）では、市内の多くの箇所では浸水被害が発生し、千曲川右岸の市街地や森・倉科地区の農地などに大きな被害がみられました。

特に誘導区域①や④において、浸水した箇所が存在しています。

【過去に水害が発生したエリア（令和元年東日本台風）】



※出典：千曲市都市計画基礎調査（R2）

(2) 水害の発生状況

概ね10年間における水害の発生状況は以下の通りとなっており、令和元年東日本台風での被害は床上浸水が約1,200戸、床上浸水が425戸と際立っています。

発生年月日	浸水面積 (ha)	床上 浸水 (戸)	床下 浸水 (戸)	市内の主な被害状況	備考
平成21年8月(豪雨)			5	道路及び畑法面崩落11件、土砂流入他3件	千曲市全域
平成22年7月2日(局地豪雨)		1	16	上山田温泉の飲食店や住宅が床上・床下浸水(内稲荷山地区1戸)	上山田温泉 他
平成22年8月10日(局地豪雨)		1	15	上山田温泉の飲食店や住宅が床上・床下浸水(内戸倉地区3戸)	上山田温泉 ・戸倉地区
平成22年8月31日(局地豪雨)		1		屋代本町の五十里川が越水	屋代地区
平成23年5月29日(台風2号)	0.11			土砂流出、法面崩落路肩決壊、市道への倒木3箇所、八幡親水公園への浸水による流木・土砂堆積被害	八幡地区他
平成23年7月11日(大雨・洪水)			2	水路の越水による床下浸水2戸	戸倉地区
平成23年9月20日(台風15号)				(1) 戸倉千曲川緑地: 漂流物堆積(流木等)L=250m (2) 雨宮緑地: 漂流物及び土砂堆積27,000m ² (3) 千曲橋緑地: 漂流物及び土砂堆積30,000m ² (4) 八幡親水公園(水辺の楽校) 漂流物及び土砂堆積2,000m ²	千曲市全域
平成24年7月30日(集中豪雨)			3	住宅の床下浸水3戸他、落雷、強風による被害	千曲市全域
平成24年9月25日(台風18号)				農・林地、林道、公共土木施設、都市公園、棚田等に被害(千曲川杭瀬下観測所歴代5位の水位を記録)	千曲市全域
平成24年9月30日(台風17号)				八幡大池地区: 法面崩壊、土砂流出 八幡峰地区: 法面崩壊	八幡地区
平成25年10月26日(台風19号)				強風による被害	戸倉地区
平成28年8月1日(台風21号)			5	大雨による被害	上山田温泉 戸倉地区
平成29年10月22日(台風19号)			1	前河原団地	屋代地区
令和元年10月12日~10月13日		425	1,197	・令和元年東日本台風による被害 初めてとなる大雨特別警報が発表され、植生、東部地区を中心に市内各地で大規模な浸水被害が発生し、床上浸水425戸、床下浸水1,197戸、市内全域で29カ所の避難所を開設し、5,173人が避難	千曲市全域

※出典：都市計画基礎調査(R2)

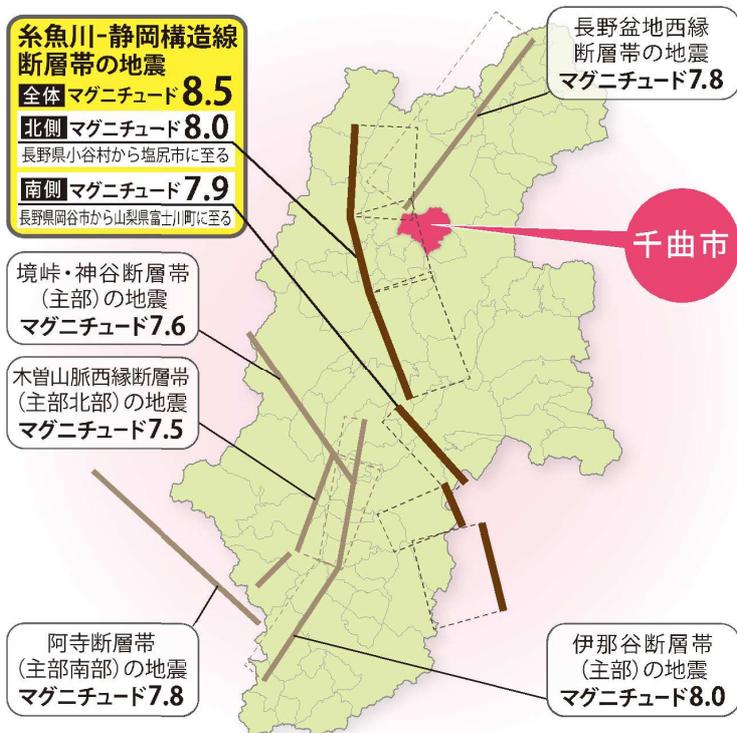
【ポイント】

- 近年約10年間で発生した災害の中では令和元年東日本台風(R元.10)の被害が際立って大きい
- 都市機能誘導区域や都市機能誘導区域の一部にも浸水被害が発生した

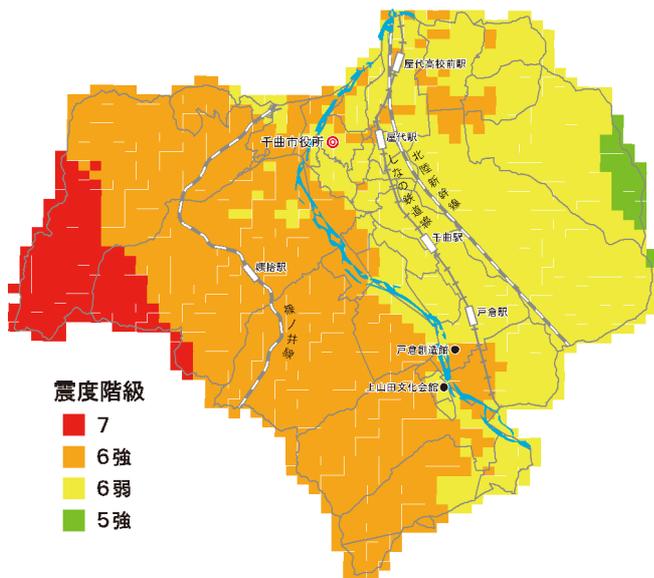
2. 地震

長野県では、県内に甚大な被害をもたらす地震として、6つの活断層による地震が想定されています。うち千曲市では糸魚川-静岡構造線断層帯の地震により、最大深度7が想定されており、特に市の西部において強い揺れが想定されています。

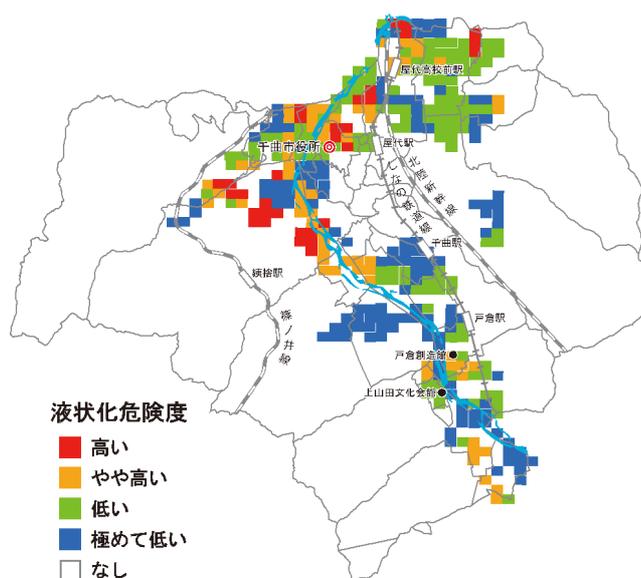
【県内で想定されている断層】



【想定震度】



【液状化のリスク】



※出典：千曲市防災マップ（揺れやすさマップ・液状化マップ）

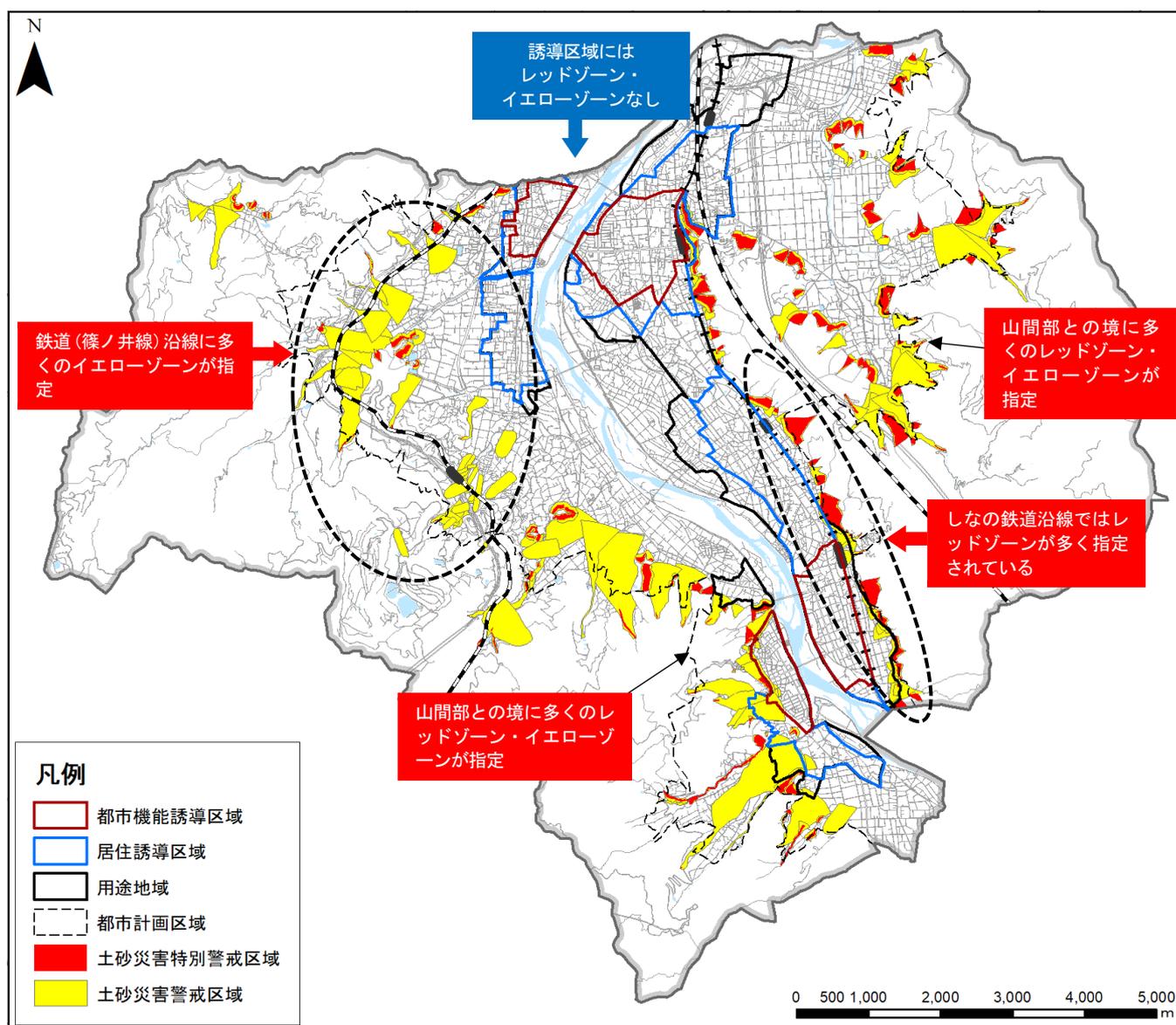
3. 土砂災害

平野部では土砂災害は想定されていませんが、山間部との境においては土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）、土砂災害警戒区域（イエローゾーン）が指定されています。

山際を通過する鉄道沿線に多くのイエローゾーンが指定されており、特にしなの鉄道沿いにはレッドゾーンが多く指定されています。

なお、現在の誘導区域内に指定されているレッドゾーン・イエローゾーンはほぼありません。

【土砂災害が想定されているエリア】



【ポイント】

- 山間部との境に多くのレッドゾーン・イエローゾーンが指定されており、鉄道沿線上に指定されている箇所が多くみられる
- 誘導区域内に指定されている箇所はほぼなく、誘導区域内で最も懸念される災害は水害である

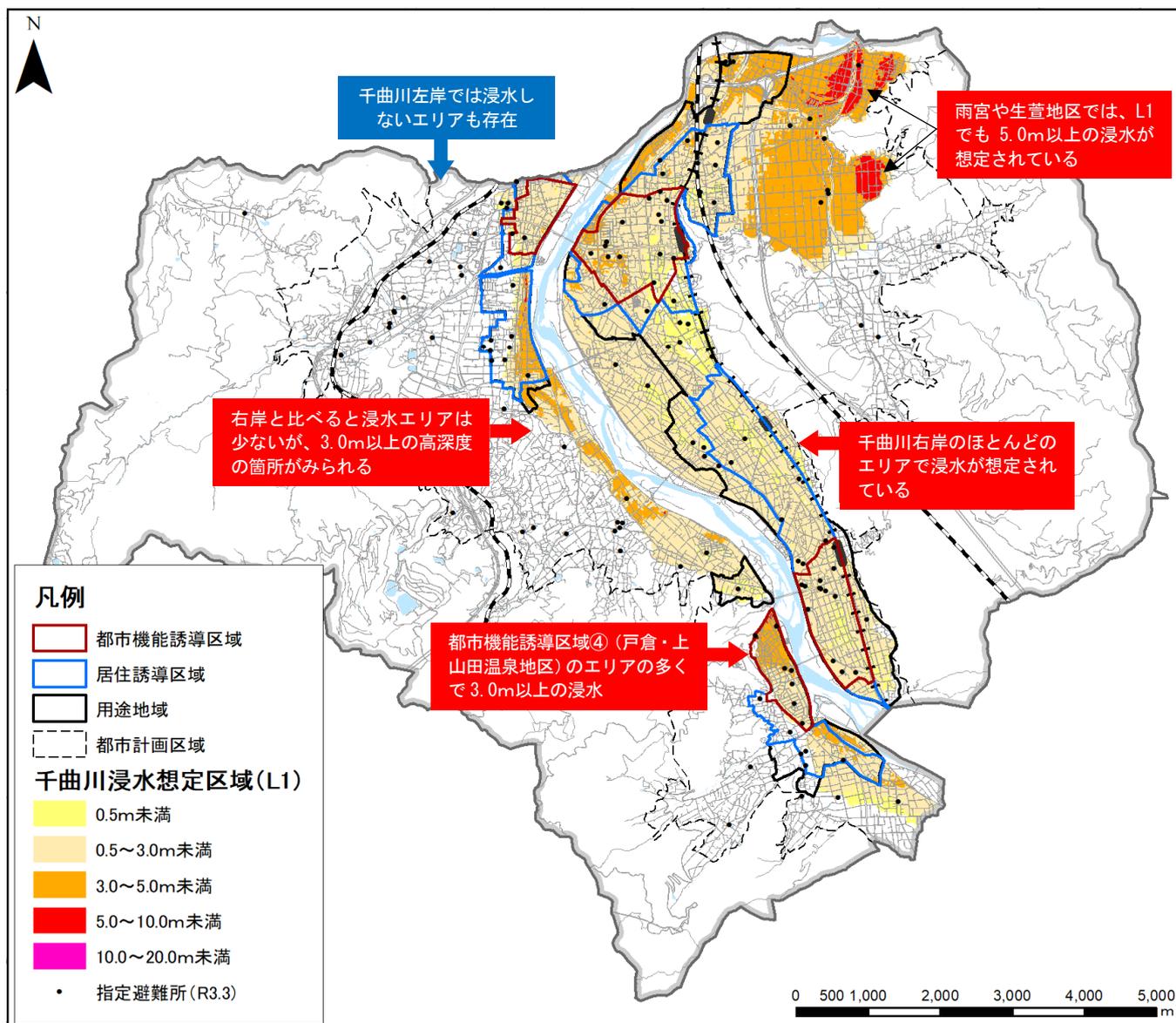
4. 水害 (L1)

千曲川の概ね 100 年に 1 度程度の浸水想定 (L1) では、千曲川の右岸のほとんどのエリアで浸水することが想定されています。

千曲川左岸では右岸と比べ、浸水しないエリアも存在しているものの、千曲川沿いでは 3.0m 以上の浸水深が想定されているエリアもあります。特に都市機能誘導区域④ (戸倉・上山田温泉地区) では、誘導区域の多くのエリアで 3.0m 以上の浸水が想定されています。

また、雨宮や生萱地区の一部では 5.0m 以上の浸水が想定されているエリアも存在します。

【水害が想定されているエリアと浸水深 (L1、概ね 100 年に一度)】



【誘導区域別の状況】

浸水想定エリアは、都市計画区域全体では38%程度ですが、用途地域では87%とほとんどが浸水すると想定されています。誘導区域内では、誘導区域①、③のほぼ全てのエリアで浸水が想定されています。

3m以上(1階部分が完全に浸水)のエリアに限定した場合は、都市計画区域で10%、用途地域で12%程度ですが、都市機能誘導区域④(戸倉・上山田温泉地区)では42%と面積割合が最も高くなっています。

	総面積(ha)	浸水面積(ha)		浸水割合(%)	
			3m以上		3m以上
都市計画区域	5,900	2,231	590	38%	10%
用途地域	1,452	1,269	175	87%	12%
居住誘導区域	1,018	891	97	88%	9%
①屋代駅周辺地区	362	346	31	96%	9%
②稲荷山・八幡地区	189	123	29	65%	15%
③千曲駅・戸倉駅周辺地区	325	320	0	99%	0%
④戸倉・上山田温泉地区	142	101	36	71%	25%
都市機能誘導区域	403	389	48	97%	12%
①屋代駅周辺地区	163	160	20	98%	12%
②稲荷山地区	58	55	1	95%	1%
③戸倉駅周辺地区	117	116	0	99%	0%
④戸倉・上山田温泉地区	65	58	27	90%	42%

ほぼ全てで浸水
3m以上は限定的

ほぼ全てで浸水
3m以上は限定的

3m以上の割合
が高い

※GISにより計測・算出

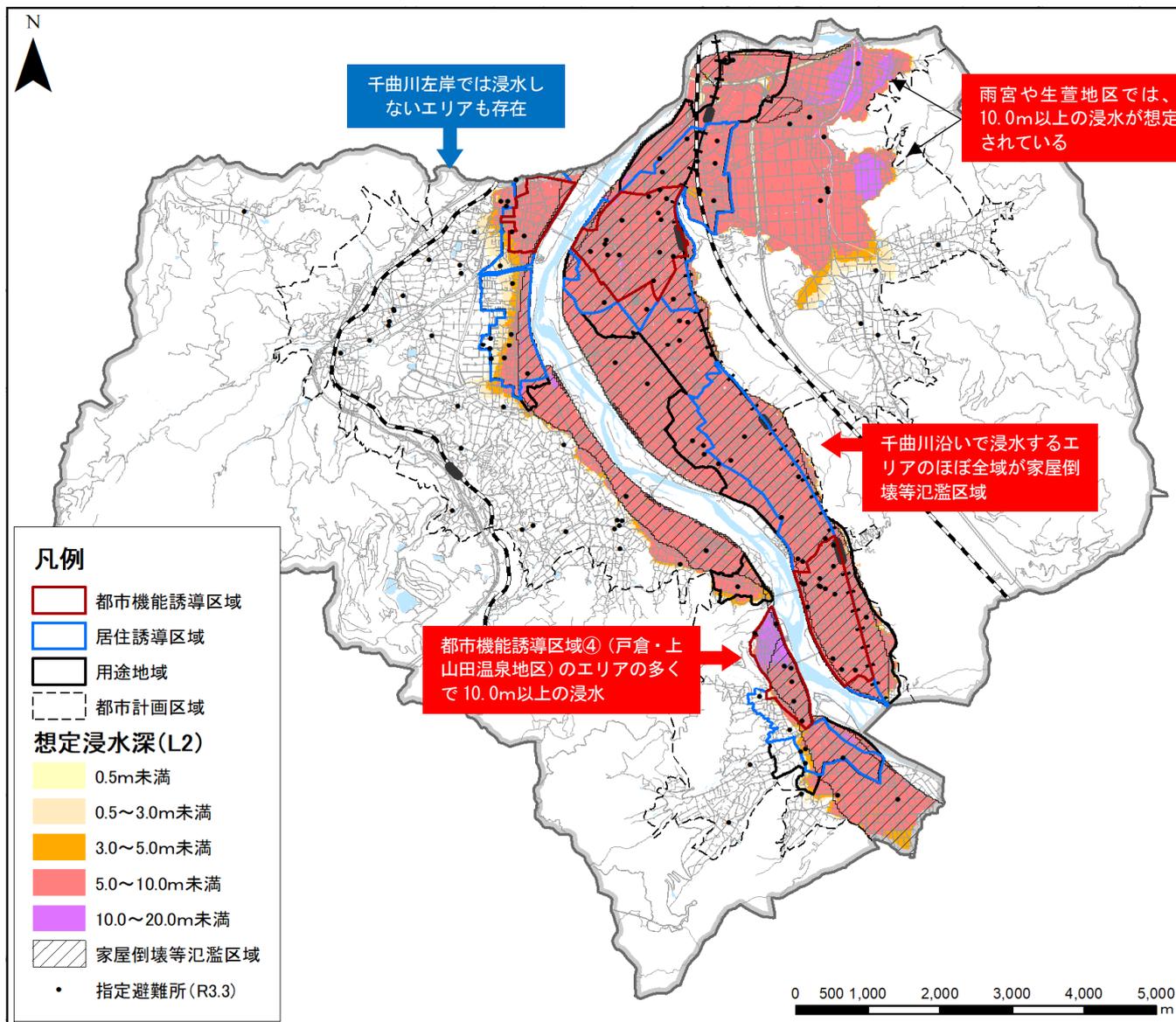
【ポイント】

- 千曲川右岸のほとんどのエリアで浸水が想定されている
- 千曲川左岸では浸水エリアは少ないが、河川沿いの一部では3.0m以上のエリアも存在
- 誘導区域のほとんどのエリアで浸水が想定されており、特に都市機能誘導区域④(戸倉・上山田温泉地区)では3.0m以上のエリア割合が高い

5. 水害 (L2)

千曲川の想定最大規模(1,000年に1度)の浸水想定(L2)では、浸水エリアのほとんどのエリアで5.0m以上の非常に深い浸水が想定されており、そのほぼ全域が家屋倒壊等氾濫区域(洪水時に家屋が流出・倒壊等のおそれがある範囲)となっています。

【水害が想定されているエリアと浸水深(L2、概ね1000年に一度)】



【誘導区域別の状況】

浸水想定エリアは、都市計画区域全体では44%程度ですが、用途地域では96%とほぼ全てのエリアが浸水すると想定されています。誘導区域内では、居住誘導区域全体で95%、都市機能誘導区域全体で99%と、ほぼ全域で浸水することが想定されています。

最大規模を想定した場合、用途地域・誘導区域内のどのエリアでも浸水リスクが存在していることがうかがえます。

	総面積(ha)	浸水面積(ha)		浸水割合(%)	
			3m以上		3m以上
都市計画区域	5,900	2,602	2,459	44%	42%
用途地域	1,452	1,388	1,348	96%	93%
居住誘導区域	1,018	970	942	95%	93%
①屋代駅周辺地区	362	361	361	100%	100%
②稲荷山・八幡地区	189	166	144	88%	76%
③千曲駅・戸倉駅周辺地区	325	325	325	100%	100%
④戸倉・上山田温泉地区	142	118	113	83%	80%
都市機能誘導区域	403	400	399	99%	99%
①屋代駅周辺地区	163	163	163	100%	100%
②稲荷山地区	58	58	58	100%	100%
③戸倉駅周辺地区	117	117	117	100%	100%
④戸倉・上山田温泉地区	65	62	61	96%	94%

ほぼ全ての
エリアで
浸水が
想定され
ている

※GISにより計測・算出

【ポイント】

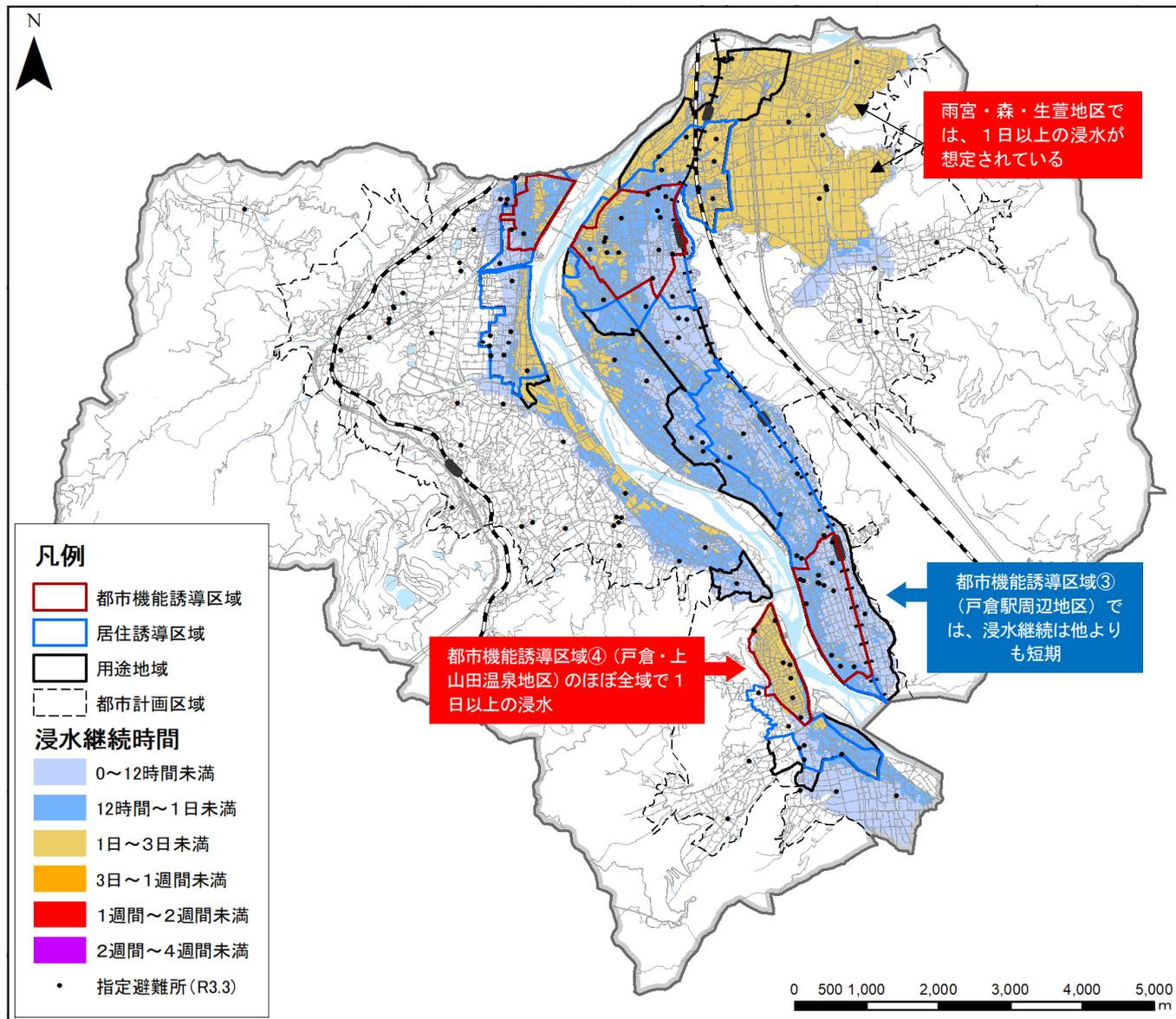
- 最大規模を想定した場合は、用途地域内のほぼ全域で高レベルの水害リスクが存在している
- 家屋倒壊等氾濫区域も浸水想定区域のほとんどエリアで想定されており、千曲川沿いにおける水害リスクの高さがうかがえる

6. 水害（浸水継続時間）

千曲川の想定最大規模（1,000年に1度：L2）の浸水継続時間については、都市機能誘導区域④（戸倉・上山田温泉地区）や市東部の雨宮、森、生萱地区では1日以上浸水が想定されています。

また、都市機能誘導区域③（戸倉駅周辺地区）では、他の地区よりも浸水継続時間は12時間程度とやや短期となっています。

【浸水継続時間（L2、概ね1000年に一度）】



【誘導区域別の状況】

都市機能誘導区域④（戸倉・上山田温泉地区）では、浸水継続時間が1日以上のエリアが84%にわたるなど、浸水した場合の長期化が懸念されます。

一方で都市機能誘導区域③（戸倉駅周辺地区）では1%程度と、長期化の可能性は低い状況です。

	総面積 (ha)	浸水面積 (ha)		浸水割合 (%)	
			継続時間 1日以上		継続時間 1日以上
都市計画区域	5,900	2,610	958	44%	16%
用途地域	1,452	1,390	363	96%	25%
居住誘導区域	1,018	971	234	95%	23%
①屋代駅周辺地区	362	361	127	100%	35%
②稻荷山・八幡地区	189	167	44	88%	23%
③千曲駅・戸倉駅周辺地区	325	325	4	100%	1%
④戸倉・上山田温泉地区	142	118	59	83%	42%
都市機能誘導区域	403	400	96	99%	24%
①屋代駅周辺地区	163	163	28	100%	17%
②稻荷山地区	58	58	13	100%	22%
③戸倉駅周辺地区	117	117	1	100%	1%
④戸倉・上山田温泉地区	65	62	55	96%	84%

← 比較的短期

← 長期にわたる

※GISにより計測・算出

【ポイント】

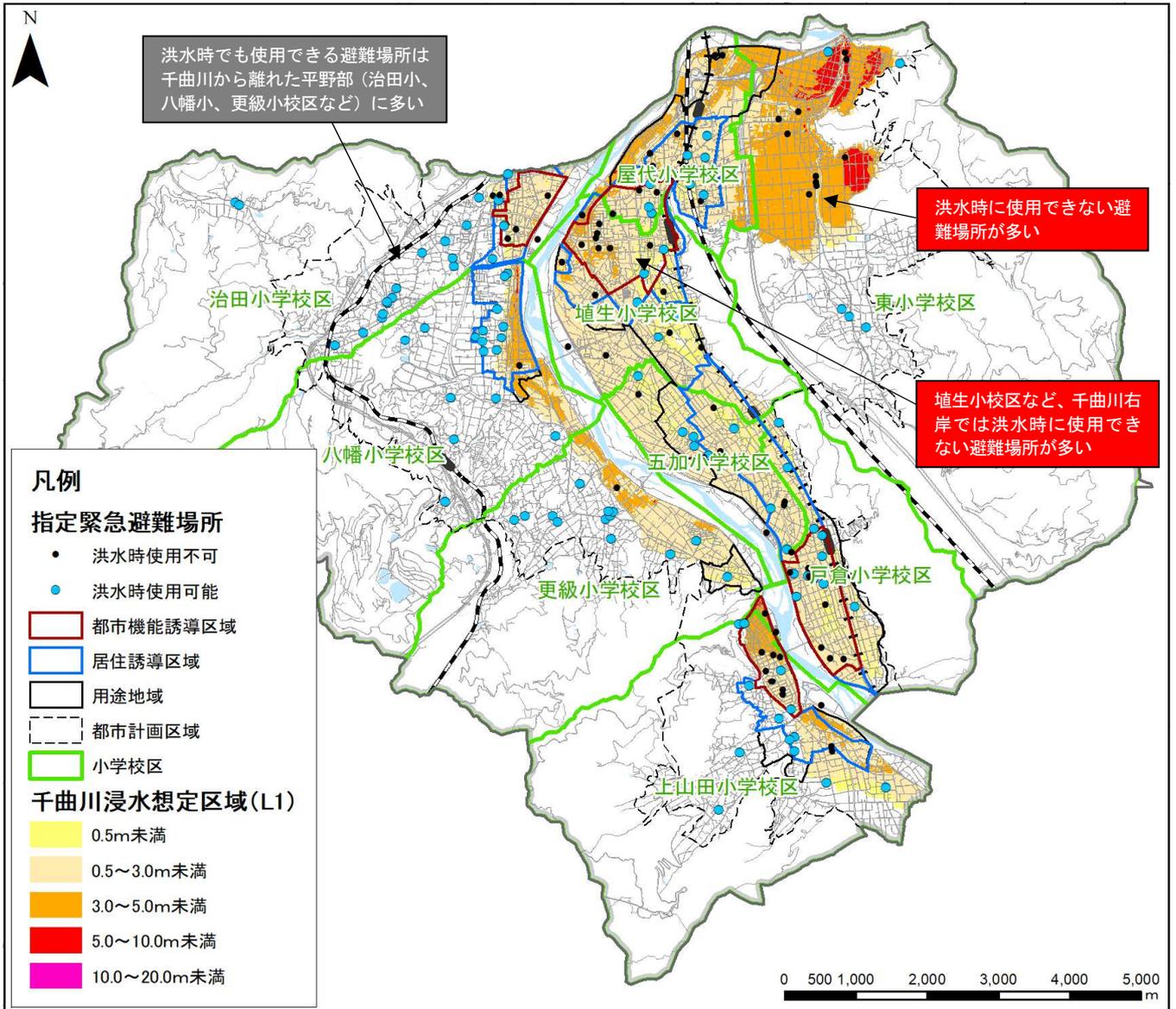
- 市東部の雨宮、森、生萱地区や都市機能誘導区域④（戸倉・上山田温泉地区）では浸水した場合長期にわたる可能性がある
- 都市機能誘導区域③（戸倉駅周辺地区）では浸水時間は比較的短期

7. 指定緊急避難場所

指定緊急避難場所（災害時に緊急・一時的に避難する場所）については、洪水時に使用できない緊急避難場所が埴生小学校区など、特に千曲川右岸の地区に多く存在しています。また、東小学校区においても使用できない緊急避難場所が多く存在しています。

洪水時でも使用できる緊急避難場所は、千曲川から離れた平野部（治田小、八幡小、更級小校区など）に多く存在しています。

【小学校区と指定緊急避難場所、浸水想定区域（L1）の位置】



【区域別の指定緊急避難場所の状況】

市全体では収容人数は足りていますが、用途地域内に限定した場合、収容人数が不足する状態です。

また、小学校区別でみた場合※、千曲川左岸側の更級小、治田小、八幡小校区などの校区では緊急避難場所の収容人数が足りている一方、右岸側の屋代小、戸倉小、五加小、埴生小校区などは収容人数が大きく不足しています。

※避難先は市として明確に定めていないが、避難行動は概ね日常生活の中心となっている小学校単位となると想定し、以下の区分で算出した

	区域内人口		校区内 使用可能 緊急避難 場所数	校区内 収容人数	差分	
		うちL1 浸水 エリア人口				うち浸水 エリア内 差分
行政区域	58,741	41,214	104	61,206	2,465	19,992
屋代小学校区	6,955	6,754	8	2,600	▲4,355	▲4,154
戸倉小学校区	6,682	5,678	12	1,823	▲4,859	▲3,855
五加小学校区	6,644	6,549	7	650	▲5,994	▲5,899
更級小学校区	3,562	1,377	13	12,500	8,938	11,123
治田小学校区	6,555	2,986	20	15,523	8,968	12,537
上山田小学校区	5,550	2,909	14	9,700	4,150	6,791
埴生小学校区	10,858	10,047	6	1,050	▲9,808	▲8,997
東小学校区	7,298	3,699	7	4,990	▲2,308	1,291
八幡小学校区	4,637	1,215	17	12,370	7,733	11,155
都市計画区域	57,927	41,212	101	58,566	639	17,354
用途地域	36,363	32,638	51	23,856	▲12,507	▲8,782
居住誘導区域	28,097	25,232	42	22,826	▲5,271	▲2,406
都市機能誘導区域	12,808	6,440	15	2,290	▲10,518	▲4,150

右岸側の
校区で緊急避難場所が不足

※人口（R2）は100mメッシュをGISで案分し計測・算出したため統計上の総人口とは一致しない

【ポイント】

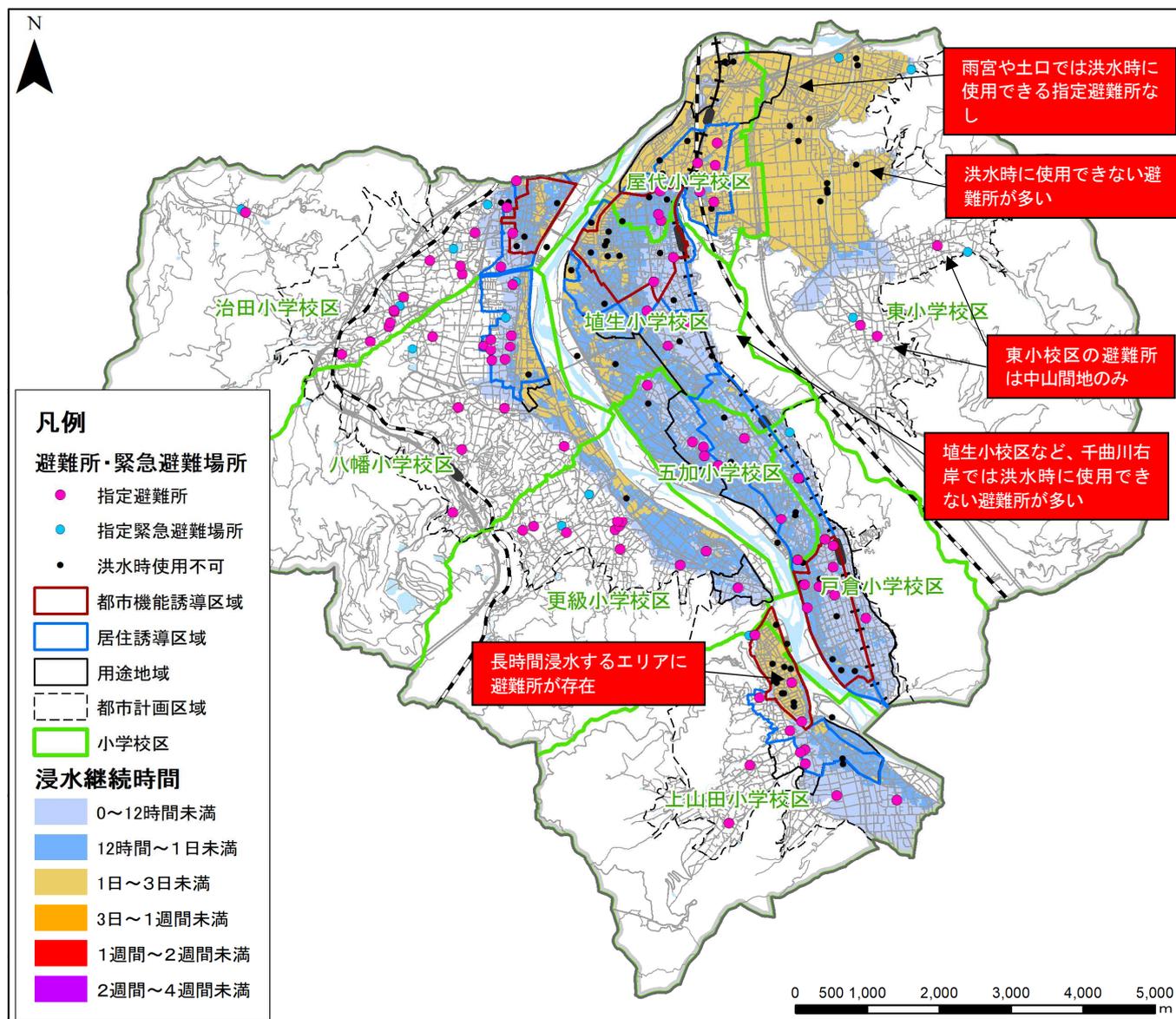
- 千曲川沿い（特に右岸側）は洪水時に使用できない緊急避難場所が多く存在する
- 右岸側に位置する屋代、戸倉、五加、埴生小学校区などで緊急避難場所が不足する可能性がある
- 左岸側の小学校区は緊急避難場所に比較的に余裕がある

8. 指定避難所

指定避難所（災害時に長期の避難生活を送る場所）については、指定緊急避難場所と同様、洪水時に使用できない避難所が千曲川の右岸の地区に多く存在しています。

洪水時でも使用できる避難所は、千曲川から離れた平野部・中山間地に多く、特に左岸側の校区（治田小、八幡小、更級小校区など）に多く存在しています。

【小学校区と指定避難所、浸水継続時間（L2）の位置】



【区域別の指定避難所の状況】

指定避難所に限定して収容人数の充足状況をみた場合（L1 エリアの住民全員が避難したとした場合）、市全体でも避難所の収容人数は不足している状態です。

また、小学校区別でみた場合※、千曲川右岸側の全ての小学校区（屋代小、戸倉小、五加小、埴生小、東小校区）で収容人数が大きく不足することが想定されます。

一方、更級小、治田小、八幡小校区などの千曲川左岸側の校区では、避難所の収容人数に余裕がある計算となっています。

※避難先は市として明確に定めていないが、避難行動は概ね日常生活の中心となっている小学校単位となると想定し、以下の区分で算出した

	区域内人口		校区内 使用可能 避難所数	校区内 収容人数	差分	
		うちL1 浸水 エリア人口				うち浸水 エリア内 差分
行政区域	58,741	41,214	89	37,806	▲20,935	▲3,408
屋代小学校区	6,955	6,754	8	2,600	▲4,355	▲4,154
戸倉小学校区	6,682	5,678	11	1,543	▲5,139	▲4,135
五加小学校区	6,644	6,549	7	650	▲5,994	▲5,899
更級小学校区	3,562	1,377	11	8,550	4,988	7,173
治田小学校区	6,555	2,986	16	4,053	▲2,502	1,067
上山田小学校区	5,550	2,909	13	8,580	3,030	5,671
埴生小学校区	10,858	10,047	6	1,050	▲9,808	▲8,997
東小学校区	7,298	3,699	3	770	▲6,528	▲2,929
八幡小学校区	4,637	1,215	14	10,010	5,373	8,795
都市計画区域	57,927	41,212	88	37,656	▲20,271	▲3,556
用途地域	36,363	32,638	49	22,526	▲13,837	▲10,112
居住誘導区域	28,097	25,232	40	21,496	▲6,601	▲3,736
都市機能誘導区域	12,808	6,440	15	2,290	▲10,518	▲4,150

右岸側の
校区で緊急避難場
所が不足

※人口（R2）は100mメッシュをGISで案分し計測・算出したため統計上の総人口とは一致しない

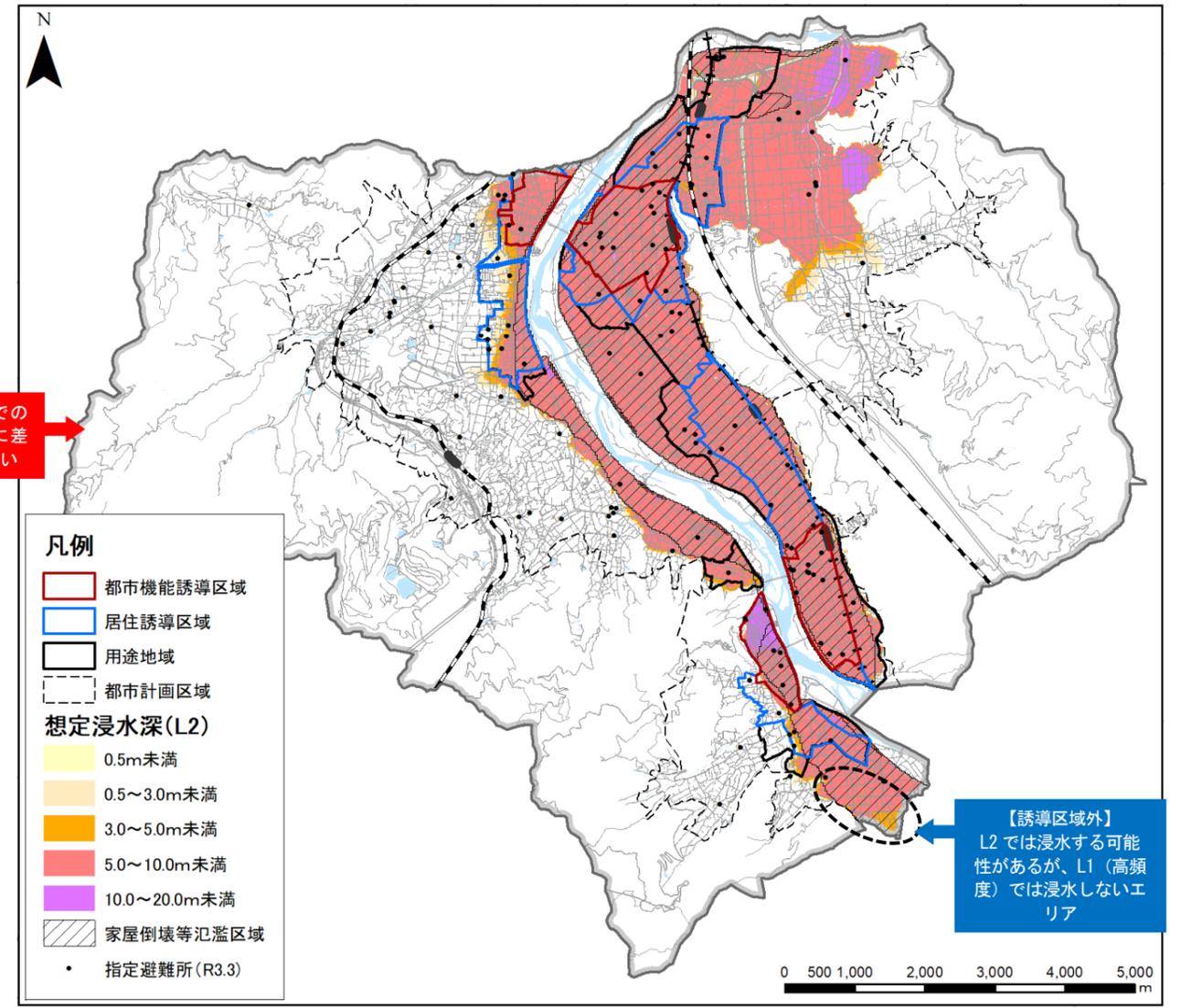
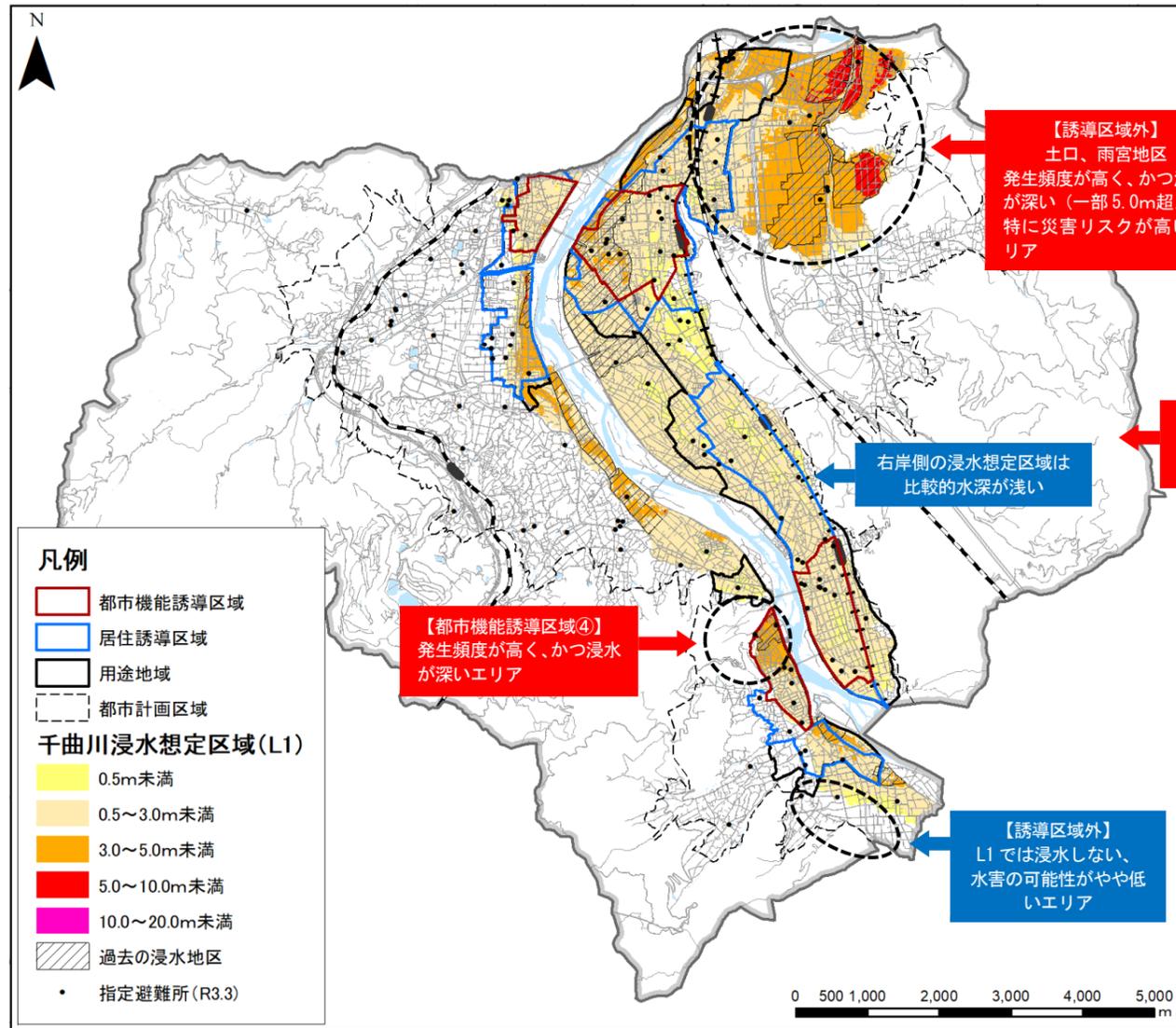
【ポイント】

- 千曲川沿い（特に右岸側）は洪水時に使用できない避難所が多く存在する
- 右岸側の全ての小学校区（屋代、戸倉、五加、埴生、東校小学校区）で避難所の収容人数が不足する可能性がある
- 左岸側の小学校区は避難所に比較的余裕がある

9. 水害 (L1とL2の比較)

【洪水想定エリア (L1、概ね100年に一度) と災害実績】

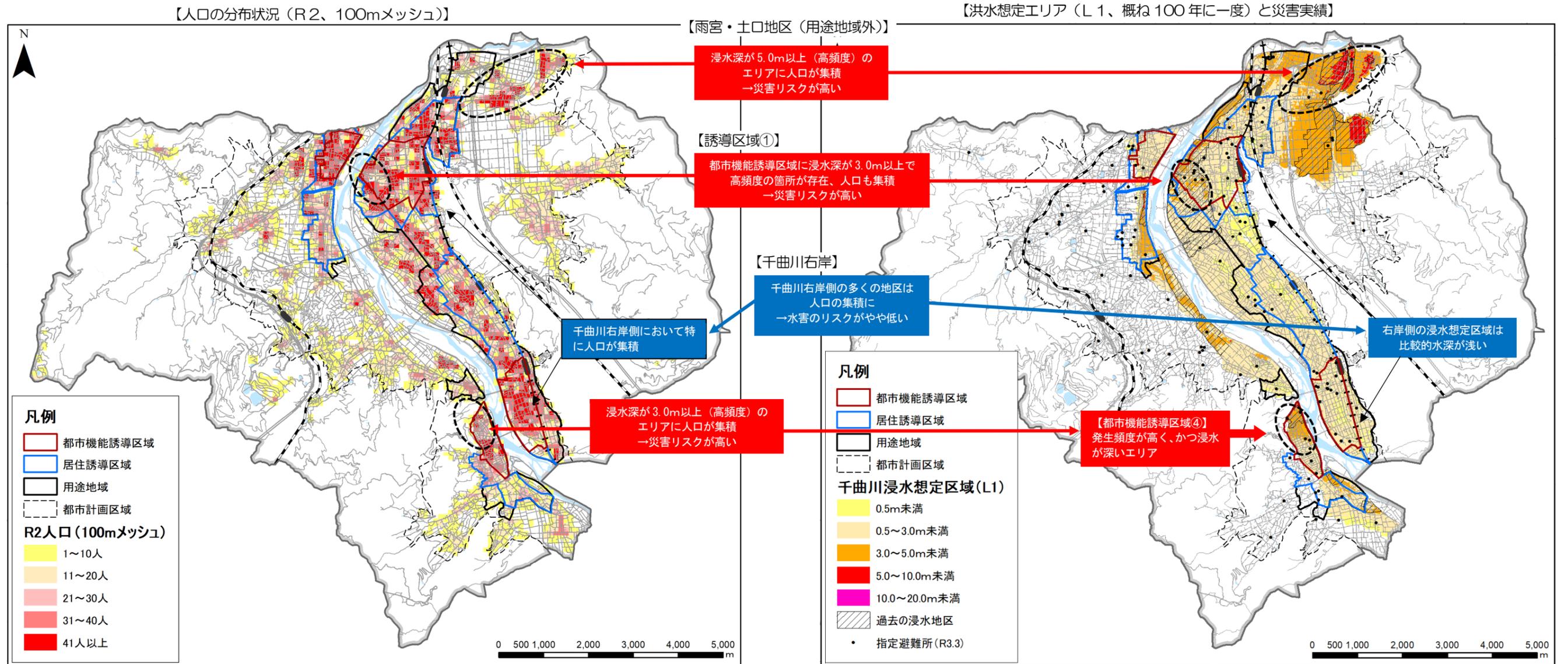
【洪水想定エリア (L2、概ね1000年に一度) と災害実績】



- L1(高頻度)の浸水エリアとL2(最大規模・低頻度)の浸水エリアにほとんど差はなく、浸水の深さに差がある程度である
- L1浸水想定区域のうち、千曲川右岸側は比較的水深が浅い
- 誘導区域④の北部では、都市機能誘導区域(居住誘導区域)内で発生頻度や浸水が深いエリアが存在する
- 土口地区や雨宮地区などの市北部では、発生頻度と浸水の深さが特に著しい、災害リスクが特に高いエリアと想定される

第5章. 災害リスクと都市情報の重ね合わせ

1. 人口×浸水想定区域 (L1)



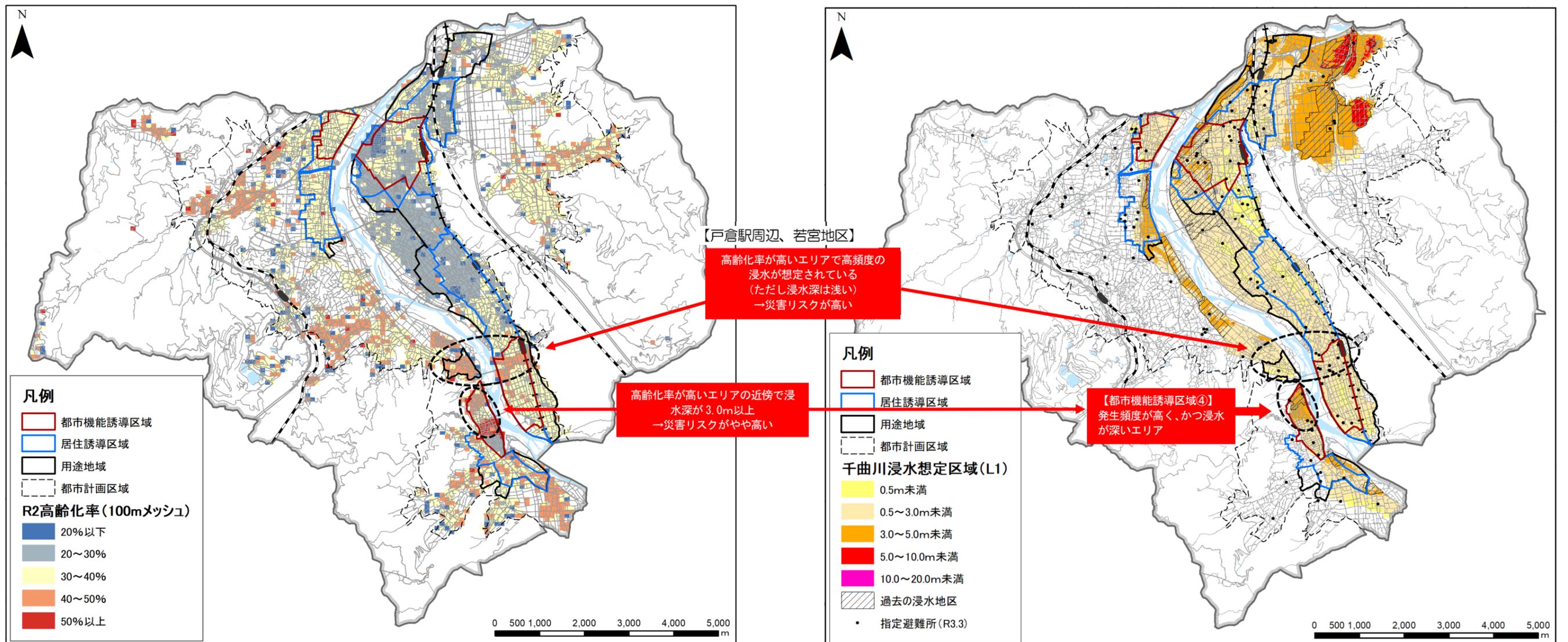
※出典：国勢調査 (R2)

- 都市機能誘導区域① (屋代駅周辺地区) の西側 (概ね市役所周辺) においては、浸水深が3.0mを超えるエリアに人口が集積しており、災害リスクが高い
- L1 浸水想定区域のうち千曲川右岸側では人口は多い一方、比較的水深が浅く、水害リスクはやや低い
- 都市機能誘導区域④ (戸倉・上山田温泉地区) の北部においては、人口が多く、かつ発生頻度や浸水が深いエリアが存在しており、災害リスクが高い
- 雨宮地区や土口地区などの市北部 (用途地域外) では、人口が集積している一方、発生頻度と浸水の深さが特に著しい、災害リスクが特に高いエリアと想定される

2. 高齢化率×浸水想定区域 (L1)

【高齢化率の状況 (R2、100mメッシュ)】

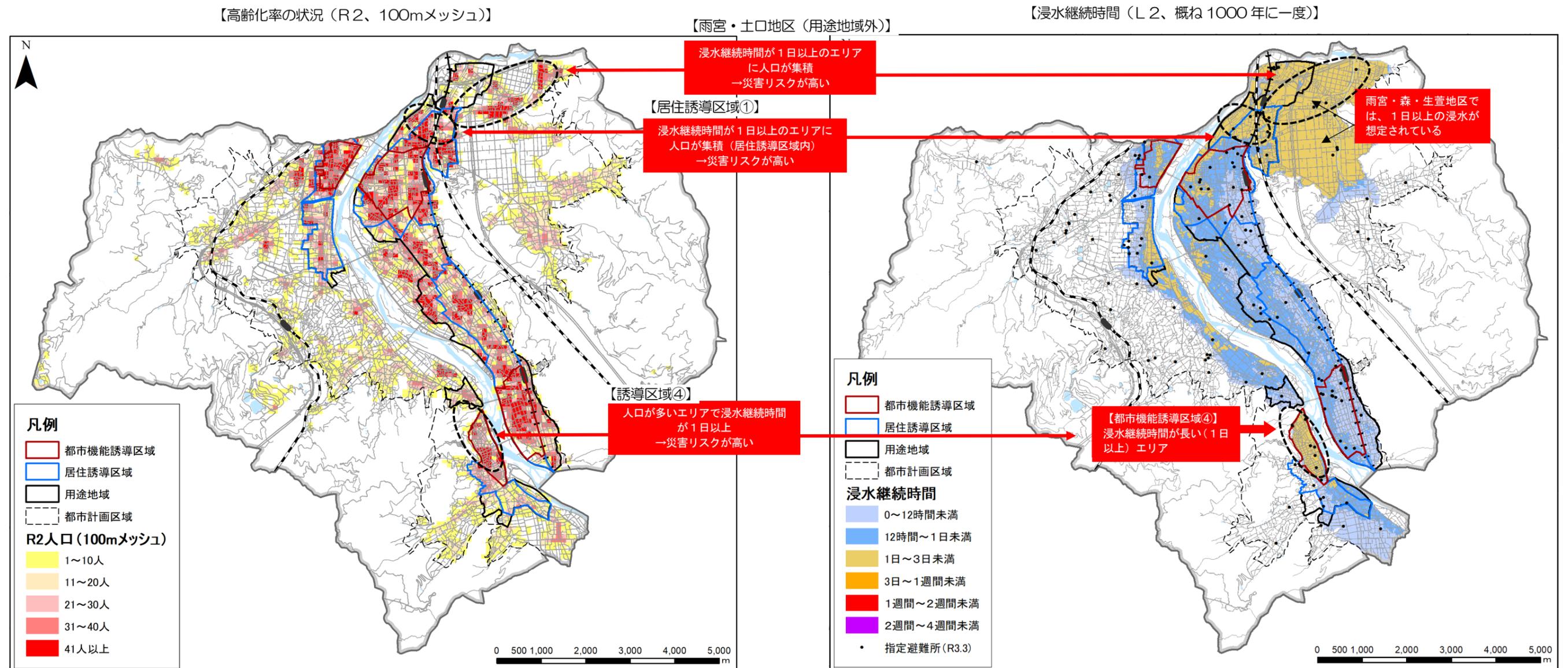
【洪水想定エリア (L1、概ね100年に一度)と災害実績】



※出典：国勢調査 (R2)

- 都市機能誘導区域④ (戸倉・上山田温泉地区) の北部においては、高齢化率が高く、かつ発生頻度や浸水が深いエリアが存在しており、災害リスクが高い
- 戸倉駅周辺や若宮地区においても、高齢化率が高く、かつ発生頻度や浸水が深いエリアが存在しており、災害リスクが高い

3. 人口×浸水継続時間 (L2)

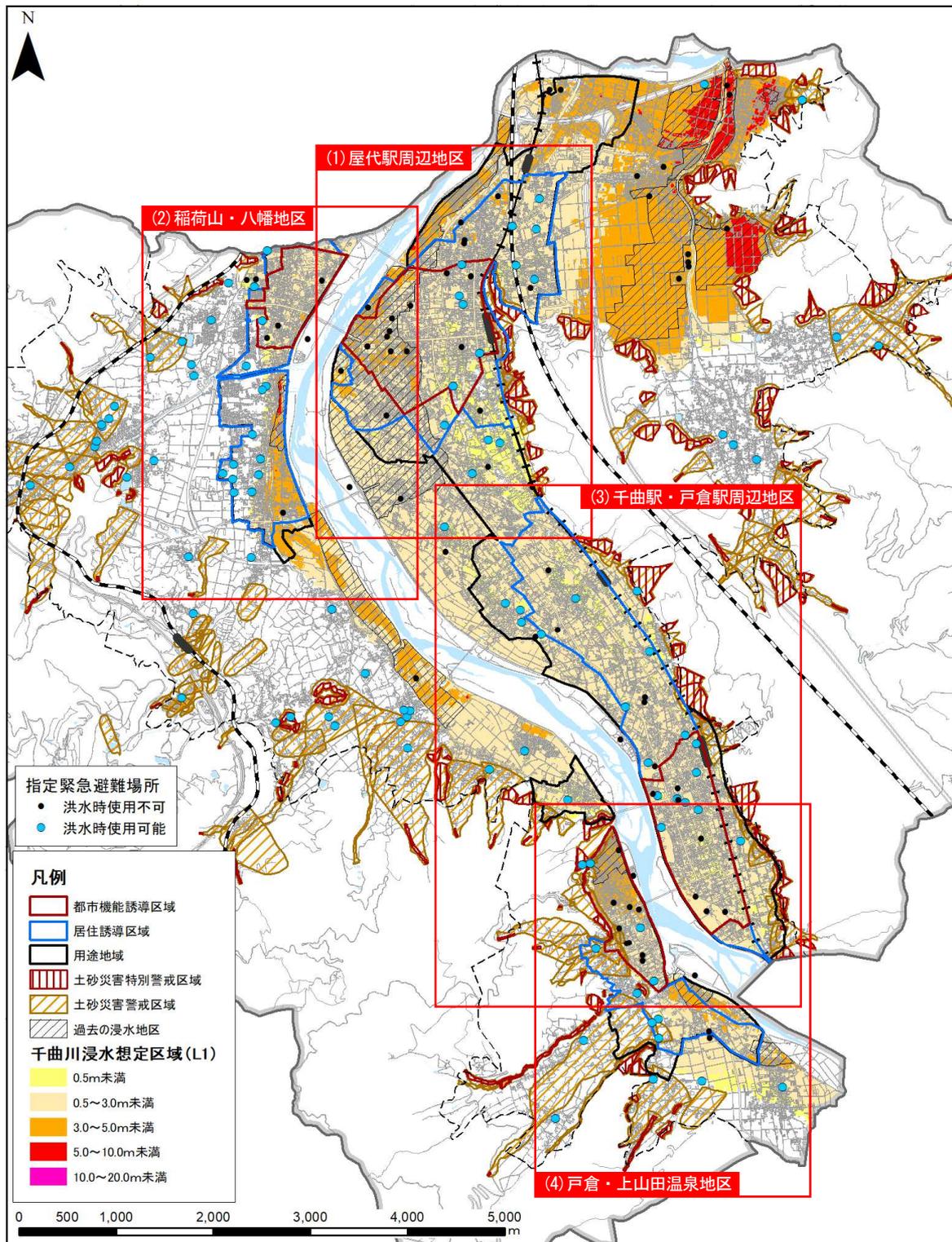


※出典：国勢調査 (R2)

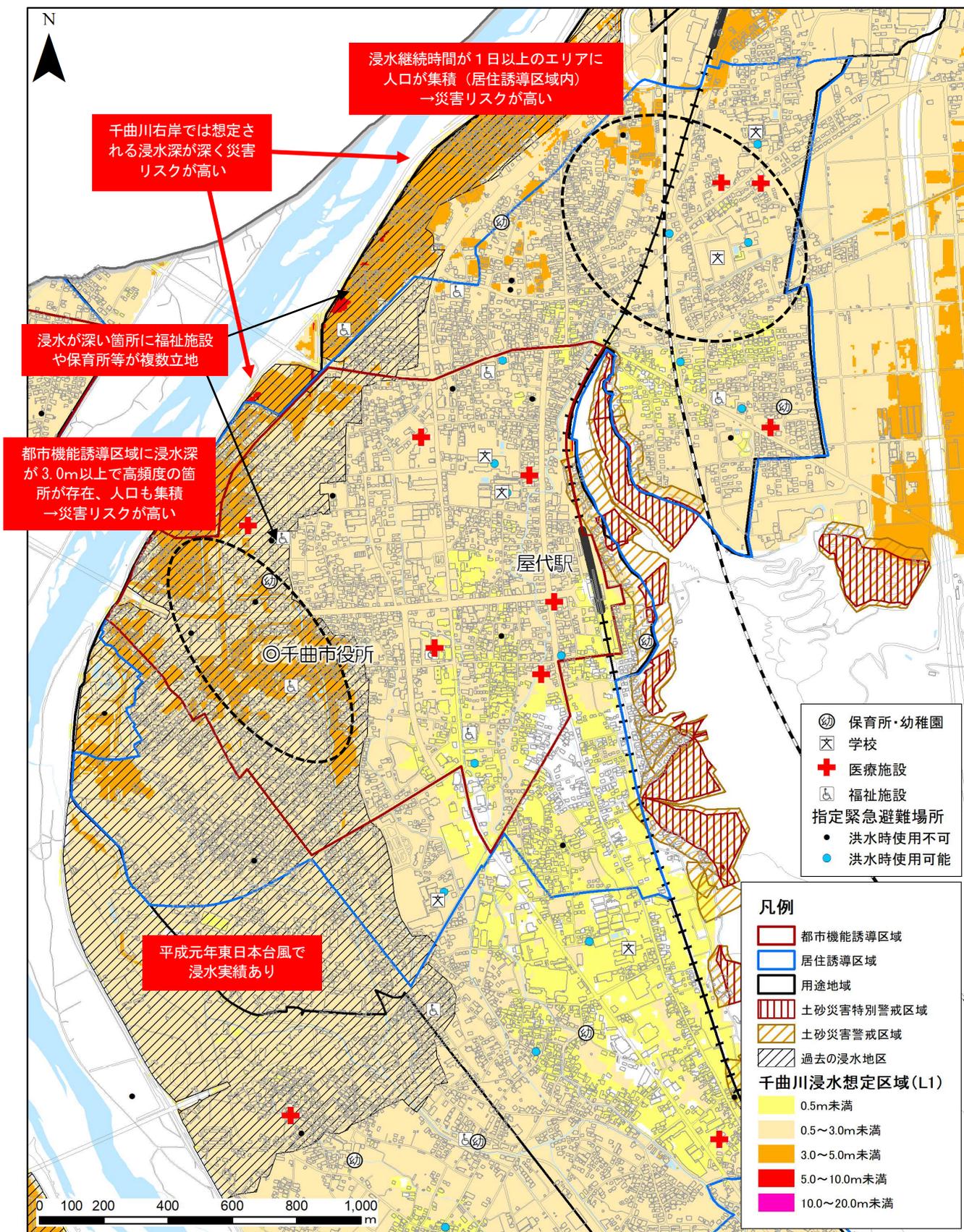
- 居住誘導区域① (屋代駅周辺地区) および都市機能誘導区域④ (戸倉・上山田温泉地区) では、人口が多いエリアに対して浸水継続時間が1日以上となるエリアが存在しており、災害リスクが高い。
- 雨宮地区や土口地区などの市北部 (用途地域外) では、人口が集積している一方、浸水継続時間が1日以上となるエリアが存在しており、災害リスクが高い。

4. 居住誘導区域毎のリスク分析

4つの誘導区域別の施設や災害リスクの重ね合わせたマイクロ分析を行います。分析する図郭は以下の4エリアとします。



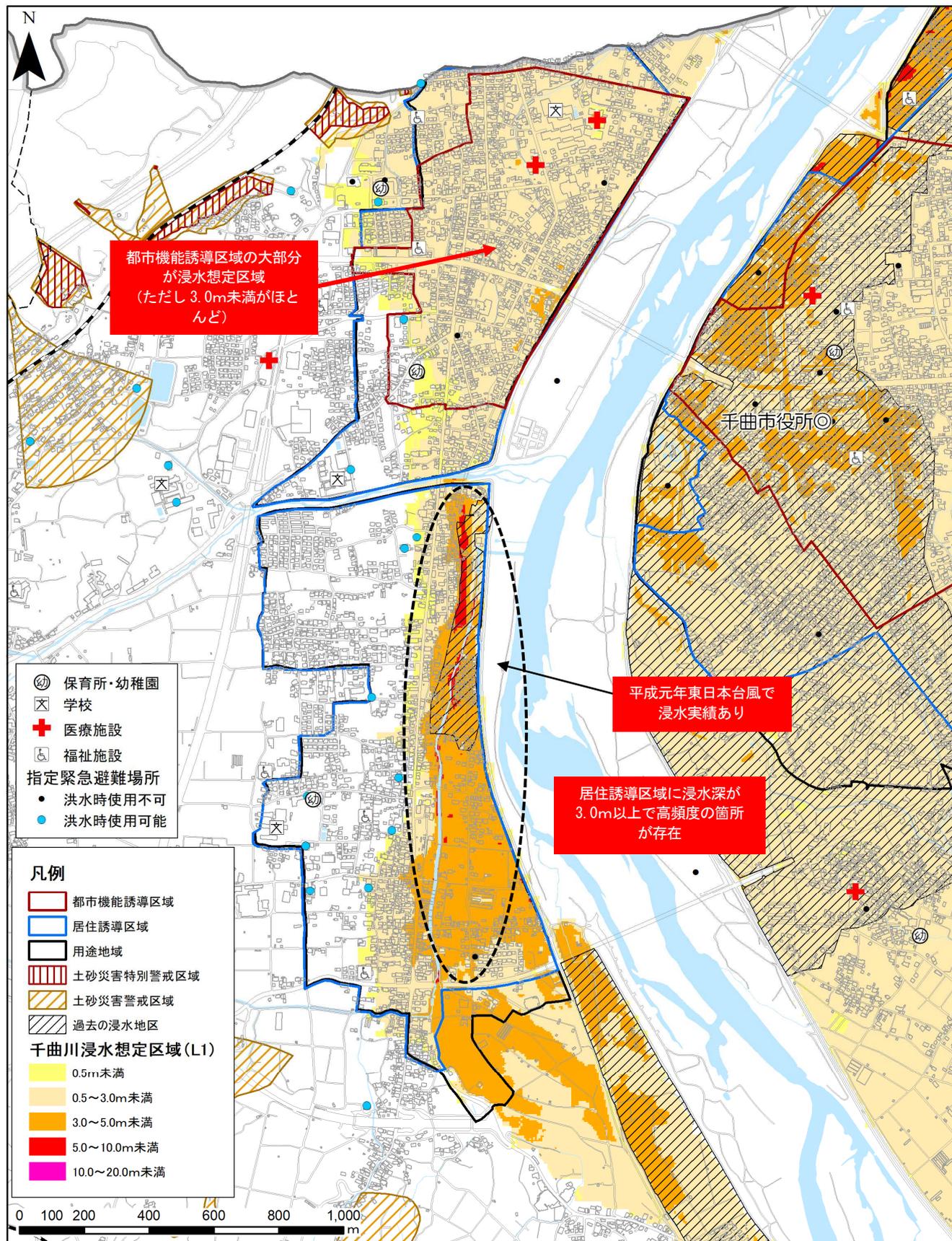
(1) 屋代駅周辺地区



【誘導区域の状況（前述のまとめ）】

人口、高齢化率	<ul style="list-style-type: none"> ・居住誘導区域内に市の全人口の20.8%（約12,000人）が居住する人口の集積地、人口も増加がみられている【P20～21】 ・高齢化率は28.1%と、他の誘導区域よりも低い（居住誘導区域平均：32.2%）【P24～25】
開発、空き家・空き地等の未利用地	<ul style="list-style-type: none"> ・開発行為は誘導区域の中で多くみられ、空き家は他の誘導区域よりも少ない【P30～31、34～35】
公共交通	<ul style="list-style-type: none"> ・屋代駅の利用は市内で最も多く、屋代駅～市役所のバスルートも比較的充実している【P36、38】
都市施設	<ul style="list-style-type: none"> ・商業施設や金融機関などの人口カバー率は他の誘導区域よりも高く、充実している【P40～43】 ・一部誘導区域西部（千曲川右岸）で浸水が深い箇所に福祉施設や保育所などが立地している【P46～47、50～51】
避難施設	<ul style="list-style-type: none"> ・誘導区域西部（千曲川右岸）は洪水時に使用できない避難場所が多く存在、使用できるのは東部に立地している施設のみ【P66～69】 ・屋代小校区や埴生小校区内に存在する避難場所はキャパシティが不足する可能性がある【P66～69】
ハザード （水害）	<ul style="list-style-type: none"> ・平成元年東日本台風では誘導区域の西部（千曲川右岸）の広範囲で浸水し、被害が発生【P57】 ・（L1）誘導区域内の全域が浸水想定区域となっており、西部で一部3.0m超えの箇所が存在【P60～61】 ・（L1）誘導区域の中央～東部においては、垂直避難が可能な3.0m未満の箇所も多い【P60～61】 ・（L2）誘導区域の全域が5.0m以上の浸水の可能性があり、家屋倒壊等氾濫区域が指定されている【P62～63】
ハザード （土砂災害）	<ul style="list-style-type: none"> ・居住誘導区域内では土砂災害はほぼ想定されていない（ちくま鉄道沿いの誘導区域の一部でイエローゾーンが指定されている）【P59】
人口 ×洪水ハザード	<ul style="list-style-type: none"> ・誘導区域の西部では浸水深3.0m以上（L1）で人口が集積しているエリアがあり、災害リスクが高い【P72】 ・誘導区域の北部人口が多いエリアに対して浸水継続時間が1日以上となるエリアが存在しており、災害リスクが高い【P76】

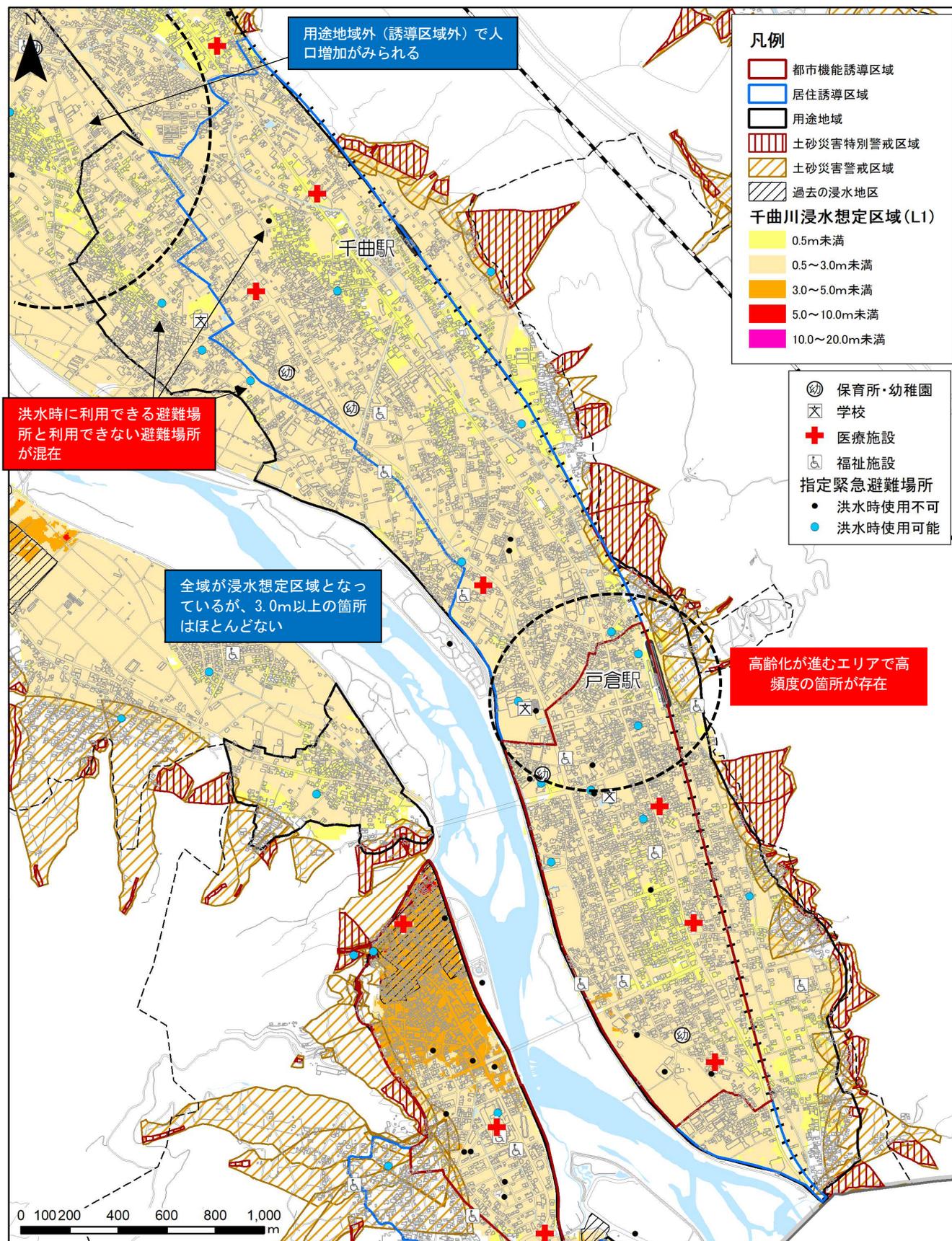
(2) 稲荷山・八幡地区



【誘導区域の状況（前述のまとめ）】

人口、高齢化率	<ul style="list-style-type: none"> ・居住誘導区域内に市の全人口の 10.3%（約 6,000 人）が居住、人口は減少傾向にある【P20～21】 ・高齢化率は 34.1%と、他の誘導区域よりもやや高い（居住誘導区域平均：32.2%）【P24～25】
開発、空き家・空き地等の未利用地	<ul style="list-style-type: none"> ・開発数や空き地が少なく、一方で空き家が多くなっており、土地に余裕がなく、建物や土地の流動化が進んでいないことがうかがえる【P30～35】
公共交通	<ul style="list-style-type: none"> ・屋代駅からは距離があるが、屋代駅～同地区までのバスルートは比較的充実している【P36】
都市施設	<ul style="list-style-type: none"> ・医療施設（特に誘導区域南部）のカバー率がやや低い【P44～45】
避難施設	<ul style="list-style-type: none"> ・治田小校区や八幡小校区の避難場所は、キャパシティに比較的余裕がある【P66～69】
ハザード（水害）	<ul style="list-style-type: none"> ・平成元年東日本台風では誘導区域の一部（千曲川左岸）で浸水し、被害が発生【P57】 ・(L1) 都市機能誘導区域のほぼ全域が浸水想定区域となっており、また居住誘導区域の一部（八幡地区）では 3.0m 超えの箇所が存在【P60～61】 ・(L1) 都市機能誘導区域（稻荷山地区）では垂直避難が可能な 3.0m 未満の箇所も多い【P60～61】 ・(L2) 誘導区域の半数程度のエリアで 5.0m 以上の浸水の可能性があり、また居住誘導区域（八幡地区）の一部では家屋倒壊等氾濫区域が指定されている【P62～63】
ハザード（土砂災害）	<ul style="list-style-type: none"> ・居住誘導区域内では土砂災害は想定されていない【P59】

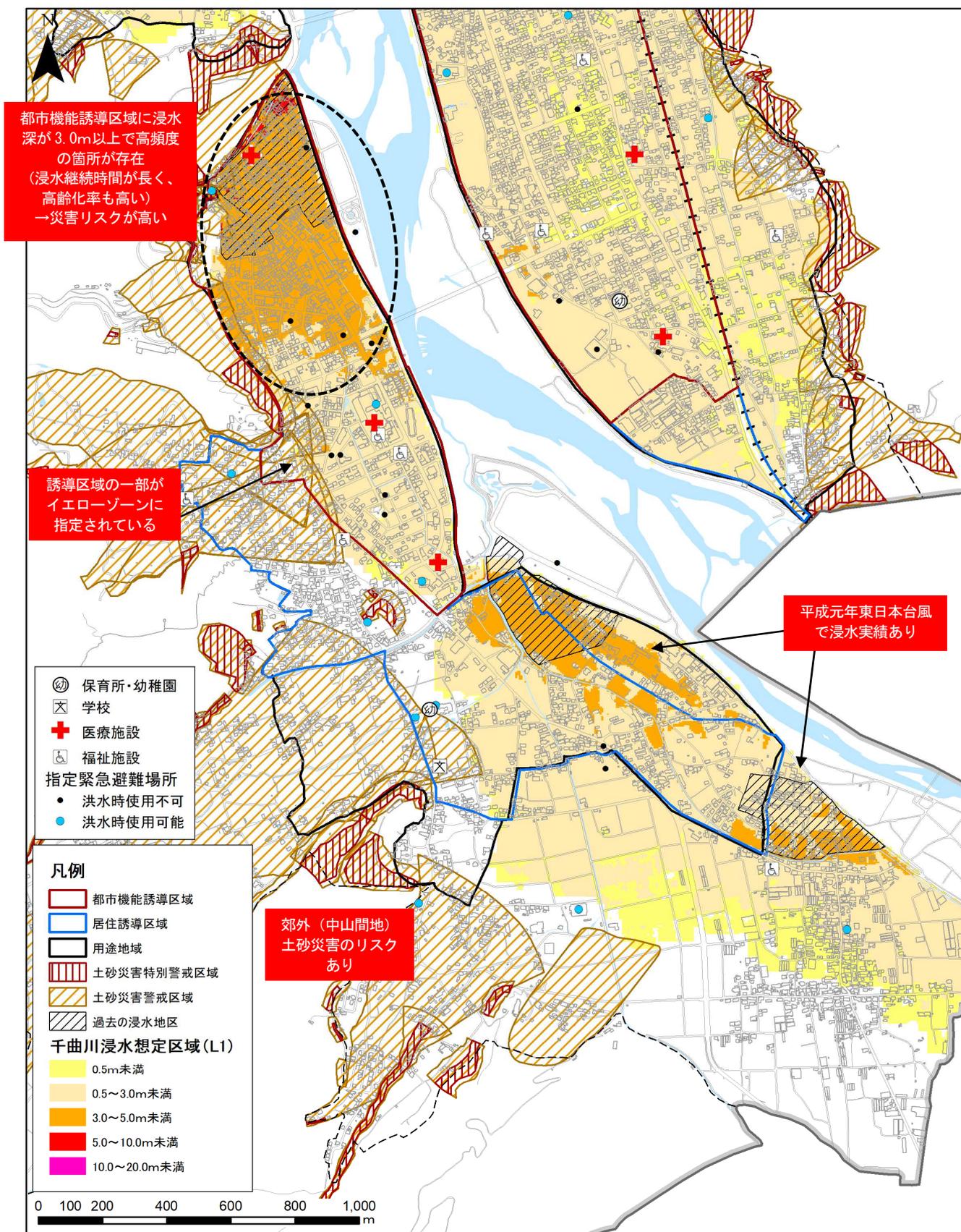
(3) 千曲駅・戸倉駅周辺地区



【誘導区域の状況（前述のまとめ）】

人口、高齢化率	<ul style="list-style-type: none"> ・居住誘導区域内に市の全人口の17.0%（約10,000人）が居住し、人口も増加がみられている【P20～21】 ・特に千曲駅前のエリアの人口増加が顕著【P22～23】 ・高齢化率は31.3%と平均的な状況（居住誘導区域平均：32.2%）【P24～25】
開発、空き家・空き地等の未利用地	<ul style="list-style-type: none"> ・開発行為は屋代駅周辺地区に次いで多く、一方で空き家は他の誘導区域よりも少ない【P30～31、34～35】
公共交通	<ul style="list-style-type: none"> ・千曲駅と戸倉駅が存在し、千曲駅は若干の増加傾向にある一方、戸倉駅は利用者の減少がみられる【P36、38】
都市施設	<ul style="list-style-type: none"> ・行政関連施設や文化施設の人口カバー率がやや低い【P48～49、52～53】
避難施設	<ul style="list-style-type: none"> ・誘導区域内に洪水時に使用できない避難場所と使用できる避難場所が混在している【P66～69】 ・五加小校区や戸倉小校区内に存在する避難場所はキャパシティが不足する可能性がある【P66～69】
ハザード（水害）	<ul style="list-style-type: none"> ・（L1）誘導区域内の全域が浸水想定区域となっているが、垂直避難が可能な3.0m未満の箇所が大半である【P60～61】 ・（L2）誘導区域の全域が5.0m以上の浸水の可能性があり、家屋倒壊等氾濫区域が指定されている【P62～63】
ハザード（土砂災害）	<ul style="list-style-type: none"> ・居住誘導区域内では土砂災害はほぼ想定されていない【P59】
高齢化×洪水ハザード	<ul style="list-style-type: none"> ・一部高齢化が進むエリアで高頻度の浸水想定区域となっており、災害リスクが高い【P74】
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・千曲駅の整備により、千曲駅と屋代駅間のエリア（一部誘導区域外、用途地域外）での開発がみられており、人口も増加している【P22～23】

(4) 戸倉・上山田温泉地区



【誘導区域の状況（前述のまとめ）】

人口、高齢化率	<ul style="list-style-type: none"> ・居住誘導区域内に市の全人口の6.3%（約3,700人）が居住し、人口は若干の増加がみられている【P20～21】 ・高齢化率は45.0%と非常に高く、高齢化が進行している（居住誘導区域平均：32.2%）【P24～25】
開発、空き家・空き地等の未利用地	<ul style="list-style-type: none"> ・開発行為は比較的少なく、空き地は他の誘導区域よりも多い【P30～31、34～35】 ・開発圧力が他地域よりもやや低いことがうかがえる【P30～31】
公共交通	<ul style="list-style-type: none"> ・戸倉駅からのバス交通（循環バス）が運行されている【P36】
都市施設	<ul style="list-style-type: none"> ・教育施設等の人口カバー率が低い【P50～51】
避難施設	<ul style="list-style-type: none"> ・誘導区域内の避難場所は洪水時に使用できないものが多いが、郊外等に利用できる場所が複数存在しているため、上山田小校区では避難場所のキャパシティはある程度充足していると考えられる【P66～69】
ハザード（水害）	<ul style="list-style-type: none"> ・（L1）誘導区域内の大部分が浸水想定区域となっており、3.0m以上の箇所も多くみられるなど、災害リスクが高い【P60～61】 ・（L2）誘導区域の全域が5.0m以上、一部では10.0m以上の浸水の可能性があり、家屋倒壊等氾濫区域もほぼ全域で指定されているなど、災害リスクが非常に高い【P62～63】
ハザード（土砂災害）	<ul style="list-style-type: none"> ・都市機能誘導区域、居住誘導区域内の一部に土砂災害のイエローゾーンとなっている【P59】 ・誘導区域外の中山間地では、土砂災害のリスクが存在する【P59】
高齢化 ×洪水ハザード	<ul style="list-style-type: none"> ・一部高齢化が進むエリアで高頻度の浸水想定区域となっており、災害リスクが高い【P74】

